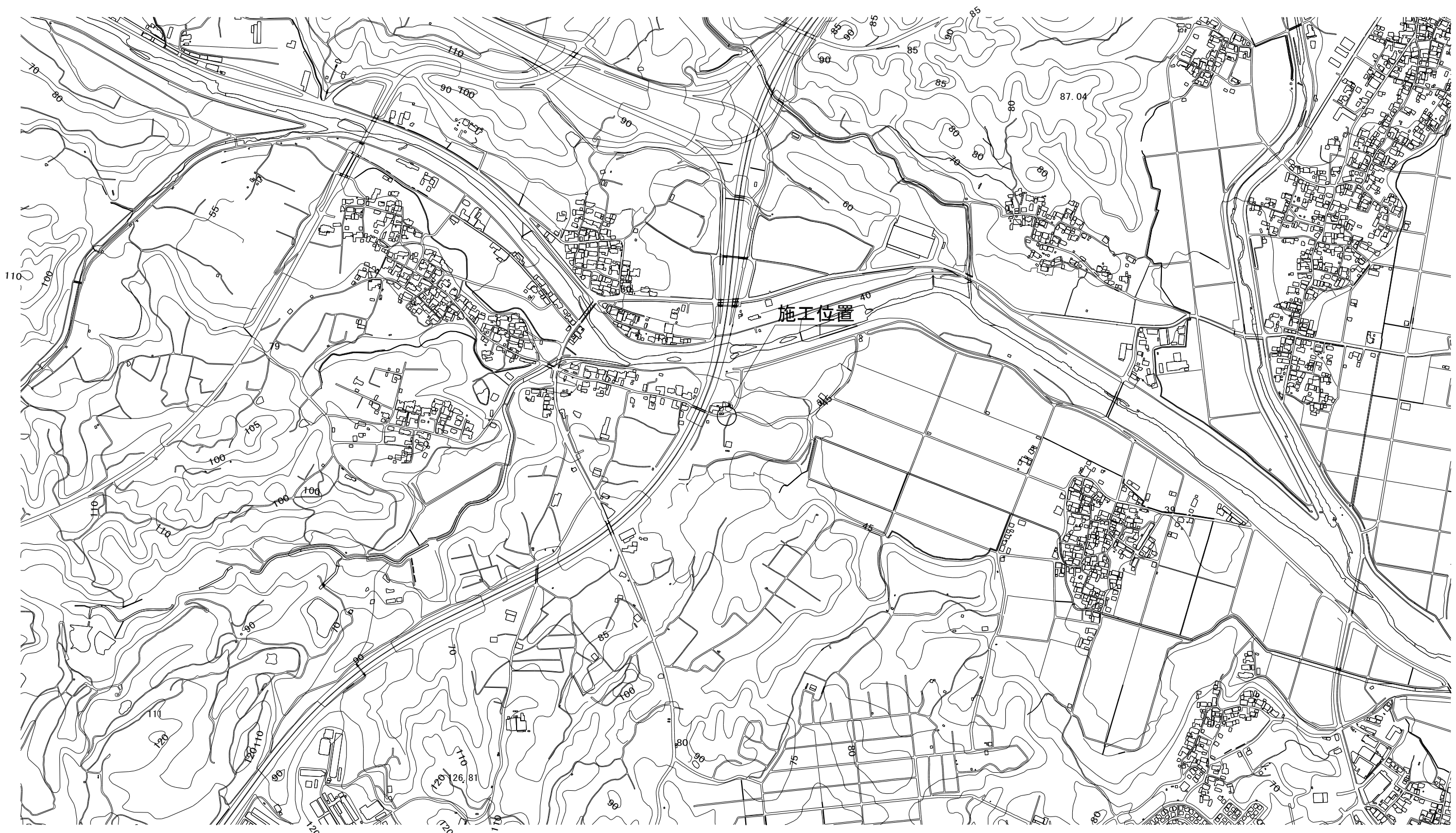


令和5年度

辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室

建築工事

亀山市



工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	位置図		
縮尺	1:5000	図面番号	A-1
事業者名	亀山市		

4 地業工事 (続き)	孔壁の超音波測定 ・ 行う ・ 行わない 帯筋の加工及び組立 ・ 図示 (図面番号:) 鉄筋の最小かぶり厚さ () mm 鉄筋かごの補強 ・ 図示 (図面番号:) 継手 ・ 重ね継手 ・ () コンクリートの種類 ・ A種 ・ B種 (表4.5.1) 設計基準強度 () N/mm ² セメントの種類 ・ 高炉セメントB種 ・ () スランプ (cm) ・ 18 ・ () 構造体強度補正值 (S) ・ 3N/mm ² ・ ()
	13 地盤改良 ・ ()工法 ・ 六価クロム溶出試験 ・ 室内配合試験 ・ 一軸圧縮試験
	④ 砂及び砂利地業 (4.6.2) (4.6.3) 砂利 ○再生クラッシュラン ・ 切込砕石 ・ () 砂 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 ・ () 施工範囲 ・ 図示 (図面番号:) 厚さ (mm) ○ 60 ・ () ・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。
	⑤ 捨コンクリート地業 (4.6.4) 厚さ (mm) ○ 50 ・ () 施工範囲 ・ 図示 (図面番号:) ・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。
	16 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5) 施工範囲 ・ 図示 (図面番号:) ポリエチレンフィルム厚さ ・ 0.15mm以上 ・ () ・ 防湿層の重ね幅、基礎梁へののみみ込みは、250mm以上とする。

5 鉄筋工事	① 鉄筋 (5.2.1)	① 鉄筋の種類 <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○SD295A</td> <td>○D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD295B</td> <td>・ ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SD345</td> <td>○D19以上</td> <td></td> </tr> </table> ・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの	種類の記号	径	備考	○SD295A	○D16以下		・SD295B	・ ()		○SD345	○D19以上	
	種類の記号	径	備考											
	○SD295A	○D16以下												
	・SD295B	・ ()												
	○SD345	○D19以上												
	2. 溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm) ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ () 寸法 (mm) ・ 100×100 ・ 150×150 ・ ()												
	3. 内法直径 (5.3.2)	90° 未満の折曲げの内法直径 ・ 図示 (図面番号:)												
	④ 継手 (5.3.4)	<table border="1"> <tr> <th></th> <th>径</th> <th>部位</th> </tr> <tr> <td>○重ね継手</td> <td>D16以下</td> <td>下記以外</td> </tr> <tr> <td>○ガス圧接</td> <td>D19以上</td> <td>柱・梁主筋</td> </tr> </table> 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ・ 標準仕様書[5.3.4](3)(7) ○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物)) 継手位置 ・ 各部配筋参考図による ○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物)) 鉄筋定着 ・ 標準仕様書[表5.3.4] ○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物)) ・ 標準仕様書[図5.3.3] ○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物))		径	部位	○重ね継手	D16以下	下記以外	○ガス圧接	D19以上	柱・梁主筋			
	径	部位												
○重ね継手	D16以下	下記以外												
○ガス圧接	D19以上	柱・梁主筋												
⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) (表5.3.6)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ 標準仕様書[表5.3.6] ○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物))													
⑥ 各部配筋 (5.3.7)	○ 図示 (構造細目共通図(建築構造物)、雑配筋図)													
⑦ 圧接完了後の試験 (5.4.10)	抜取試験方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験方法 ・ 標準仕様書[5.4.10](4)(b) ・ ()													
8. 機械式継手及び溶接継手 (5.5.2) (5.6.3)	・ 機械式継手 適用箇所 () 種類 () 性能 () 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置 () 鉄筋相互のあき ()mm ・ 溶接継手 適用箇所 () 工法 () 性能 () 施工完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置 () 鉄筋相互のあき ()mm													

6 コンクリート工事	① コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度 (6.2.1~4)	○普通コンクリート ※構造細目共通図(建築構造物)による 設計基準強度 (N/mm ²) スランプ 適用箇所 ・ 24 ・ ・
	・ 軽量コンクリート (6.2.1~3) (6.10.1.2)	設計基準強度 (N/mm ²) 種類 気乾単位容積質量 (t/m ³) スランプ 適用箇所 ・ 24 ・

7 鉄骨工事	② コンクリートの類別 (6.2.1) (表6.2.1)	類別 ※ I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) ・ 大臣認定品 図示 (図面番号:)
	③ コンクリートの仕上り (6.2.5) (表6.2.4) (表6.2.5)	合板せき板を用いる場合の打直し仕上げの種類 ・ A種 ○ B種 ・ C種 仕上りの平たんさ ○ a種 ・ b種 ・ c種
	④ セメント (6.3.1) (表6.3.1)	種類 ※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種 シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種 ・ () 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:)
	⑤ 骨材 (6.3.1)	アルカリシリカ反応性による区分 ・ AL (コンクリート中のアルカリ総量を規制) ※ A (安全と認められる骨材を使用) なお、ALで規制できない場合はAとし、その試験は、施工着手前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、誹責者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 鋼スラグ細骨材 ・ 電気伊酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材 H (普通エコセメントを使用するコンクリートに限る)
	⑥ コンクリートの材料 (6.3.1) (表6.3.2)	混和材料 ・ 図示 (図面番号:) 混和剤の種類、使用方法、使用量 ○ 標準仕様書 [6.3.1] (4) (a)、標準仕様書 [6.3.2] (4) (f) ・ () 混和剤の種類、使用方法、使用量 ○ 標準仕様書 [6.3.1] (4) (b)、標準仕様書 [6.3.2] (4) (f) ・ () 構造体強度補正值 (S) ○ 標準仕様書 [表6.3.2] ・ ()
	⑦ 打継ぎ (6.6.4)	位置 ○ 標準仕様書 [6.6.4] (1) ・ 図示 (図面番号:)
	⑧ 養生 (6.7.2)	・ 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間 ()
	⑨ 型枠 (6.6.4) (6.8.1) (6.8.2) (表6.8.1)	材料 ○ 複合合板 (厚さ (mm) ○ 12 ・ () ・ () 打直し厚さ ○ 図示 (図面番号:) 誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地の位置、形状及び寸法 ○ 図示 (図面番号:) ・ 断熱材の使用 ・ MCR工法用シート スリーブの材質、規格等 ○ 標準仕様書 [表6.8.1] ・ 図示 (図面番号:) 型枠存置期間及び取外し ・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間 ()
	10 寒中コンクリート (6.11.1)	適用期間 () ・ 調合管理強度、調合強度を積算温度を基に定める
	11 暑中コンクリート (6.12.2)	構造体強度補正值 (S) ・ 6 N/mm ² ・ ()
	12 マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2) (表6.13.1)	適用箇所 ・ 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 中熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ シリカセメント
	⑬ 無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類 ○ 普通コンクリート ・ () 適用箇所 標準仕様書 [6.14.1] ・ 上記以外の適用箇所 () 設計基準強度 ・ 18 (N/mm ²) ・ () (N/mm ²) スランプ ・ 15cm ・ 18cm
	14 流動化コンクリート (6.15.1)	適用箇所 ・ 図示 (図面番号:)

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 鉄骨製作工場 (7.1.3) (7.1.4)	(株) 日本鉄骨評価センター又は (株) 全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ J ・ R ・ M ・ H ・ S
	2 施工管理技術者 (7.1.4)	・ 配置する
	3 鋼材 (7.2.1) (表7.2.1)	種類、形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)
	4 高力ボルト (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2) (7.4.7)	種類 ・ トルシア形高力ボルト (S10T) ・ JIS形高力ボルト2種 (F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種 (F8T相当) ・ () 高力ボルトのねじの呼び ・ 図示 (図面番号:) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示 (図面番号:) すべり試験の試験方法 ・ () JIS形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合 ・ 回転量 ()
	5 普通ボルト (7.2.3) (表7.2.3) (7.3.2)	ボルト及びナットの材料等、ボルトのねじの呼び ・ 図示 (図面番号:) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示 (図面番号:)
	6 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2) (7.4.2) (7.12.5)	摩擦面の処理 ・ プラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・ りん酸塩処理 すべり試験の試験方法 ・ () ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示 (図面番号:)
	7 アンカーボルト (7.2.4) (表7.2.3) (7.3.2) (7.10.3) (表7.10.1)	種類 構造用 ・ SNR400B ・ () 建方用 ・ SS400 ・ () 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み ・ A種 ・ B種 アンカーボルト及びナットのねじの公差クラス及び仕上げの程度 ・ 標準仕様書 [表7.2.3] ・ 図示 (図面番号:) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示 (図面番号:)
	8 溶接材料 (7.2.5)	材料 ・ 標準仕様書 [7.2.5] (1) (2) 以外の溶接材料 ()
	9 ターンバックル (7.2.6)	種類及びねじの呼び等 ・ 図示 (図面番号:) 建築用ターンバックル鋼 ※ 割付式 ・ () 建築用ターンバックルボルト ※ 羽子板ボルト ・ ()
	10 デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)	材質、形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:) 溶接方法 ・ 図示 (図面番号:)
	11 スタッ (7.2.8)	種類等 ・ 図示 (図面番号:)
	12 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)	柱底均しモルタルの工法、厚み ・ A種 ()mm ・ B種 ()mm 無収縮モルタルの材料及び調合 ・ 標準仕様書 [7.2.9] (2) ・ ()
	13 材料試験等 (7.2.10)	板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 JIS G 9001により行う
	14 ボルトの孔径 (7.3.8)	普通ボルトの孔径 (母屋又は胴縁の取付け) ・ ねじの呼び径 ± 10mm ・ ()
	15 仮組 (7.3.10)	・ 行わない ・ 行う 仮組を行う範囲 ・ 図示 (図面番号:)
	16 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	溶接作業の技量付加試験 ・ 行わない ・ 行う
	17 溶接部の開先 (7.6.4)	開先の形状 ・ 図示 (図面番号:)

18 溶接施工 (7.6.7)	鋼製エンドタブの切除 ・ 適用及び切断範囲 図示 (図面番号:) 切断面の仕上げ ・ 標準仕様書 [7.6.7(a)(b)] ・ 図示 (図面番号:)																																						
	鋼製エンドタブに代わる他の工法 鋼製エンドタブに代わる他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方を満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。 1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。 2. 製作工場が J、R、M グレードの場合は、溶接技能者が NPO 法人日本エンドタブ協会による図形タブに係るエンドタブ施工講習終了者 (溶接技能者 A 級以上) 又は A 級鑑定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場が H、S グレードの場合は溶接技能者が A 級鑑定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 図示 (図面番号:) スカラップの形状 ・ 図示 (図面番号:)																																						
	試験の種類 溶接部の外観試験方法 ・ () ・ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・ ()																																						
	<table border="1"> <tr> <th>溶接区分</th> <th>AQCL (%)</th> <th>検査水準</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td></td> <td></td> <td>・ 全数試験</td> </tr> <tr> <td>工場溶接</td> <td>・ 2.5 ・ 4.0</td> <td>6</td> <td></td> </tr> </table>	溶接区分	AQCL (%)	検査水準	備考	現場溶接			・ 全数試験	工場溶接	・ 2.5 ・ 4.0	6																											
	溶接区分	AQCL (%)	検査水準	備考																																			
	現場溶接			・ 全数試験																																			
	工場溶接	・ 2.5 ・ 4.0	6																																				
	耐火被覆材の接着する面への塗装 塗装範囲 図示 (図面番号:) 種類 ・ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] () 種 ・ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.2] () 種 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 塗装範囲 図示 (図面番号:) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製リブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] () 種																																						
	<table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>工法</th> <th>耐火性能 (7.9.2) (7.9.3)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	部位	種類	材料	工法	耐火性能 (7.9.2) (7.9.3)																																	
	部位	種類	材料	工法	耐火性能 (7.9.2) (7.9.3)																																		
20 錆止め塗装 (7.8.2) (7.8.4)	耐火被覆材の接着する面への塗装 塗装範囲 図示 (図面番号:)																																						
21 耐火被覆 (7.9.2) (7.9.3)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製リブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] () 種																																						
22 軽量形鋼 (7.11.2)	接合部 (ボルト接合の場合) ・ 普通ボルト接合 ・ ()																																						
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造 (8.2.2) (8.2.3) (8.2.5) (8.2.8) (表8.2.1)	種類 ・ 空洞ブロック16 ・ 図示 (図面番号:) 正味厚さ、モジュール呼び寸法 ・ 図示 (図面番号:) 各部の配筋 ・ 図示 (図面番号:) モルタルの調合 ・ 標準仕様書 [8.2.3] ・ () モルタル又はコンクリートの充填範囲 ・ 図示 (図面番号:)																																					
	2 コンクリートブロック幅壁及び壁 (8.3.2) (8.3.3) (8.3.4) (8.3.7) (表8.3.1)	ブロックの種類 ・ 標準仕様書 [表8.3.1] ・ 図示 (図面番号:) 正味厚さ、モジュール呼び寸法、ブロックの厚さ ・ 図示 (図面番号:) モルタルの調合 ・ 標準仕様書 [8.2.3] ・ () 化粧 ・ 有り ・ 無し 壁の厚さ H ≤ 2.0m ・ 120mm ・ () H > 2.0m ・ 150mm ・ () 各部の配筋 ・ 図示 (図面番号:) モルタル又はコンクリートの充填範囲 ・ 図示 (図面番号:)																																					
	3 ALCパネル (8.4.2) (8.4.3) (8.4.4) (表8.4.2) (8.4.5) (表8.4.3)	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位荷重 (N/mm²)</th> <th colspan="3">呼び寸法</th> <th rowspan="2">構法</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> </tr> <tr> <th>厚さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>長さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 外壁パネル</td> <td>・ ()</td> <td>・ 100 ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td>・ () 時間 ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>・ 間仕切り壁パネル</td> <td>・ ()</td> <td>・ 100 ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ C種 ・ E種 ・ D種</td> <td>・ () 時間 ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>・ 屋根パネル</td> <td>・ ()</td> <td>・ 100 ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ () ・ ()</td> <td>・ F種</td> <td>・ () 時間 ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>・ 床パネル</td> <td>・ ()</td> <td>・ 100 ・ 120 ・ 150</td> <td>・ () ・ () ・ ()</td> <td>・ () ・ () ・ ()</td> <td>・ F種</td> <td>・ () 時間 ・ 無し</td> </tr> </table> パネル幅を300mm以下とする部分 ・ 適用あり 外壁、屋根及び床パネル構法 風圧力に対応した工法 ・ 適用あり パネル幅幅小口相互の伸縮目地幅 (mm) ・ () 出隅、入隅等の取合い部の伸縮目地幅 (mm) ・ () 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・ 適用する (材料:)	区分	単位荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	・ 外壁パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ A種 ・ B種	・ () 時間 ・ 無し	・ 間仕切り壁パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ C種 ・ E種 ・ D種	・ () 時間 ・ 無し	・ 屋根パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ F種	・ () 時間 ・ 無し	・ 床パネル	・ ()	・ 100 ・ 120 ・ 150	・ () ・ () ・ ()	・ () ・ () ・ ()	・ F種
区分	単位荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能																																	
		厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)																																			
・ 外壁パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ A種 ・ B種	・ () 時間 ・ 無し																																	
・ 間仕切り壁パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ C種 ・ E種 ・ D種	・ () 時間 ・ 無し																																	
・ 屋根パネル	・ ()	・ 100 ・ ()	・ () ・ ()	・ () ・ ()	・ F種	・ () 時間 ・ 無し																																	
・ 床パネル	・ ()	・ 100 ・ 120 ・ 150	・ () ・ () ・ ()	・ () ・ () ・ ()	・ F種	・ () 時間 ・ 無し																																	

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	建築工事特記仕様書(2)		
縮尺	—	図面番号	A-3
事業者名	亀山市		

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板 (ECP)

種類	表面形状及び原料区分	板厚 (mm)	間仕幅 (mm)	工法
・外壁パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	・ ()	・ ()	・ A種 ・ B種
・間仕切壁パネル	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	・ ()	・ ()	・ B種 ・ C種

パネル幅を300mm以下とする部分 ・ 適用あり
 パネル相互の目地幅 (mm)
 ・ 長辺 8以上、短辺 15以上 ()
 出隅、入隅の接合部の伸縮調整目地幅 (mm) ・ 15 ・ ()
 目地及び隙間の処理 ()
 外壁パネル構法
 風圧力に対応した工法 ・ 適用あり
 間仕切壁パネル構法
 パネルに穴き込みを行う場合
 パネル開口の限度 ・ 図示 (図面番号:)

9 防水工事

1 アスファルト防水 (9.2.2) (9.2.3) (表9.2.3) ~ (表9.2.8)

種別	施工箇所

改質アスファルトルーフィングシート
 種類 ・ 標準仕様書 [表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()
 厚さ ・ 標準仕様書 [表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()
 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート
 種類 ・ 標準仕様書 [表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()
 厚さ ・ 標準仕様書 [表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()
 絶縁用シート
 ・ ポリエチレンフィルム (厚さ 0.15mm以上)
 ・ フラットヤーンクロス (70g/m²)
 押え金物
 ・ アルミ製 L-30×15×2.0 (mm) ・ 図示 (図面番号:)
 断熱材
 ・ 屋根保護防水断熱工法
 種類 () 厚さ () mm
 ・ 屋根露出防水断熱工法
 種類 () 厚さ () mm

屋根保護防水 (表9.2.3) ~ (表9.2.6)
 立ち上がり部の保護コンクリート ・ 図示 (図面番号:)
 乾式保護材 ・ 使用する
 立ち上がり部保護れんが ・ JIS R 1250 ・ ()

脱気装置 (表9.2.7)
 ・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()

屋根露出防水における仕上塗料 (表9.2.7) (表9.2.8)
 ・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()

屋内防水密着工法における保護層 (表9.2.9)
 ・ 図示 (図面番号:)
 E-1の工程3 ・ 行う ・ 行わない

防水層の下地モルタル塗り (9.2.4)
 ・ 図示 (図面番号:)
 立ち上がりのコンクリート打放し仕上げの種別
 種類 ・ B種 ・ ()

屋根露出防水絶縁断熱工法 (9.2.4)
 ルーフドレン回り及び立ち上がり部周辺断熱材の張りじまい位置
 ・ 図示 (図面番号:)

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1) ~ (表9.3.3)

種別	施工箇所

改質アスファルトシート
 種類 ・ 標準仕様書 [表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・ 図示 ()
 厚さ ・ 標準仕様書 [表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・ 図示 ()
 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート
 種類 ・ 標準仕様書 [表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・ 図示 ()
 厚さ ・ 標準仕様書 [表9.3.1] ~ [表9.3.3] ・ 図示 ()
 押え金物の材質、形状、寸法
 ・ アルミニウム製 L-30×15×2.0 (mm) ・ ()
 仕上塗料
 ・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()

③ 合成高分子系ルーフィングシート防水

脱気装置
 ・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()
 断熱材
 ・ 屋根露出防水絶縁断熱工法
 種類 () 厚さ () mm
 防湿用シートの設置 ・ 有り ・ 無し

種別	施工箇所
S-M2	屋根

ルーフィングシート
 種類 ○標準仕様書 [表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・ 図示 ()
 厚さ ○標準仕様書 [表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・ 図示 ()
 絶縁用シート
 ・ 発砲ポリエチレンシート ・ ()
 固定金具 材質、寸法形状 ()
 ○ 図示 (屋根詳細図)
 断熱材 種類、厚さ
 ・ 機械的固定工法 図示 (図面番号:)
 ・ 接着工法 図示 (図面番号:)

仕上塗料
 ・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()
 接着工法における脱気装置
 ・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()
 防湿用フィルムの設置 ・ 有り ・ 無し
 S-M2又はS1-M2で立上りを接着工法
 立ち上がり面のシート厚さ ・ 1.5mm ・ () mm
 屋内保護密着工法
 モルタル塗り厚さ ・ () mm
 立ち上がり部の保護モルタル塗り厚さ ・ 7mm以下 ・ () mm
 目地処理
 PC下地 ・ 図示 (図面番号:)
 増張り (S-F1、S1-F1)
 PC入隅部 ・ 図示 (図面番号:)
 機械的固定工法
 風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

4 塗膜防水 (9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2)

施工箇所	種別
	X-1
	X-2
	Y-1
	Y-2

脱気装置 (X-1)
 ・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()
 防水層の工数及び各工程の使用量 (Y-1、Y-2)
 ・ 製造所の仕様による ・ ()
 保護層 (Y-2) ・ 図示 (図面番号:)
 仕上塗料
 ・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()

5 ケイ酸質系塗布防水 (9.6.1) (9.6.3) (9.6.4) (表9.6.1) (表9.6.2)
 適用部位 ・ 図示 (図面番号:)
 防水層の種別 ・ C-UI ・ C-UP
 防水層の下地
 壁及び天井部の仕上げ ・ コンクリート打放し仕上げ (B種) ・ 図示 (図面番号:)
 下地処理 ・ 標準仕様書 [9.6.4] (2) ・ ()

⑤ シーリング (9.7.2) (9.7.3) (表9.7.1)
 ・ 標準仕様書 [表9.7.1]による

施工箇所	目地寸法	種類
建具廻り	図示	図示
打継目地・化粧目地	図示	図示

接着性試験 (9.7.5)
 ・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

10 石工事

1 共通 (10.1.3) (10.1.5)

2 天然石 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)

使用部位	種類 (名称)	等級	寸法 (mm)	表面仕上げ	工法	形状
床		※ 2等 ・ 1等		・ 粗磨き ・ ()		
壁		・ 1等		・ 水磨き ・ ()		

ジェットバーナー仕上げ面 ・ 手加工あり ・ 機械加工バフ仕上げあり

テラゾタイル (10.2.1) (表10.2.2)

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上
	・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 300型 ・ 400型	・ ()

テラゾブロック

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上
	・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面	・ ()	・ ()

4 その他の材料 (10.2.3)

取付用モルタル ・ 図示 (図面番号:)
 目地用モルタル ・ 図示 (図面番号:)
 石裏面処理材 ・ 図示 (図面番号:)
 裏打ち処理材 ・ 図示 (図面番号:)
 金物の固定に使用する充填材料 ・ 図示 (図面番号:)

5 外壁湿式工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3)

受け金物の材質、形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)
 アンカーの材質及び寸法 ・ SS400 M12 ・ ()
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()
 ドレンパイプの材質
 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ
 ・ ()
 石材の有効厚さ ・ 25mm以上 ・ ()
 石裏面処理 ・ 適用する
 裏打ち処理 ・ 適用する
 下地ごしらえ
 ※ 流し筋工法 ・ あと施工アンカー工法
 ・ あと施工アンカー横筋流し工法
 目地 一般目地
 目地幅 (mm) ※ 6以上 ・ ()
 伸縮調整目地
 位置 ・ 標準仕様書 [表11.1.1] ・ 図示 (図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ※ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)

6 内壁空積工法 (10.2.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3)

受け金物の材質、形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)
 アンカーの材質及び寸法 ・ SS400 M12 ・ ()
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()
 石材の有効厚さ ・ 20mm以上 ・ ()
 下地ごしらえ
 ※ あと施工アンカー・横筋流し工法 ・ あと施工アンカー工法
 目地 一般目地
 目地幅 (mm) ・ 6以上 ・ ()
 伸縮調整目地
 位置 ※ 6mごと ・ 図示 (図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ※ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)

7 乾式工法 (10.2.2) (表10.2.4) (10.5.2) (10.5.3)

金物の種類、形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)
 ・ 標準仕様書 (表10.2.4)
 取り付け工法
 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式
 アンカーの材質及び寸法 ・ SS304 M10 ・ ()
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()
 石材の有効厚さ ・ 30mm以上 (外壁) ・ 25mm以上 (内壁) ・ ()
 たばね穴の位置 ・ 図示 (図面番号:)
 石裏面処理 ・ 適用する
 裏打ち処理 ・ 適用する
 風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)
 目地
 目地幅 (mm) ※ 8以上 ・ ()
 シーリング材 ・ 適用する

8 床及び階段の石張り (10.3.3) (10.6.2) (10.6.3)

石材の厚さ ・ ()
 石裏面処理 ・ 適用する
 目地 一般目地
 目地幅 (mm) ・ 屋内4mm以上、屋外3~6mm
 ・ 図示 (図面番号:)
 伸縮調整目地
 位置 ・ 標準仕様書 [10.6.2] (5) (f) (a)
 ・ 図示 (図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)

9 アーチ、上げ裏等の石張り (10.2.2) (10.3.3) (10.7.1) (10.7.2)

取付け金物 ・ 標準仕様書 [10.2.2] (3) ・ ()
 吊金物及び化粧吊りボルト
 ・ 設ける
 吊金物 ※ ステンレス (SUS304) 径6mm長さ80mm (加工物) ・ ()
 吊りボルト ※ ステンレス (SUS304) M10 化粧ナット付き ・ ()
 アンカーの材質及び寸法 ・ SS304 M10 ・ ()
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()
 取付工法 ・ 外壁湿式工法 ・ 内壁空積工法 ・ 乾式工法
 石材の厚さ ・ ()
 石裏面処理 ・ 適用する
 裏打ち処理 ・ 適用する
 目地 一般目地
 目地幅 (mm) ・ 6以上 ・ ()
 伸縮調整目地
 位置 ・ 図示 (図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)

10 笠木、甲板等 (10.2.2) (10.3.3) (10.5.3) (10.7.1) (10.7.3)

取付け金物 ・ 標準仕様書 [10.2.2] (3) ・ ()
 アンカーの材質及び寸法 ・ SS304 M10 ・ ()
 あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()
 取付工法 ・ 外壁湿式工法 ・ 内壁空積工法 ・ 乾式工法
 石材の厚さ ・ ()
 石裏面処理 ・ 適用する
 取付け代 (乾式工法の場合) (mm)
 ・ 標準仕様書 [10.5.3] (2) ・ ()
 石裏の補強用モルタル (乾式工法の場合)
 ・ 適用する 図示 (図面番号:)
 目地 一般目地
 目地幅 (mm) ・ ()
 伸縮調整目地 (外壁湿式工法の場合)
 位置 ・ 図示 (図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)
 石材の厚さ ※ 40mm ・ () (10.7.4)

11 タイル工事 (11.1.3)

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
 位置 ・ 標準仕様書 [表11.1.1]
 ・ 図示 (図面番号:)

2 タイル張り (11.2.2) (11.2.3) (表11.2.3) (11.3.2) (11.3.4) (表11.3.2)

タイルの種類・工法

施工箇所	工法	種類	形状寸法	耐滑り性	うぐすすり	役物	標準	耐凍害性

・ 役物 ()
 ・ 試験張りを行う
 ・ 見本焼きを行う
 ・ 既モルタル調査 ()

セメントモルタル塗り又は有機系接着剤あと張り工事 (11.2.7) (11.3.7)
 コンクリート素地面の処理 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:)
 ・ 目貫し工法 ・ MCR工法
 有機系接着剤あと張り工事
 シーリング材
 打継、ひび割れ誘発目地 ※ PU-2 ・ ()
 伸縮、その他目地 ※ MS-2 ・ ()

12 木工事 (12.1.4) (表12.1.1) (表12.1.2) (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1)

1 木材
 見え掛り部の表面仕上げ
 機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種
 適用箇所 ()
 手加工 内部造作材 ※ H-B種 ・ H-A種 ・ H-C種
 下地材 ※ H-C種 ・ H-A種 ・ H-B種

木材の含水率

部材名称	種別
下地材	※ A種 ・ B種
造作材	※ A種 ・ B種

樹種 ・ 図示 (図面番号:)

2 製材 (12.2.1) (2) (7)

「製材の日本農林規格」による製材

	樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質	産産材
下地用	・ 図示 ()	・ ()				
針葉樹製材	()					
造作用	・ 図示 ()	・ ()				
針葉樹製材	()					
広葉樹製材	・ 図示 ()	・ ()	・ 10%以下			

「製材の日本農林規格」以外の製材 (12.2.1) (2) (4) (表12.2.2)
 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率
 ・ 図示 (図面番号:)
 造作材の材面の品質 ※ A種 ・ ()
 樹種

部位	樹種	産産材

3 集材等 (12.2.1)

造作用集材
 「集材の日本農林規格」による造作用集材

造作用集材	品名・樹種・寸法 見付け材面数	品質	化粧薄板厚さ
	・ 図示 (図面番号:)	※ 1等 ・ ()	
化粧ばり造作用集材	・ 図示 (図面番号:)	※ 1等 ・ ()	
化粧ばり構造用集材	・ 図示 (図面番号:)		

「集材の日本農林規格」以外の造作用集材
 樹種、寸法、化粧薄板の厚さ及び含水率
 ・ 図示 (図面番号:)

工事名	刃込寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃込寺地内		
図面の種類	建築工事特記仕様書 (3)		
縮尺	—	図面番号	A-4
事業者名	亀山市		

12 木工事 （構造）	4 単板積層材 (12.2.1)	「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 品名、寸法、表面の品質及び防虫処理 ・ 図示（図面番号： ） 「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理 ・ 図示（図面番号： ）
	5 直交集成材 (12.2.1)	「直交集成材の日本農林規格」による直交集成材 品名、曲げ強度（強度等級）、種別、接着性能（使用環境）、樹種、寸法 ・ 図示（図面番号： ）
	6 合板等 (12.2.1)	構造用合板の強度等級 ・ 図示（図面番号： ） 特殊加工化粧合板の化粧加工方法 ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 ・ （ ） パーティクルボード 表裏面の状態、曲げ強度、耐水性、難燃性による区分、厚さ等 ・ 図示（図面番号： ） ミディアムデンシティーファイバーボード（MDF） 表裏面の状態、曲げ強度、接着剤、難燃性による区分、厚さ等 ・ 図示（図面番号： ）
7 接合具等 (12.2.2) (表12.2.3) ~ (表12.2.5)	造材材の化粧面の釘打ち ・ 隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ つぶし頭釘打ち ・ 釘頭現し 種金属の形状、寸法、材質 ・ 図示（図面番号： ）	
8 防蟻・防蟻 ・ 防虫処理 (12.3.1) (12.3.2)	防蟻・防蟻処理 薬剤加圧注入 適用部材、保存処理性能区分 ・ 図示（図面番号： ） 薬剤の塗布等 処理方法 ・ 標準仕様書[12.3.1](f)(b) ・ （ ） 附属書A（規定）に基づく表面処理用木材保存剤による処理 薬剤の種類、適用部材 ・ 図示（図面番号： ） 薬剤の接着剤への混入 ・ （ ） 合板等の加圧注入 ・ （ ） 防虫処理 ・ （ ）	

13 屋根及びとい工事	1 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) (表13.2.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>屋根葺形式</th> <th>材種</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>下葺の種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板</td> <td>・ 0.4</td> <td>・ アスファルトルーフィング940</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示（図面番号： ） 雪止め ・ 図示（図面番号： ）</p>	屋根葺形式	材種	厚さ (mm)	下葺の種類	備考		・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板	・ 0.4	・ アスファルトルーフィング940													
	屋根葺形式	材種	厚さ (mm)	下葺の種類	備考																			
	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板	・ 0.4	・ アスファルトルーフィング940																					
2 折板葺 (13.2.2) (13.3.3) (表13.2.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>緊結方法</th> <th>板厚 (mm)</th> <th>山の高さ (mm)</th> <th>山のピッチ (mm)</th> <th>耐力区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ 重ね形</td> <td>・ 0.8</td> <td>・ 90</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 0.6</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ はせ締め形</td> <td colspan="2">・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板</td> <td></td> <td>・ あり</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ ()</td> <td></td> <td>・ なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>屋内のタイトフレーム 材料 ・ () 断熱材 種別 ・ ガラス繊維シート ・ () 厚さ (mm) ・ 5 ・ () 防火性能 ・ () 風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示（図面番号： ） けらば納め ・ けらば包み ・ ()</p>	緊結方法	板厚 (mm)	山の高さ (mm)	山のピッチ (mm)	耐力区分	・ 重ね形	・ 0.8	・ 90	・ ()	・ ()	・ 0.6	・ ()	・ ()	・ ()	・ はせ締め形	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板			・ あり	・ ()			・ なし
緊結方法	板厚 (mm)	山の高さ (mm)	山のピッチ (mm)	耐力区分																				
・ 重ね形	・ 0.8	・ 90	・ ()	・ ()																				
	・ 0.6	・ ()	・ ()	・ ()																				
・ はせ締め形	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板			・ あり																				
	・ ()			・ なし																				

13 屋根及びとい工事	3 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>大きさ</th> <th>産 地</th> <th>役物の種類</th> <th>横の工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>凍害試験 ・ 行う ・ 行わない 雪止め瓦 ・ 使用する 瓦根木の材種、寸法 ・ 杉（防蟻処理） 21×15 ・ () 棟補強用心材の材質、寸法 ・ 杉（防蟻処理） 40×30 ・ () 棟補強等に使用する金物の材質、形状、寸法、留付け方法 ・ 図示（図面番号： ） 下葺材の種類 ・ () 風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示（図面番号： ） 棟木の留付け工法 ・ 図示（図面番号： ） 横の工法 ・ 標準仕様書[13.4.3](4) ・ 図示（図面番号： ）</p>	種 類	大きさ	産 地	役物の種類	横の工法					
	種 類	大きさ	産 地	役物の種類	横の工法							
4 とい (13.5.2) (表13.5.1) (表13.5.2) (13.5.3) (表13.5.4)	材種 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（カラー） ・ 配管用鋼管（白管） ・ () 耐蝕被覆鋼板 材質等 ・ () 受金物及び足金物の材種、形状、取付け間隔 ・ 図示（図面番号： ） 軒といの取付け間隔（多雷地域） ・ 0.5m以下 ・ () 鋼管製といの防露巻工法 ・ 標準仕様書[表13.5.4] ・ ()											

14 金属工事	① ステンレス (14.2.1)	表面仕上げ ※ HL仕上げ ・ ()							
	2 アルミニウム (14.2.2) (表14.2.1)	表面処理の種類 ・ AB-1 ・ AB-2 ・ AC-1 ・ AC-2 ・ BA-1 ・ BA-2 ・ BB-1 ・ BB-2 ・ BC-1 ・ BC-2 常温乾燥形の塗装 ・ () 陽極酸化被膜の着色方法 ※ 二次電解着色 ・ () 陽極酸化被膜の色合い等 ・ ()							
	3 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2)	亜鉛めっきの種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種							
	4 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2) (表14.4.1) (14.4.3) (表14.4.2) (14.4.4)	野縁などの種類 屋内 ※ 19形 ・ () 屋外 ※ 25形 ・ () 屋外の野縁受等の間隔 ・ 図示（図面番号： ） 吊りボルトの補強方法（@900mm超） ・ 図示（図面番号： ） 吊りボルトの水平補強、斜め補強 ・ 1.5≦天井ふところ≦3.0m ・ 標準仕様書[14.4.4](8) ・ 図示（図面番号： ） ・ 天井ふところ>3.0m 図示（図面番号： ） ・ 耐震天井 図示（図面番号： ） ・ 耐風圧の補強 図示（図面番号： ）							
	5 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) (表14.5.1) (14.5.4)	スタッド、ランナーの種類 ・ 標準仕様書[表14.5.1] ・ 図示（図面番号： ） スタッドの高さ5m超 ・ 図示（図面番号： ） 出入口、開口部の補強 ・ 標準仕様書[14.5.4](4) ・ ()							
	6 金属成形板張り (14.6.2) (14.6.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種 別</th> <th>形 状</th> <th>表面処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼</td> <td>・ スパンドレル形 ・ パネル形</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>取付け用下地 ・ 図示（図面番号： ） 長尺ものにおける伸縮調整継手 ・ 設ける 図示（図面番号： ）</p>	施工箇所	種 別	形 状	表面処理		・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼	・ スパンドレル形 ・ パネル形
施工箇所	種 別	形 状	表面処理						
	・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼	・ スパンドレル形 ・ パネル形	・						

14 金属工事	7 アルミニウム製笠木 (14.7.2) (14.7.3) (表14.7.1)	部材の種類 ・ 250形 ・ 300形 ・ 350形 表面処理 ・ () 風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示（図面番号： ）												
	8 手すり (14.8.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>表面処理の種類</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム</td> <td>・ 標準仕様書[表14.2.1]の種別(種) ・ ()</td> <td>・ スロープ ・ 階段</td> </tr> <tr> <td>鋼</td> <td>・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種) ・ ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ステンレス</td> <td>・ HL程度 ・ ()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材種	表面処理の種類	施工箇所	アルミニウム	・ 標準仕様書[表14.2.1]の種別(種) ・ ()	・ スロープ ・ 階段	鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種) ・ ()		ステンレス	・ HL程度 ・ ()	
	材種	表面処理の種類	施工箇所											
	アルミニウム	・ 標準仕様書[表14.2.1]の種別(種) ・ ()	・ スロープ ・ 階段											
	鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種) ・ ()												
	ステンレス	・ HL程度 ・ ()												
⑨ トラップ (14.8.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>表面処理の種類</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼</td> <td>・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ステンレス</td> <td>◎ SUS304 HL</td> <td>ハンドホール</td> </tr> </tbody> </table>	材種	表面処理の種類	施工箇所	鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種)		ステンレス	◎ SUS304 HL	ハンドホール				
材種	表面処理の種類	施工箇所												
鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種別(種)													
ステンレス	◎ SUS304 HL	ハンドホール												
10 天井見切縁	材種 ・ アルミニウム合金製 ・ 塩化ビニル製													
11 点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取付箇所</th> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 天井</td> <td>・ アルミニウム製</td> <td>・ 450角 ・ 600角</td> <td>・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ</td> </tr> <tr> <td>・ 床</td> <td>・ アルミニウム製</td> <td>・ 450角 ・ 600角</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	取付箇所	材種	寸法	形式	・ 天井	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角		
取付箇所	材種	寸法	形式											
・ 天井	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ											
・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角												

15 左官工事	1 ラス系下地 (15.2.4)	通気工法 ・ 二層下地 ・ 単層下地 直張り工法 ・ ラスモルタル下地 ・ ラスシートモルタル下地 ラス及び補強用プラス <table border="1"> <thead> <tr> <th>素材による区分</th> <th>種類</th> <th>質量 (kg/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>ラスシート <table border="1"> <thead> <tr> <th>山高</th> <th>山ピッチ (mm)</th> <th>質量 (kg)</th> <th>溶接ピッチによる区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </tbody> </table> </p>	素材による区分	種類	質量 (kg/m ²)	・ ()	・ ()	・ ()	山高	山ピッチ (mm)	質量 (kg)	溶接ピッチによる区分	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()
	素材による区分	種類	質量 (kg/m ²)													
	・ ()	・ ()	・ ()													
山高	山ピッチ (mm)	質量 (kg)	溶接ピッチによる区分													
・ ()	・ ()	・ ()	・ ()													
2 セッコウボード (15.2.5)	せッコウボード、せッコウラスボードの種類、厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ () 木質系セメント板の種類、厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ ()															

15 左官工事	3 こまい下地 (15.2.6)	耐力壁の指定 ・ 図面（図面番号： ）																																																																						
	4 木ずり下地 (15.2.7)	木ずり用小幅板の樹種 ・ 図示（図面番号： ）																																																																						
15 左官工事	⑤ モルタル塗り (15.3.2) (15.3.5)	材料 ◎ 現場調合材料 ○ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する 図示（図面番号： ） 床の目地 ・ 図示（図面番号： ） 下地モルタル、下地調整塗材の接着剤試験（外壁タイル張り等） ・ 実施する																																																																						
	6 セルフレベリング (15.5.2) (表15.5.1)	種類 ・ セッコウ系 ・ セメント系																																																																						
15 左官工事	⑦ 仕上塗材仕上 (15.6.2) (表15.6.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>呼 び 名</th> <th>仕 上 形 状</th> <th>工 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">薄付仕上塗材</td> <td>・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 内装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状ジュラク</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">厚付け仕上塗材</td> <td>・ 外装厚塗材C</td> <td>スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし</td> <td>・ 吹付け ・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ 外装厚塗材Si</td> <td>スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし</td> <td>・ 吹付け ・ こて ・ ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">複層仕上塗材</td> <td>・ 複層塗材RE</td> <td>・ ゆず肌状 ・ 凸部処理</td> <td>・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材RE</td> <td>・ 凸部処理</td> <td>◎ 吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軽量骨材仕上塗材</td> <td>・ 吹付け軽量塗材</td> <td>・ 砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ こて塗用軽量塗材</td> <td>・ 平たん状</td> <td>・ こて</td> </tr> </tbody> </table> <p>内装薄塗材、内装厚塗材（吸放湿性を有するもの） ・ JIS A 6909 調湿形 複層仕上塗材の耐候性 ※ 耐候形3種 ・ () 外装厚塗材Cの上塗材 ・ セメントスタック以外の場合 材所要量(kg/m²)</p> <p>複層仕上塗材の上塗材の種類 (表15.6.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹 脂 種 類</th> <th>溶 媒 種 類</th> <th>外 観</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・ アクリル系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ シリカ系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ ポリウレタン系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">◎ アクリルシリコン系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>◎ 艶有 ◎ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ ふっ素系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	呼 び 名	仕 上 形 状	工 法	薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク	・ ()	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	・ 吹付け ・ こて	・ 外装厚塗材Si	スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし	・ 吹付け ・ こて ・ ローラー	複層仕上塗材	・ 複層塗材RE	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理	・ ローラー	○ 複層塗材RE	・ 凸部処理	◎ 吹付け	軽量骨材仕上塗材	・ 吹付け軽量塗材	・ 砂壁状	・ 吹付け	・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	・ こて	樹 脂 種 類	溶 媒 種 類	外 観	・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ ポリウレタン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	◎ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	◎ 艶有 ◎ 艶無	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
	種 類	呼 び 名	仕 上 形 状	工 法																																																																				
薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け																																																																					
	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク	・ ()																																																																					
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	・ 吹付け ・ こて																																																																					
	・ 外装厚塗材Si	スタックコ状 ・ 放射し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし	・ 吹付け ・ こて ・ ローラー																																																																					
複層仕上塗材	・ 複層塗材RE	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理	・ ローラー																																																																					
	○ 複層塗材RE	・ 凸部処理	◎ 吹付け																																																																					
軽量骨材仕上塗材	・ 吹付け軽量塗材	・ 砂壁状	・ 吹付け																																																																					
	・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	・ こて																																																																					
樹 脂 種 類	溶 媒 種 類	外 観																																																																						
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無																																																																						
	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
・ ポリウレタン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
◎ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	◎ 艶有 ◎ 艶無																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																						
ALCパネル下地の内壁目地 ・ V形目地付き ・ () (15.6.4)																																																																								
8 マスチック塗材塗り (15.7.2) (表15.7.1)	種別 ・ A種 ・ B種																																																																							
9 セッコウ プラスター塗り (15.8.2) (15.8.3)	材料 下塗り、中塗り ・ 既調合プラスター ・ 現場調合プラスター 上塗り ・ 既調合プラスター ・ しっくい塗り																																																																							
10 しっくい塗り (15.10.1) (15.10.2) (15.10.3) (表15.10.1) (表15.10.2)	下地 ・ 木ずり ・ こまい土壁塗り ・ セッコウラスボード ・ セッコウボード ・ () 材料 ・ 現場調合材料 標準仕様書[15.10.2](f)(7) ・ 既調合材料 標準仕様書[15.10.2](f)(4) しっくい塗材の種類等 ・ () 調合及び各層の塗厚 木ずり下地 ・ 標準仕様書[表15.10.1] ・ () こまい土壁下地 ・ 標準仕様書[表15.10.2] ・ () その他の下地 ・ ()																																																																							
11 こまい壁塗り (15.11.2) (15.11.3) (15.11.4) (15.11.5) (表15.11.2) (表15.11.8) (表15.11.9)	のりの種類 土壁用 ・ ふのり ・ つのまた ・ ぎんなんそう ・ 粉末海藻 ・ () 砂壁用 ・ ふのり ・ つのまた ・ こんにやくのり ・ にかわ ・ 合成高分子系混和剤 ・ () 色土の種類 土物仕上げ ・ () 大津仕上げ ・ () 色砂の種類 ・ () 下塗りの調合 ・ 標準仕様書[表15.11.2] ・ () 塗厚 ・ 標準仕様書[表15.11.8] ・ () 耐力壁の指定 ・ 図示（図面番号： ） 工程種別 ※ A種 ・ B種 工法の種類 土物仕上げ ・ () 大津仕上げ ・ ()																																																																							

16 建具工事	11 ロックウール吹付け (15.12.3)	仕上げ吹付け厚さ () mm
	① 防火戸 (16.1.3)	防火戸の指定 ◎ 図示（ 建具表 ） ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの ・ 図示（図面番号： ）
	2 見本の製作等 (16.1.4)	建具見本の製作 ・ 実施する 特殊な建具の仮組 ・ 実施する
	3 防犯建物部品 (16.1.6)	防犯建物部品 ・ 図示（図面番号： ）
	4 アルミニウム製建具 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) (表16.2.2) (表16.2.5)	外部建具の性能等級等 コンクリート系下地、鉄骨下地 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ () 木下地 ・ D種 ・ E種 ・ () 表面処理 種別 ・ () ・ 標準色 ・ 特注色 内部建具 表面処理 種別 ・ () ・ 標準色 ・ 特注色 防音ドア、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドア、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアの面内変形追随性 ・ (等級) 建具枠見込み寸法 ・ 図示（図面番号： ） 結露水の処理方法 ・ () 水切り板、ぜん板等 ・ 図示（図面番号： ） 建具周りの止水処理（外部に面するもの内付建具） ・ 製造所の仕様による ・ ()
5 網戸等 (16.2.3)	形式 ・ 可動式 ・ 固定式 防虫網 網の材質 ・ 合成樹脂 ・ ガラス繊維入り合成樹脂 ・ ステンレス (SUS316) ・ () 線 径 ・ 0.25mm以上 ・ () 網 目 ・ 16メッシュ ・ 18メッシュ ・ () 防鳥網 網の材質 ・ ステンレス (SUS304) ・ () 線 径 ・ 1.5mm ・ () 網目寸法 ・ 15メッシュ ・ ()	
6 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (表16.3.1) ~ (表16.3.4)	外部建具の性能等級等 コンクリート系下地、鉄骨下地 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ () 木下地 ・ D種 ・ E種 ・ () 外部建具の遮音性能等級 ・ T-A種 ・ T-B種 ・ () 外部建具の断熱性能等級 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種 ・ () ガラス ※ 複層ガラス ・ () 建具枠見込み寸法 ・ 図示（図面番号： ） 表面色 ・ 標準色 ・ 特注色 水切り板 ぜん板 図示（図面番号： ） 建具周りの止水処理（外部に面するもの内付建具） ・ 製造所の仕様による ・ ()	
⑦ 鋼製建具 (16.4.2) (表16.4.1) (表16.4.2) (表16.4.4) (表16.4.2)	※ 建具性能は、建具表による (16.4.2) (表16.4.1) (表16.4.2) (表16.4.4) 簡易気密型ドアセット ◎ 図示（ 建具表 ） 外部建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドア、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドア、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアの面内変形追随性 ・ (等級) 鋼板の厚さ ・ [表16.4.2] ・ 図示（図面番号： ） H:2400超 又は W:950超 ・ 図示（図面番号： ）	
8 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (16.5.4) (表16.5.1)	簡易気密型ドアセット ・ 図示（図面番号： ） 防音ドア、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドア、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアの面内変形追随性 ・ (等級) 鋼板の表面仕上げ ・ 塗装 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板（・HL・鏡面） 召し合せ、縦小口包み板等の材質 ・ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合板押出成形材 鋼板の厚さ ・ [表16.5.1] ・ 図示（図面番号： ） H:2400超 又は W:950超 ・ 図示（図面番号： ）	
9 ステンレス製建具 (16.6.2) (16.6.3) (16.6.4) (16.6.5) (表16.4.1)	簡易気密型ドアセット ・ 図示（図面番号： ） 外部建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級) ステンレス鋼板 ※ SUS304 ・ () 表面仕上げ ※ HL ・ 鏡面仕上げ 曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ	

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	建築工事特記仕様書(4)		
縮尺	—	図面番号	A-5
事業者名	亀 山 市		

16 建具工事 （続き）	10 木製建具	(16.7.2) (16.7.3) (16.7.4) (表16.7.1) (表16.7.3) (表16.7.6) (表16.7.7) (16.8.2) (表16.8.4) (表16.8.5)	建具材の含水率 ・ A種 ※ B種 ・ C種 フラッシュ戸、戸ぶすまの合板 種類、材面の品質 接着の程度 ・ 1類(水掛り)、2類(その他) ・ () フラッシュ戸の形状 表面板の厚さ ※ 標準仕様書[表16.7.6] ・ () 引戸の召合わせ ・ いんちう付き 図示(図面番号:) かまち戸 かまち、鏡板の樹種 図示(図面番号:) ふすま 種類 ・ I型 ・ II型 上張の種類 図示(図面番号:) 縁の仕上げ 図示(図面番号:) 枠及びくづりの材料 図示(図面番号:) 各木製建具の見込み寸法 標準仕様書[表16.7.7] 図示(図面番号:) 戸串、レールの外径等 標準仕様書[表16.8.5] ・ ()
	① 建具用金物	(16.8.2) (表16.8.1) (16.8.3) (16.8.4) (表16.8.2) (表16.8.3) (表16.8.4)	マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない ○ 監督員と協議の上システムを決定する キーボックス ・ 要 ○ 不要 金物の種類、見え掛り部等の材質等 ○ 標準仕様書[表16.8.1] ・ 図示(図面番号:) 丁番の枚数、大きさ ※ 建具表による 金属製建具 標準仕様書[表16.8.2] ・ () 樹脂製建具 標準仕様書[表16.8.3] ・ () 木製建具 標準仕様書[表16.8.4] ・ () レバーハンドル、クレセント等の取付け位置 図示(図面番号:)
	12 自動ドア開閉装置	(表16.9.1) (表16.9.2) (表16.9.3) (16.9.3) (表16.9.4) (16.9.2)	駆動装置の性能値 多機能トイレ出入口以外 標準仕様書[表16.9.1] ・ () 多機能トイレ出入口 標準仕様書[表16.9.2] ・ () 検出装置の性能 標準仕様書[表16.9.3] ・ () 戸の開閉方法 図示(図面番号:) 引き戸用検出装置の種類 ・ () 凍結防止装置 ・ 行う ・ 行わない
	13 自閉式上吊り引戸装置	(16.10.3) (表16.10.1)	性能値 標準仕様書[表16.10.1] ・ ()
	14 重量シャッター	(16.11.2) (表16.11.1) (16.11.3)	シャッターの種類 図示(図面番号:) 開閉方式 図示(図面番号:) 耐風圧強度(Pa 以上) 保護装置の設置箇所 図示(図面番号:) 管理用シャッターのシャッターケース 図示(図面番号:) 鏡板の種類 図示(図面番号:) めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ ()
	15 軽量シャッター	(16.12.2) (表16.12.1) (16.12.3) (16.12.4)	開閉方式 図示(図面番号:) 耐風圧強度(Pa 以上) 保護装置の設置箇所 図示(図面番号:) スラットの材質、めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ () スラットの形状 インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形
	16 オーバーヘッドドア	(16.13.2) (16.13.3)	セクション材料 閉閉方式 収納形式 ガイドレール ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融鉛鉛 ・ アルミニウム ・ チェーン式 ・ ローヘッド形 めっき鋼板 タイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ ステンレス ・ ファイバー ・ パーチカル形 グラスタイプ
	17 ガラス	(16.14.2) (16.14.3) (16.14.4)	耐風圧性能の区分 JIS A 4715 ・ () 保護装置の設置箇所 図示(図面番号:)
	18 ガラスブロック積み	(16.14.5)	板ガラスの種類、厚さ、特性による種類等 図示(図面番号:) 留め材 ・ シーリング ・ ガスケット() ガラス溝の大きさ等 ※ 製造所の仕様による 図示(図面番号:) 熱線反射ガラスの映像調整 ・ 実施する

17 カーテンウォール工事	1 種類	(17.1.1) (17.1.2)	・ メタルカーテンウォール(種類) ・ PCカーテンウォール	
	2 性能等	(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)	耐風圧性() 耐震性() 水密性() 気密性() 耐火性() 耐温度差性() 遮音性() 断熱性() 性能の確認・判定方法() シーリング材の種類 断熱材()	
	3 メタルカーテンウォール	(17.2.2) (17.2.3) (表17.2.1) (17.2.5) (17.2.6) (表17.2.2) (表17.2.3)	カーテンウォールの材料 材料 規格等 見え掛り部の仕上げ 映像調整 ・ アルミニウム製 ・ 標準仕様書[16.2.3] ・ A-1 ・ 行う ・ () ・ () ・ A-2	
	4 PCカーテンウォール	(17.3.2) (17.3.3) (17.3.4) (17.3.5) (17.3.6) (表17.3.1) (表17.3.2)	製品の寸法許容差 標準仕様書[表17.2.1] ガラス溝の寸法、形状等 ・ カーテンウォール製造所の仕様による 図示(図面番号:) 取付け 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 標準仕様書[表17.2.2] ・ () カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 標準仕様書[表17.2.3] ・ () ガラスの取付け ・ 構造用ガスケット(図示(図面番号:))	
	① 施工一般	(18.2.2) ~ (18.14.2)	カーテンウォールの材料 コンクリートの種類及び品質 図示(図面番号:) 鉄筋 ・ SD295A ・ () 補強鉄筋の径、網目寸法 図示(図面番号:) 耐火目地材 ・ () 配筋 図示(図面番号:) 先付け材料 ・ 仕上げ材() ・ 建具枠() ・ Gondラ用ガイドレール() ・ () 製品の寸法許容差等 標準仕様書[17.3.3]による ・ () 表面仕上げ材 ・ 磁器質タイル 石材(・ 花こう岩 ・ 大理石 ・ ()) 取付け 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 標準仕様書[表17.2.2] ・ () カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 標準仕様書[表17.3.2] ・ () ガラスの取付け ・ 構造用ガスケット(図示(図面番号:))	
	② 塗装工事		塗料塗り 種類 種類 施工箇所 下地の種類 素地ごしらえ 錆止め塗料の種類 SOP ・ A種 ・ 鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ※ 1種 ・ B種 ・ C種 EP ・ A種 ・ ボード面 ・ A種 ・ B種 ・ B種	
	③ 耐候性塗料塗り(DP)	(18.7.2) (表18.7.1) (18.7.3) (18.7.4)	下地の種類 施工箇所 上塗り等級 コンクリート、ECP面における種類 亜鉛めっき鋼板 鋼製建具 ○ 1級 ・ 2級 ・ A種 ・ B種 ・ 3級 ・ C種	
	4 オイルステイン塗り	(18.12.2)	塗料 ・ ()	
	19 内装工事	1 ビニル床シート張り	(19.2.2) (表19.2.1)	種類 色柄 厚さ(mm) 継目 ・ FS ・ 無地 ・ 2.0 ・ 溶接 ・ () ・ 柄物 ・ () ・ 突付け 接着剤の種類、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 図示(図面番号:)
		2 ビニル床タイル張り	(19.2.2) (表19.2.1)	寸法・色合 種類 厚さ(mm) ・ 300×300 ・ コンポジションビニル床タイル(KT) 半硬質 ・ 2.0 () ・ () ・ 450×450 ・ コンポジションビニル床タイル(KT) 軟質 ・ () () ・ () ・ ホモジニアスビニル床タイル ・ ()

3 特殊機能床材	4 ビニル幅木	(19.2.2)	種類 図示(図面番号:) 高さ 図示(図面番号:) ・ 60mm 厚さ 図示(図面番号:) ・ 1.5mm以上
	5 施工	(19.2.3)	下地 ・ モルタル ・ 珪藻土 ・ 木造 ・ () ビニル床シート張りの目地処理方法 ・ 突付け ・ 熱溶接工法
	6 カーペット敷き	(19.3.2) (19.3.3) (表19.3.1) (表19.3.2)	織りじゅうたん 種類 色柄 バイル形状 継り方 ・ A種 ・ 無地 ・ ループ ・ ウルトンカーペット ・ B種 ・ 柄物 ・ カット ・ グルフェースカーペット ・ C種 (標準品) ・ カット、ループ併用 ・ フェキスマスターカーペット
	7 合成樹脂塗床	(19.4.3) (表19.4.4) (表19.4.5) ~ (表19.4.8)	種類 色柄 バイル形状 バイル長・寸法・継目 工法 ・ タフテット ・ 無地 ・ ループ ・ カット ・ バイル長 ・ グリッパー カーペット ・ 柄物 ・ カット ・ 5~7mm ・ 全面接着 ・ 4~6mm ・ ニードル ・ 無地 総厚さ ・ 全面接着 パンチ ・ 柄物 ・ () カーペット ・ タイル ・ 無地 ・ ループ 総厚さ、サイズ ・ 全面接着 カーペット ・ 柄物 ・ カット ・ 6.5mm ・ ・ 500角 ・ 帯電性(人体帯電電圧の値3kV以下) タイルカーペットの敷き方(全面接着工法) 平場 ・ 市松敷き ・ 模様流し 図示(図面番号:) 階段部分 ・ 市松敷き ・ 模様流し 図示(図面番号:) 下敷き材 ・ 厚2種2号、呼び厚さ9mm 図示(図面番号:) 見切り、押え金物 材質() ・ 種類() 形状(図面番号:) 織じゅうたんの接合方法 ・ ヒートボンド工法 ・ ()
	8 フローリング張り	(19.5.2) (19.5.3) (19.5.4) (19.5.5) (19.5.6) (表19.5.2) (表19.5.4)	材料 ・ 単層フローリング ・ フローリングボード(1等) ・ フローリングブロック(1等) ・ 複合フローリング 釘留め工法 種類 工法 種類 樹種 ・ フローリングボード ・ 根太張り ・ なら (根太張用) ・ 直張り ・ () ・ 複合フローリング ・ () ・ A種 ・ なら (根太張用) ・ () ・ B種 ・ () ・ C種
	9 畳敷き	(19.6.2) (表19.6.1)	種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ D種の畳床 KT- (・ I ・ II ・ III ・ K ・ N)

10 セッコウボード、 その他のボード 及び合板張り		(19.7.2) (表19.7.1) (19.7.3) (表19.7.3) (表19.7.5)	種類 種類 厚さ(mm) ・ セッコウボード 壁 ・ 9.5(準不燃) 天井 ・ 12.5(不燃) ・ 化粧セッコウボード ・ トラバーチン模様 ・ 9.5(準不燃) ・ 9.5(準不燃) ・ 木目模様 ・ 9.5(準不燃) ・ 9.5(準不燃) ・ ロックウール化粧吸音板 ・ 普通 ・ 9 ・ () ・ 立体模様 ・ 9 ・ () ・ けい酸カルシウム板 ・ タイプII 0.8FK ・ ()	
	合板張り		普通合板 表面の樹種名 ・ (透明塗料塗り)ラワン ・ (不透明塗料塗り)しな ・ 生地のまま() 板面の品質() 厚さ(mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) ・ () 防虫処理 ・ () ・ 天然化粧合板 化粧板の樹種名 ・ () 厚さ(mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) ・ () 防虫処理 ・ () ・ 特殊加工合板 化粧加工の方法 ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 ・ () 表面性能() 厚さ(mm) 接着の程度 ・ 1類(湿潤箇所) ・ () 防虫処理 ・ ()	
	12 壁紙張り	(19.8.3)	遮音シール材 ・ 適用する(・ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド) 下地 ・ 軽量鉄骨 ・ 木造 ・ () 合板類の張付け ※ B種 ・ A種 セッコウボードの目地工法 ・ 継目処理 ・ 突付け ・ 目隠し	
	13 断熱材	(19.9.2) (19.9.3)	施工箇所 種類 防火性能 品質 素地ごしらえ セッコウボード面 ※ B種 ・ A種 コンクリート面 ※ B種 ・ A種 モルタル、プラスター面 ※ B種 ・ A種	
	20 ユニ ット 及 び そ の 他 工 事		施工箇所 材種 種類 厚さ(mm) ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ フェノールフォーム断熱材	
	1 フリーアクセスフロア	(20.2.2)	施工箇所 所定荷重 高さ(mm) 床仕上材及び厚さ(mm) 備考 ・ タイルカーペット ・ 帯電防止 ・ 6.5mm ・ 漏えい抵抗 ・ () ・ () ・ ビニル床タイル ・ 耐震性能 () ・ () ・ タイルカーペット ・ 帯電防止 ・ 6.5mm ・ () ・ () ・ ビニル床タイル ()mm	
	2 可動間仕切	(20.2.3)	試験方法 20.2.2(2) (f) (a) ~ (d) 寸法精度 20.2.2(2) (f) (a) ~ (c) 組立て方式 ・ スタッド式 ・ パネル式 ・ スタッドパネル式 寸法及び形状 図示(図面番号:) 表面材の材質及び仕上げ 図示(図面番号:) 遮音性 ・ 高遮音	
	3 移動間仕切	(20.2.4)	操作方法 ・ 手動式 ・ 電動式 表面材の材質及び仕上げ 図示(図面番号:) 遮音性 ・ 高遮音 ハンガーレールの取付け下地の補強 標準仕様書[20.2.4] (3) (g) 図示(図面番号:) パネルをランナーに取り付ける部品 標準仕様書[20.2.4] (3) (a) 図示(図面番号:) ハンガーレール 標準仕様書[20.2.4] (3) (d) 図示(図面番号:) ランナー 標準仕様書[20.2.4] (3) (b) 図示(図面番号:) ハンガーレールの固定方法 ・ 溶接 ・ あと施工アンカー(材質:) ・ 寸法:)	
	工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室		
	施工箇所	亀山市刃法寺地内		
	図面の種類	建築工事特記仕様書(5)		
	縮尺	—	図面番号	A-6
	事業者名	亀 山 市		

建築概要		地域・地区等		その他の確認事項	
建築物名	自家発電機棟	法令・条項	項目	該当事項	該当事項
敷地面積	419.00 m ²	都市計法	都市計画区域・準都市計画区域	都市計画区域外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀山市景観計画 計画区域：山地・丘陵部地域（一般地域）※届出対象外 ・ 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 ※延べ面積300m²未満のため届出不要 ・ 埋蔵文化財指定地域内「野元坂館跡」 ・ 砂防指定地域内（刃法寺宇大根谷全域指定） ・ がけ条例 ※高低差2mを超えるがけ地対象
構造・規模	RC造 地上1階	建築法 43条	敷地等と道路との関係	市道 安楽橋辺寺線 幅員 4.90m	
建築面積	31.46 m ²	建築法 48条	用途地域	指定なし	
延べ面積	31.46 m ²	建築法 52・53条	容積・建ぺい率(全施設)	建ぺい率、容積率：指定なし	
軒高さ	4.700 m	建築法 56・56条の2	建築物の各部分の高さ	規制なし	
最高高さ	4.800 m	建築法 61・62条	防火・準防火地域内の建築物	指定なし	

建築基準法(令)				建築基準法(令)				消防法(令)						
審査項目	法令条項	チェック	判定	審査項目	法令条項	チェック	判定	審査項目	法令条項	チェック	判定			
防火・準防火構造等	61 62	防火地域一階数() 延べ面積(m ²) 構造() 【階数3以上又は延べ面積 100m ² を超えるもの 耐火、左記以外の準耐火又は耐火】	該当なし	防火区画・防火戸	36	112	[別表の計算書による・すべて 1,500m ² 以内]	17	10	延べ面積 (31.46 m ²) 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 (1階部分：31.46 m ²) ・設置 [延べ面積 300m ² 以上又は地階等の部分で床面積 50m ² 以上] ○不要	不要			
		準防火地域一階数() 延べ面積(m ²) 構造() ・【地上4以上又は延べ面積 1,500 m ² 】を超えもの 耐火 ・【地上3又は延べ面積 500m ² を超え、1,500m ² 以下 準耐火又は耐火】	該当なし			防火区画・堅穴区画	112-1・9			面積区画、その他の部分(吹抜き・階段・昇降機の昇降路・ダクトスペース)と区画	該当なし	屋内消火栓設備	11	延べ面積 (31.46 m ²) 構造 (耐火構造) 地階・無窓階又は4階以上の階の床面積 (1階部分：31.46 m ²) ・設置 [耐火構造で延べ面積 3,000m ² 以上 又は地階等の部分で 床面積 600m ² 以上] ・(主要構造部を耐火構造とし、かつ、壁・天井の仕上げを難燃材料) ○不要
居室の採光及び換気	22 63	構造(造) 屋根材() ・法第22条の区域 [H12建告第1361号][H12建告第1434号] ・法第63条の区域 [H12建告第1365号][H12建告第1434号] ・区域外	該当なし	居室の採光・換気等	112-10 11.14	90cm以内の壁面等の構造() [準耐火構造・H12建告第1358号] 防火戸面積 (m ²) ≤ 3m ² ・常時閉鎖式 ・随時閉鎖式 【防火設備等の構造：S48建告第2563号】 【遮煙性能を有する防火設備等の構造：S48建告第2564号】 【特定防火設備の構造：H12建告第1369号】	該当なし	13~18	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積 (発電機室部分：31.46 m ²) ・設置 [発電機室等の部分で 床面積 200m ² 以上] ・緩和申請する(スプリンクラー設備を設置) ○不要	不要				
		居室の採光及び換気	28			[別表の計算書による]	※居室なし		該当なし	防火戸その他の防火設備	109	延焼のおそれのある部分 ・有 ○無	該当なし	屋外消火栓設備
居室の換気設備の技術的基準	20の2 20の3	居室の換気のための窓その他開口部 [別表の計算書による] ・換気有効面積 (m ²) / 居室の床面積 (m ²) ≥ 1/20 換気方法 () 火を使用する室の有無 ・有 - 室名 () ○無	※居室なし	居室の換気等	112-15 129の2の 5-1-7	防火区画を貫通する配管の隙間等の処理	該当なし	21	延べ面積 (31.46 m ²) 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 (1階部分：31.46 m ²) ・設置 [延べ面積 1,000m ² 以上 又は地階等の部分で 床面積 300m ² 以上] ○不要	不要				
		換気設備(自然換気)	20の2 129の2 の6			給気口高さ(m) / 天井高さ(m) ≤ 1/2 排気口高さ(m) > 給気口高さ(m)	※居室なし		該当なし	非常警報設備	24	地階階数 () ・設置 [地階階数3以上 但し自火設備無し] ○ 不要 [地階階数2以下 又は自火設備有り]	不要	
窓その他開口部を有しない居室等	35	116の2	無窓(採光) 居室 () ・有(室名：) ○無	居室の採光・換気等	126の2	居室の面積 100 m ² (全ての居室) ・超えない ・超える 超える場合の措置法 (・防煙壁を設置) 居室の排煙面積1/50 ・以上 ・未満 ・未満の場合の措置法 () [H12建告第1436号]	※居室なし	26	[避難口・通路誘導灯] 地階・有 ○無 無窓階 ○有 ・無 ・設置 ○ 不要 ※消防法施行令第32条を適用 誘導灯免除 [誘導標識] ○ 設置 ・ 不要 [誘導灯の有効範囲内]	設置				
		無窓居室 主要構造部	35 の3			構造() [耐火構造又は不燃材料]	※居室なし		該当なし	誘導灯・誘導標識	26	設置を要する部分 () [S45建告第1830号] ・1lx (蛍光灯2Lx) ≤ (電灯の種類： Lx) ・予備電源 (30分間継続点灯)	該当なし	
2以上の直通階段(5階以下の階の場合)	35	121-1-3	居室の床面積 避難階の直上階 (m ²) > 400m ² ・2カ所 (m ²) ≤ 400m ² ・1カ所 その他の階 (m ²) > 200m ² ・2カ所 (m ²) ≤ 200m ² ・1カ所	該当なし	非常照明	35	126の4	設置 ・【階数3以上で延べ面積 500m ² を超える建築物の居室】 ・【延べ面積 1,000m ² を超える建築物の居室】 ・【無窓居室(最高に有効な窓等の合計が当該居室の1/20未満)】 ・【廊下・階段・その他通路】 ○不要	OK	27	敷地面積 (419.00 m ²) 床面積 (31.46 m ²) 耐火建築物等(耐火建築物)建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては3m以下、2階にあっては5m以下である部分を有するもので、これらの建築物の床面積を耐火建築物(準耐火建築物・その他)にあっては 15,000m ² (10,000m ² ・5,000m ²) で それぞれ除した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・設置 [敷地面積が 20,000m ² 以上かつ、耐火建築物で床面積が 15,000m ² 以上] ○ 不要	不要		
		避難階段の設置及び特別避難階段	122 123	地上()階、地下()階 ・避難階段[5階以上、地下2階以下] ・特別避難階段[15階以上、地下3階以下] ○該当せず			該当なし	非常照明の構造	126の5		階数 (1) ・設置の階 [≥ 3階] ・代用出入口の間隔 (m) ≤ 10m) ・非常用出入口の間隔 (m) ≤ 40m) ○不要	OK	消防用水	27
直通階段・歩行距離	120 121 125	120	【主要構造部が準耐火構造又は、不燃材料で作られている場合】 無窓居室・歩行距離 (m) ≤ 30m ・ (40m：廊下・階段・その他通路を準不燃材料以上で内装) その他の居室：歩行距離 (m) ≤ 50m ・ (60m：廊下・階段・その他通路を準不燃材料以上で内装) 【2以上の直通階段を設ける場合】 重複距離 (m) ≤ 当該歩行距離の2分の1	該当なし	非常用出入口	126の6	126の7	代用出入口の幅、高さ、大きさ、並びに開閉方法 ・(幅 m) ≥ 0.75、高さ m) ≥ 1.2m、大きさ m) ≥ 直径1.0mの円が内接) ・開閉方法(引違い・片開き・嵌殺し) ・ガラスの種類・厚さ () (mm) 非常用出入口の幅、高さ、下端の床面からの高さ ・(幅 m) ≥ 0.75m、高さ m) ≥ 1.2m、床面からの高さ ≤ 0.8m) ・バルコニー奥行き・長さ (m) ≥ 1.0m ・ m) ≥ 4.0m) ・ガラスの種類・厚さ () (mm)	該当なし	28の2	避難上消火活動上有効な開口部 [別表の計算書による] ・各階共床面積の 1/30 以上有り ○床面積の 1/30 未満の階有り (1階)	無窓階あり		
		階段・踊場の幅・けあげ・踏面寸法	36	23			直上階居室の合計 (m ²) > 200m ² 地階若しくは 地下工作物の居室の合計 (m ²) > 100m ² ・階段幅1.2m ≤ (m)、踊場の幅1.2m ≤ (m)、けあげ20cm ≥ (cm)、踏面24cm ≤ (cm) 上記外 ・階段幅 0.75m ≤ (m)、踊場の幅 0.75m ≤ (m)、けあげ 22cm ≥ (cm)、踏面 21cm ≤ (cm)	該当なし	非常用出入口の設置		126の6	階数 (1) ・設置の階 [≥ 3階] ・代用出入口の間隔 (m) ≤ 10m) ・非常用出入口の間隔 (m) ≤ 40m) ○不要	OK	連結放水設備
階段・踊場の位置及び直階段の踏幅	24	24	階高 (m) ・4mまで ・階高4m ≤ (m)、踊場 ()カ所、踏幅 (m) ≥ 1.2m	該当なし	内装制限	35の2	128の4	・該当する ・階数3以上で、延べ面積 500m ² を超える ・階数2で 延べ面積 1,000m ² 又は階数1で延べ面積 3,000m ² を超える ・耐火構造以外でこもる、ボイラー等火を使用する部屋がある ○該当しない	OK	10	危険物の貯蔵・取扱い制限等 (危険物の規制に関する政令)	10	軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所 ○少量危険物 ・一般取扱所 ・貯蔵所 室名 (自家発電機室)	危険物の量 (軽油 490 L) 構造及び仕上 (耐火構造)
		階段及び踊場の手すり等	25	階段の幅： (m) > 3.0m、高さ (m) > 1.0m 一般手すり ・設置 中間手すり ・設置 [幅 > 3m、かつ高さ > 1m] ・不要 [けあげ： (cm) ≤ 15cm、踏面： (cm) ≥ 30cm]			該当なし	特殊建築物の内装	129		制限を受ける特殊建築物に該当する場合 [H12建告第1439号・H21国交告第225号] 居室の壁・天井の仕上げ材 () 廊下・階段・通路の壁・天井の仕上げ材 ()	該当なし		
階段に代わる傾斜路	26	26	勾配 (/) ≤ 1/8 表面仕上材 ()	該当なし	その他	33	129の14	・設置 ・最高高さ (4.800 m) > 20m ・指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蔵庫 * 消防法 (危険物の規制に関する政令：第9条第1項第十九号、第10条第1項第十四号) ○不要	OK	20の4 20の5 20の6 20の7	化学物質を発生する建築材料を使用する居室[H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274] ・有 室名 () 換気方式 () ○無	OK		
		廊下幅	119	その階の居室の床面積の合計 [A] (m ²)、廊下幅 (m) [A > 200m ² (地階の場合は100m ²) は、両側居室1.6m以上、片側居室1.2m以上] ※居室なし			該当なし	避雷設備	129の14		・設置 ・最高高さ (4.800 m) > 20m ・指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蔵庫 * 消防法 (危険物の規制に関する政令：第9条第1項第十九号、第10条第1項第十四号) ○不要	OK		
屋外階段	23 121の2	23	直通階段の幅 (cm) ≥ 90cm、その他の階段 (cm) ≥ 60cm 直通階段の構造 () [木造以外]	※居室なし	該当なし	石綿その他の物質の飛散、又は発散	28の2	化学物質を発生する建築材料を使用する居室[H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274] ・有 室名 () 換気方式 () ○無	OK					
		路上広場・バルコニー等の手摺	126	高さ (m) ≥ 1.1m	該当なし	該当なし								

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	法規チェックリスト		
縮尺	—	図面番号	A-7
事業者名	亀山市		

□ 設計概要

□ 一般事項

工事名称	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室建築工事	事業主体	亀山市
建設地	亀山市辺法寺地内		
主要用途	上水道施設（ポンプ場）自家発電機棟	工期	
工事種別	新築		

□ 敷地状況

敷地面積	419.00 m ²		
都市計画	都市計画区域外		
用途地域	指定なし	防火地域	指定なし
その他の地域地区			
建ぺい率	基準建ぺい率 - %	日影規制	平均地盤からの高さ
容積率	// 容積率 - %		敷地境界線より5mを越え10m以内の範囲 : 時間以内
			// 10mを越える範囲 : //

□ 構造

構造	RC造	形式	ラーメン構造
基礎	直接基礎		
増築予定	無		

□ 高さ

階数	地上1階		
最高高さ	4.800 m	最高軒高	4.700 m

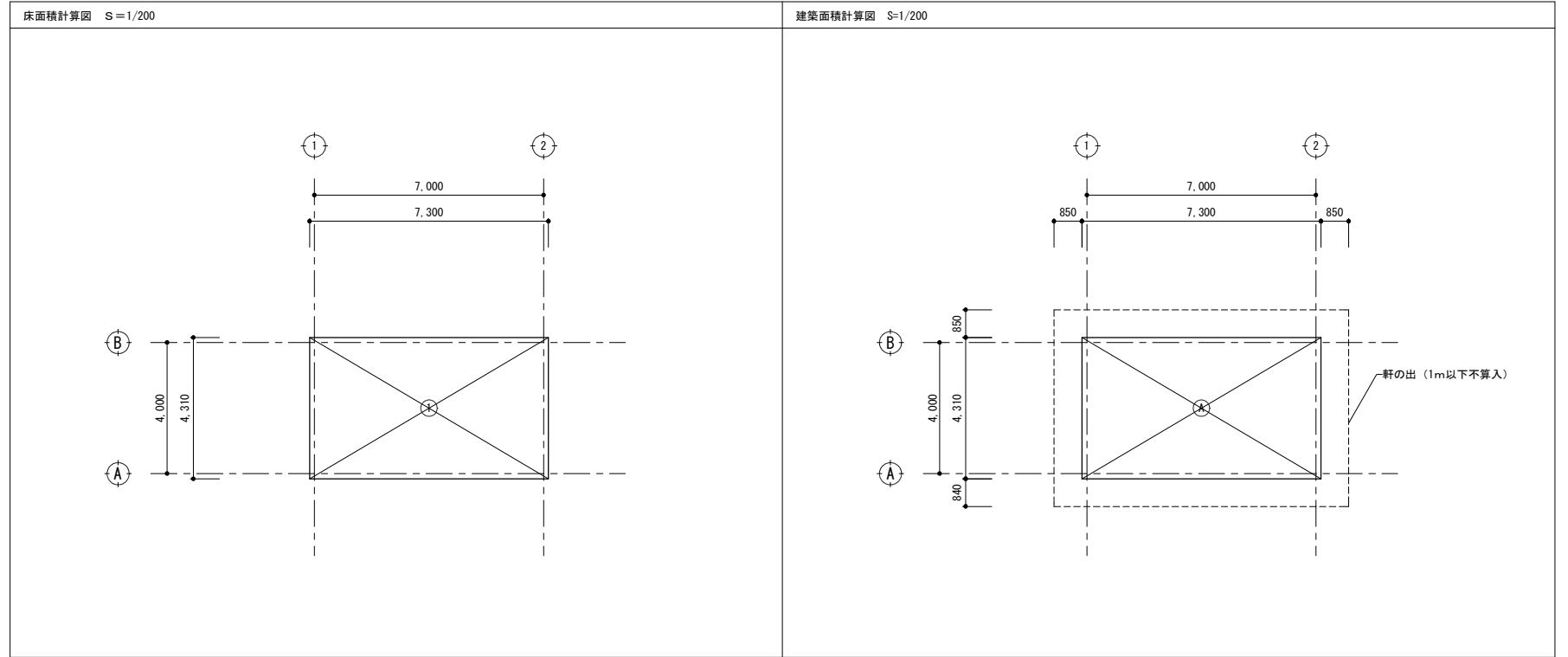
□ 面積

	申請部分	申請以外の部分	合計	自家発電設備設置部分	控除面積 1/100	延べ面積	建ぺい率・容積率
建築面積	31.46 m ²	-	31.46 m ²				7.51 % ≤ 許容 - %
延床面積	31.46 m ²	-	31.46 m ²	31.46 m ²	0.31 m ²	31.15 m ²	7.44 % ≤ 許容 - %

□ 階別概要

階	計画部分	計画以外の部分	階高	主要用途	階	計画部分	計画以外の部分	階高	主要用途
1階	31.46 m ²	- m ²	- m	機械室					

□ 面積計算



□ 面積計算表

床面積 m ²			建築面積 m ²		
①	7.30 × 4.31	31.463	Ⓐ	7.30 × 4.31	31.463
計		31.46	計		31.46

□ 換気面積・採光面積（施令116条の2-1-1）・排煙面積 計算表

階	室名	天井高	床面積	換気面積計算			採光面積計算（非常用照明装置の有無）			排煙面積計算		
				必要面積 (A/20)	換気用有効開口面積	判定	必要面積 (A/20)	採光用有効開口面積 施令116条の2-1-1による採光	判定	必要面積 (A/50)	排煙用有効開口面積	判定
	居室なし											

□ 有効開口部建具表 (m²)

階	建具記号	床からの高さ	幅 × 高さ × 箇所	開口部面積	開口部種別	ガラスの厚み、種別
1階						

□ 有窓階・無窓階の判定表 (m²)（消防法施行規則 5の2の1、5の2の2）

階	有効開口部計算式	有効開口部面積合計	床面積	必要開口部面積 (N/30)	判定
1階		-	31.46	1.05	無・有

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	設計概要書		
縮尺	1:200	図面番号	A-8
事業者名	亀山市		

共通事項	略号				
1. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。 2. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。 3. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 4. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 5. 内壁の見え掛りとなるP F板打込み部分は、GB厚12.5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部履の壁面と同様とする。 6. 壁のボード張りは水平方向に継手は設けない。 7. 天井仕上ボード張りのうち、GB-NC (NT) 及びDR (下地GB共) は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 8. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	C コンクリート下地 CB コンクリートブロック下地 W 木造下地 S 軽量鉄骨下地 GB-R せっこうボード GB-NC (N) 不燃積層せっこうボード (化粧無し：下地張り用) GB-NC (NT) 不燃積層せっこうボード (化粧有り：トラバーチン模様) GB-D (W) 木目化粧せっこうボード GB-S シーリングせっこうボード GB-F 強化せっこうボード ケイカル板 けい酸カルシウム板 (タイプ2) DR ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様 DR (凹凸) ロックウール化粧吸音板 凹凸模様 DR (軒天) ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様 DR (軒天凹凸) ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様 P F板 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木毛板 木質系セメント板 T B テラゾーブロック E C P 押出し成形セメント板 外装薄塗材 (E) 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 内装薄塗材 (S i) 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装薄塗材 (E) 内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 複層塗材 (S i) けい酸質系複層仕上塗材	C (B) コンクリート下地 (打放シB) C (G) コンクリート下地 (打放シC) M モルタル 軽量吹付 軽量骨材仕上塗材	複層塗材 (C E) ポリマーセメント系複層仕上塗材 複層塗材 (E) 合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 複層塗材 (R E) 反応硬化形成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 C L クリヤラッカー塗り F E フタル酸樹脂エナメル塗り A E アクリル樹脂エナメル塗り D P (U E) 2液形ポリウレタンエナメル塗り D P (A S E) アクリルシリコン樹脂エナメル塗り D P (F U E) 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り E P - G つや合成樹脂エマルジョンペイント塗り E P 合成樹脂エマルジョンペイント塗り E P - M 多彩模様塗料塗り E P - T 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り U C ウレタン樹脂ワニス塗り O S オイルステイン塗り S O P 合成樹脂調合ペイント塗り G P グラファイトペイント塗り A C アクリル樹脂ワニス塗り (アクリル樹脂クリヤ塗り) N A D アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り L E ラッカーエナメル塗り W P 木材保護塗料塗り		

外部仕上表

部位	仕様	打継目地	ポリウレタン系シーリング
屋根	コンクリート直均し 合成高分子ルーフィングシート防水 機械的固定工法 (S-M2)		20×10
軒先	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE	誘発・化粧目地	20×10
軒天	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE	ポーチ	コンクリート直均し
外壁	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE		
外巾木	コンクリート打放し (B) 薄塗リモルタル		

内部仕上表

※ 全ての床、壁、天井の仕上・下地は、不燃材とする
 ※ グラスウールガラスクロス額縁貼板 対応規格 JIS A9504 (人造鉱物繊維保温材)、JIS A 6301 (吸音材料)、不燃認定NM-8606

階	室名	床	巾木		壁	廻り縁	C H	天井		備考	
			仕上	H				梁型			
1階	自家発電機室	<無筋コンクリート t=300 (溶接金網 φ6×100×100 入り) > (PE) <コンクリート直均し仕上> (PE) <耐油性塗床 (不燃仕様) > (PE)	薄塗リモルタル	100	グラスウールガラスクロス額縁貼板 32K t=25 (ピン工法) ※ 不燃ボタンワッシャー仕様	-	直天	グラスウールガラスクロス額縁貼板 32K t=25 (ピン工法) ※ 不燃ボタンワッシャー仕様	同天井	発電機用機械基礎 H=FL+100、小出槽用機械基礎 (防油堤内) H=FL±0 防油堤 W=150 H=1FL+200、蓄光式誘導標識×避難口1枚 (出入口上) <配管・配線ビット> (PE) <防油堤 内部・立上り・天端：耐油性塗床 (不燃仕様) > (PE)	

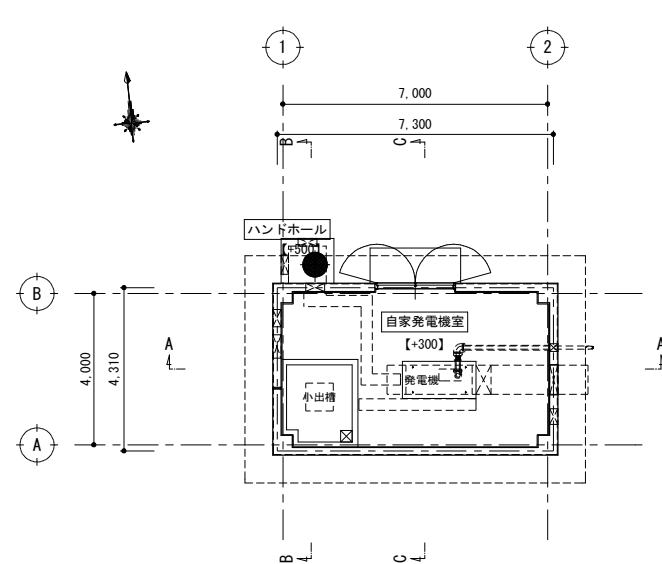
特記なき限り

別途工種工事

仕上材料の厚さ	材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備考	材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備考	工事区分略号
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板(タイプ2)		12	10	NM-8578	
		下地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25		
	GB-NC (N)	下地		9.5	NM-8613	壁紙					
	GB-NC (NT)			9.5	又は同等						
	GB (W)			12.5	NM-8614	GB-S	仕上	12.5		NM-8639	
DR			12	NM-8599							

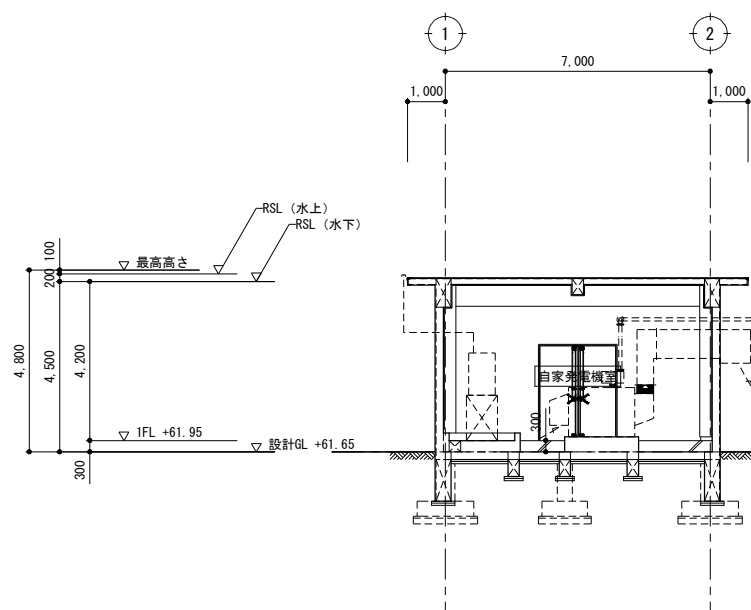
< > (C) : 土木工事
< > (AM) : 建築機械設備工事
< > (AE) : 建築電気設備工事
< > (PM) : プラント機械設備工事
< > (PE) : プラント電気設備工事

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	仕上表		
縮尺	-	図面番号	A-9
事業者名	亀山市		

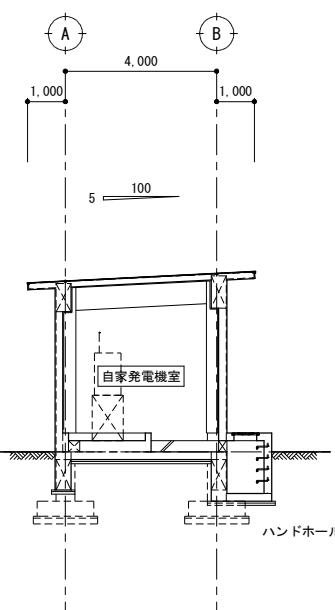


1階平面図 S=1:100

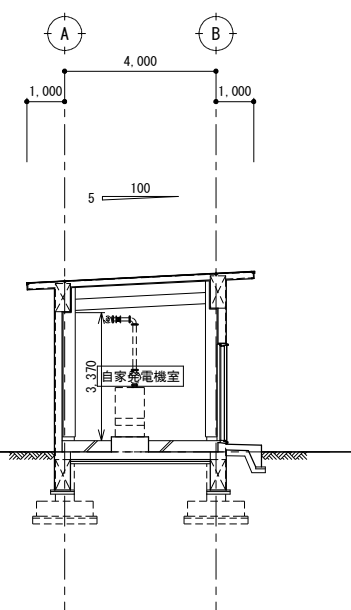
凡例 1. 【±〇〇】は設計GLからの高さを示す



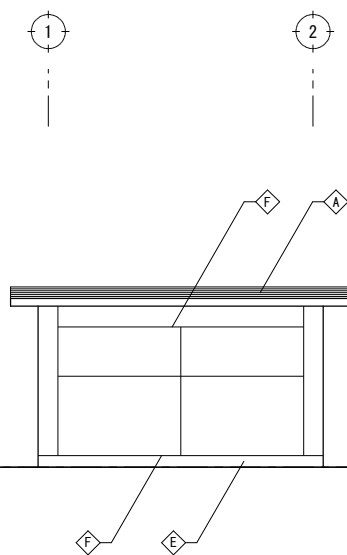
A-A断面図 S=1:100



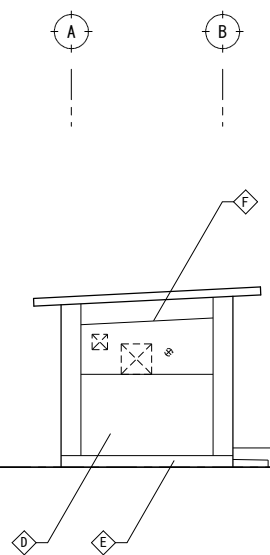
B-B断面図 S=1:100



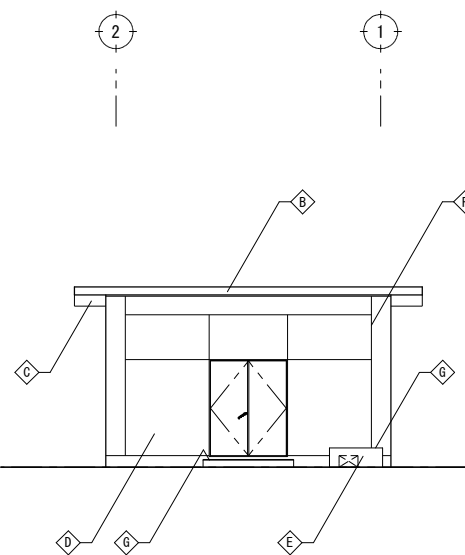
C-C断面図 S=1:100



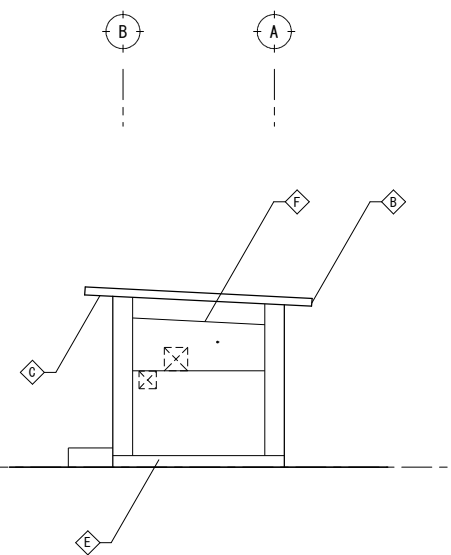
南立面図 S=1:100



東立面図 S=1:100



北立面図 S=1:100



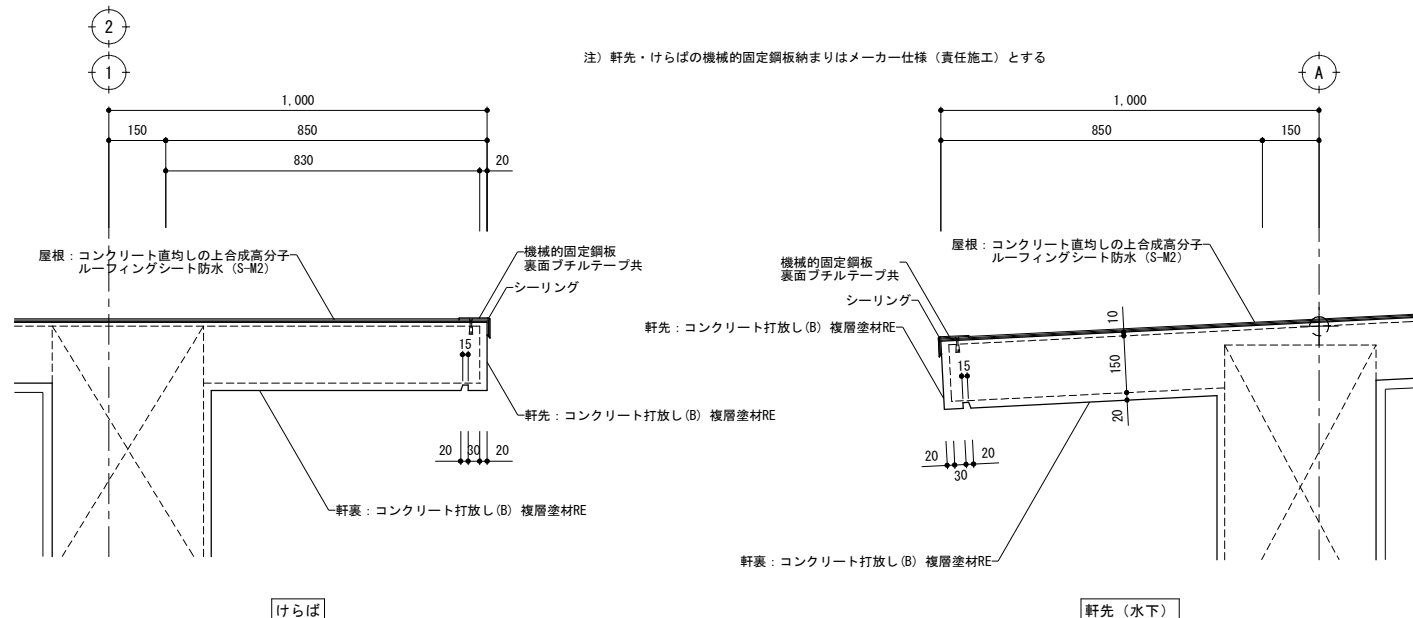
西立面図 S=1:100

外部仕上表		
A	屋根	コンクリート直均し 合成高分子ルーフィングシート防水 機械的固定工法 (S-M2)
B	軒先	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE
C	軒天	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE
D	外壁	コンクリート打放し (B) 複層塗材RE
E	外巾木他	コンクリート打放し (B) 薄塗りモルタル
F	誘発・化粧目地	ポリウレタン系シーリング 20×10
G	ポーチ床他	コンクリート直均し

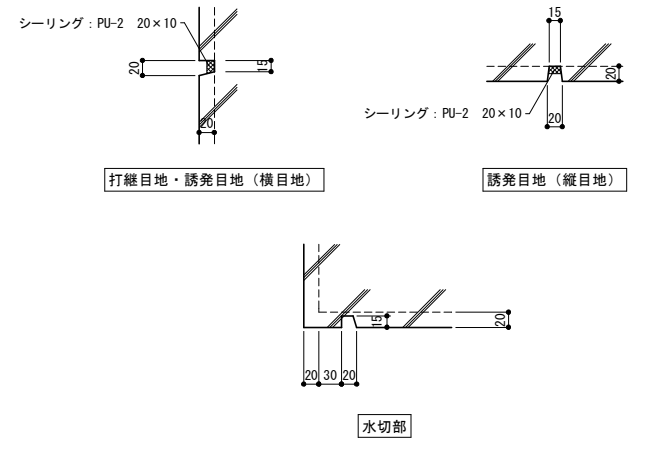
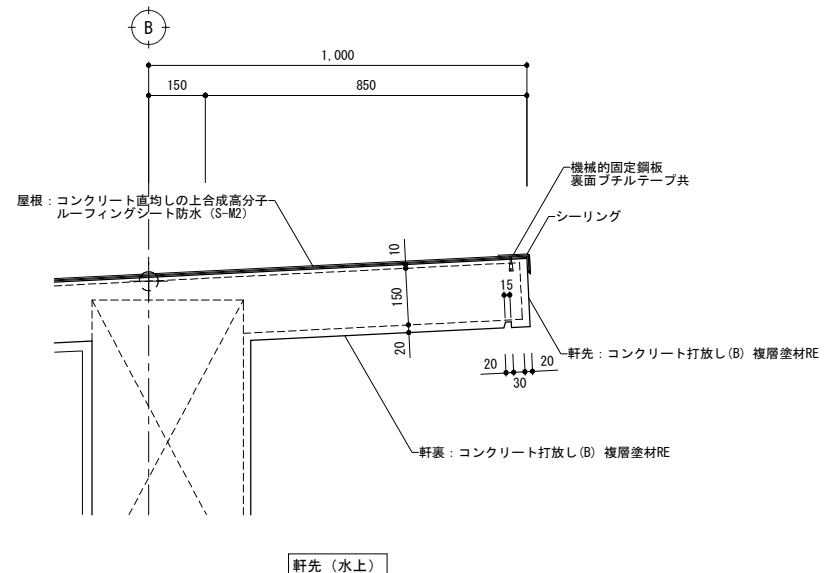
※ 外壁の基調色、屋根色は、亀山市景観計画 一般地区「山地・丘陵部地域」基準の範囲内色彩で、監督員と協議の上決定すること。
 外壁色 (マンセル値) : 5GY9/0.5
 屋根色 (マンセル値) : N6

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	平面図・立面図・断面図		
縮尺	1:100	図面番号	A-10
事業者名	亀 山 市		

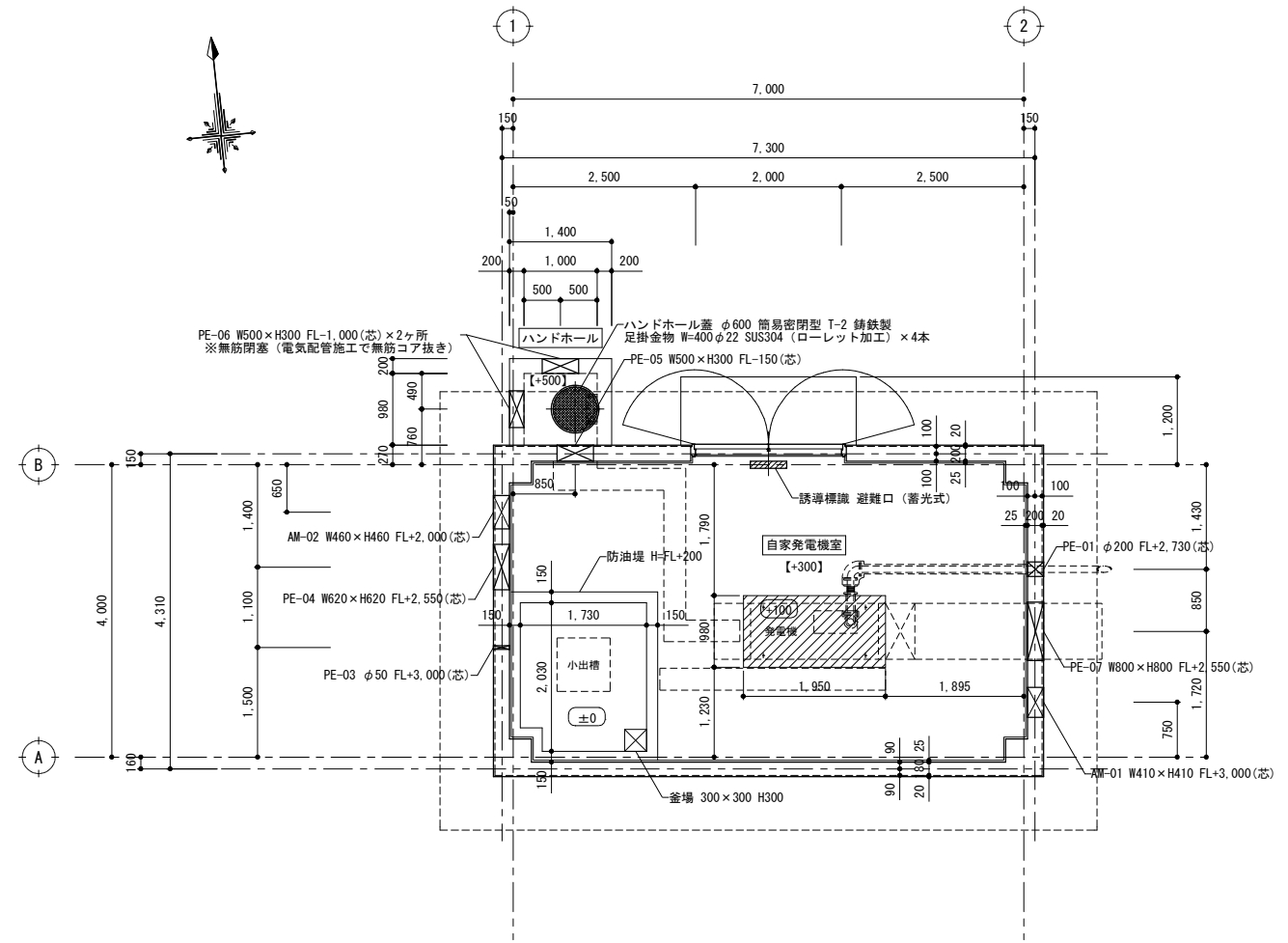
注) 軒先・けらばの機械的固定鋼板納まりはメーカー仕様(責任施工)とする



屋根詳細図 S=1:10



目地詳細図 S=1:5



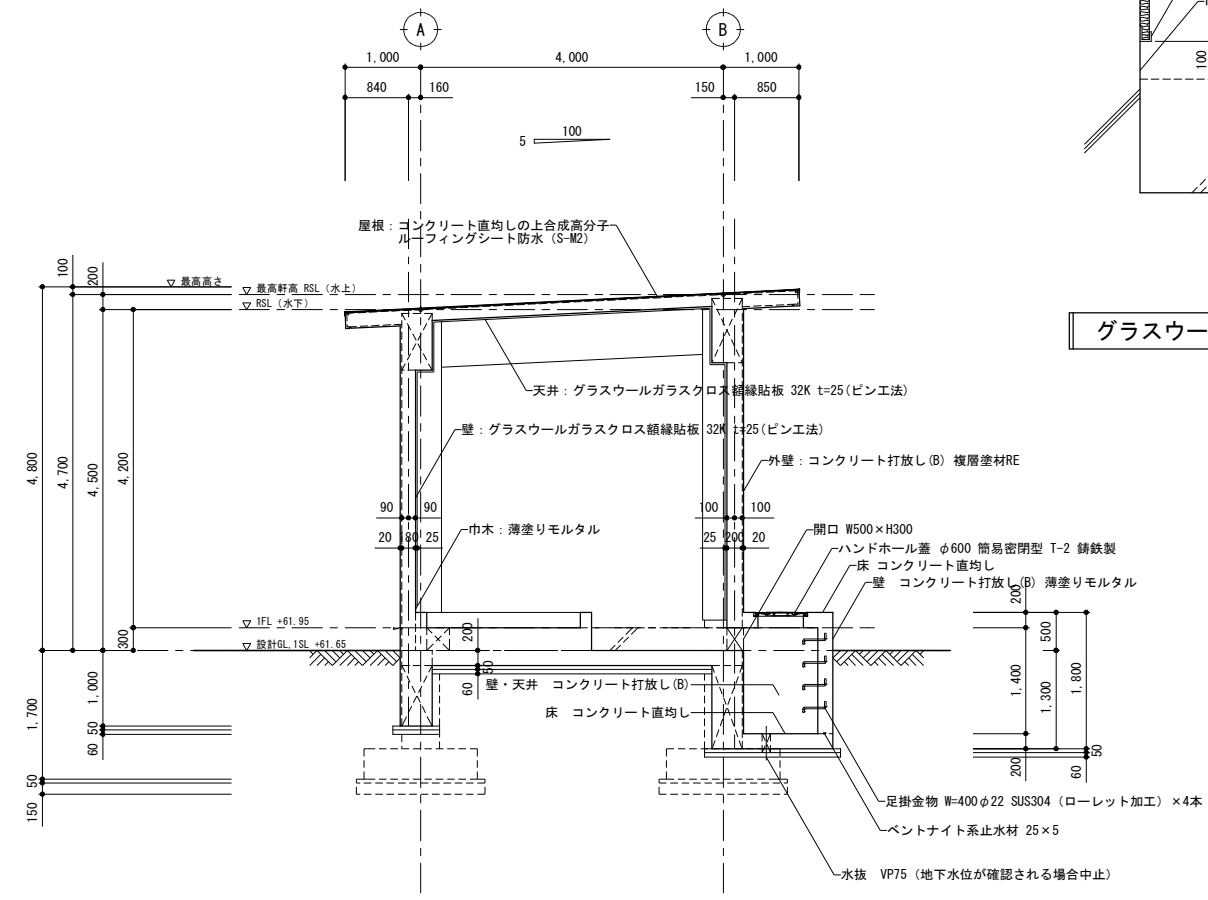
1階平面詳細図 S=1:50

- 凡例
- 【±〇〇】は設計GLからの高さを示す
 - 斜線はコンクリート機械架台を示す
 - ±〇〇はFLからの天端高を示す

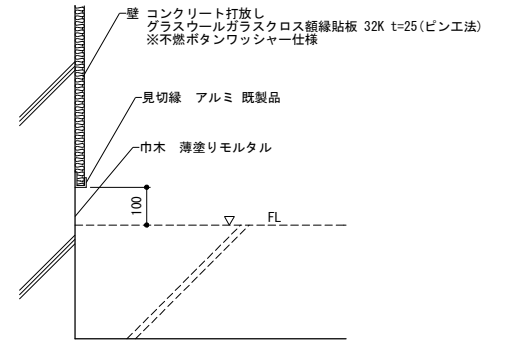
注

- 図示の開口箱抜き・補強鉄筋は本工事とする。本図の位置は参考とし、調整の上決定のこと。
- 図示の機械架台は本工事とする。本図の位置は参考とし、調整の上決定のこと。

電気工事にて発電機用機械架台へアンカーを埋め込むため、機械架台コンクリート打設前に電気工事と調整を行うこと。



矩計図 S=1:50



※本図見切縁は開口周囲にも適用する

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	平面詳細図・矩計図・各部詳細図		
縮尺	1:5, 10, 50	図面番号	A-11
事業者名	亀山市		

建具表 S=1/50

※シリンダー本締錠は特記無き限りサムターン付とする。
 ※建具金物は全てSUS304とする。
 ※防火設備大臣認定品の番号は各メーカーにより違うので参考とする。

※他施設との共通キーを作成のこと。(監督職員との協議による)

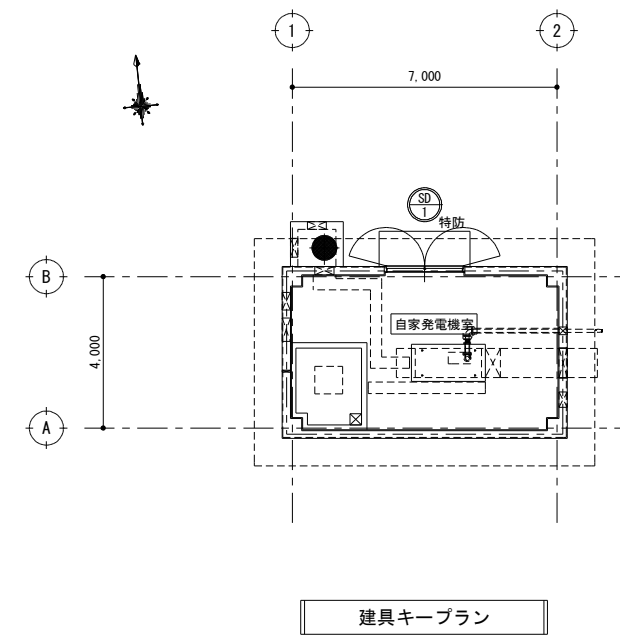
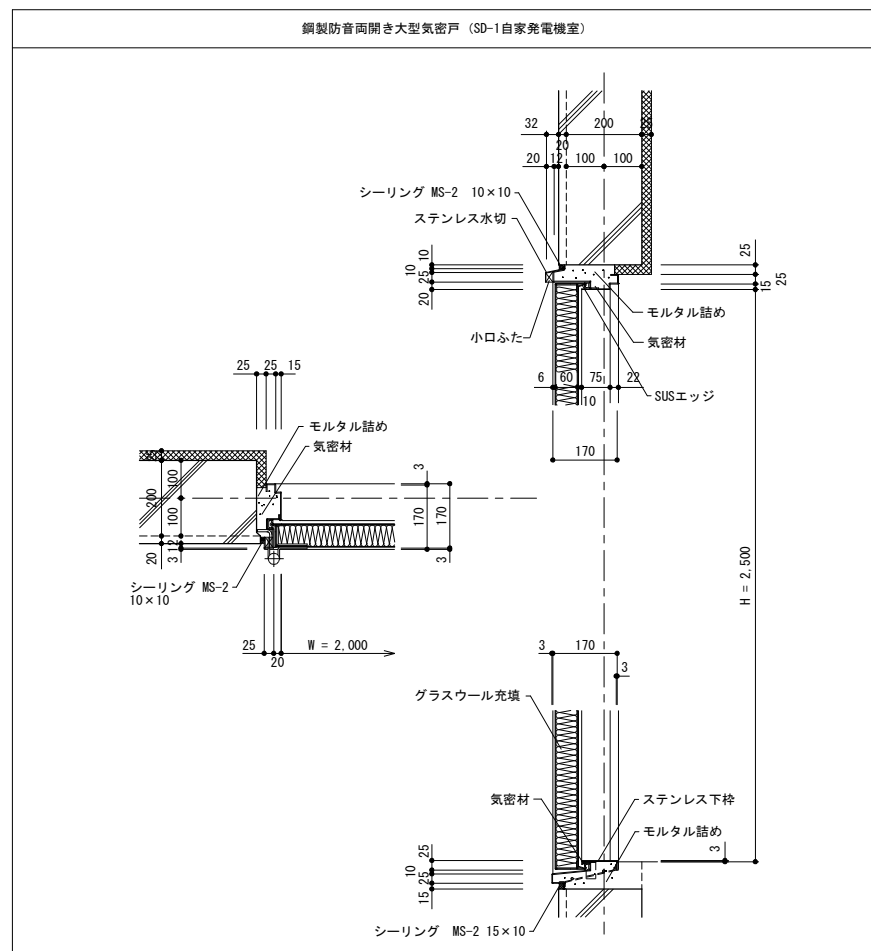
符号・名称・個数	SD 1	鋼製防音両開き大型気密戸 (特定防火設備)	1カ所
場所	自家発電機室		
仕上 (特共)	溶融亜鉛メッキ鋼板 DP塗装		
建具	見込 (ランマ)	60	
	硝子 (ランマ)		
	ガラリ (額)		
建具枠	見込取合 咨摺	170	
建具金物	シリンダー本締錠、面付3点両面締りハンドル+面付2点片面締りハンドルセット		
	丁番 (大型×4)、DC (ストッパー無し) 開放制限、順位調整器		
その他	エアタイトゴム (四方)、建具内グラスウール充填、水切りSUS304 (上下)		
形状寸法	※ 特定防火設備 (自閉式) ※ 遮音等級 T-2 ※ 気密性等級 A-4 ※ 水密性等級 W-2		

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠 (内部サムターン) とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の錠はシリンダ本締り錠 (特記なき限り同一キー) とする。(内部はサムターン付)
3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め (防火戸を除く) をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。(但し、通行に支障のあるものは除く。)
5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
6. アルミニウム製の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。(枠廻り詳細による。)
9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。
10. 防火戸の位置は建具配置図による。
11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
12. 階段室の施設を必要としない箇所は空錠とする。
13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

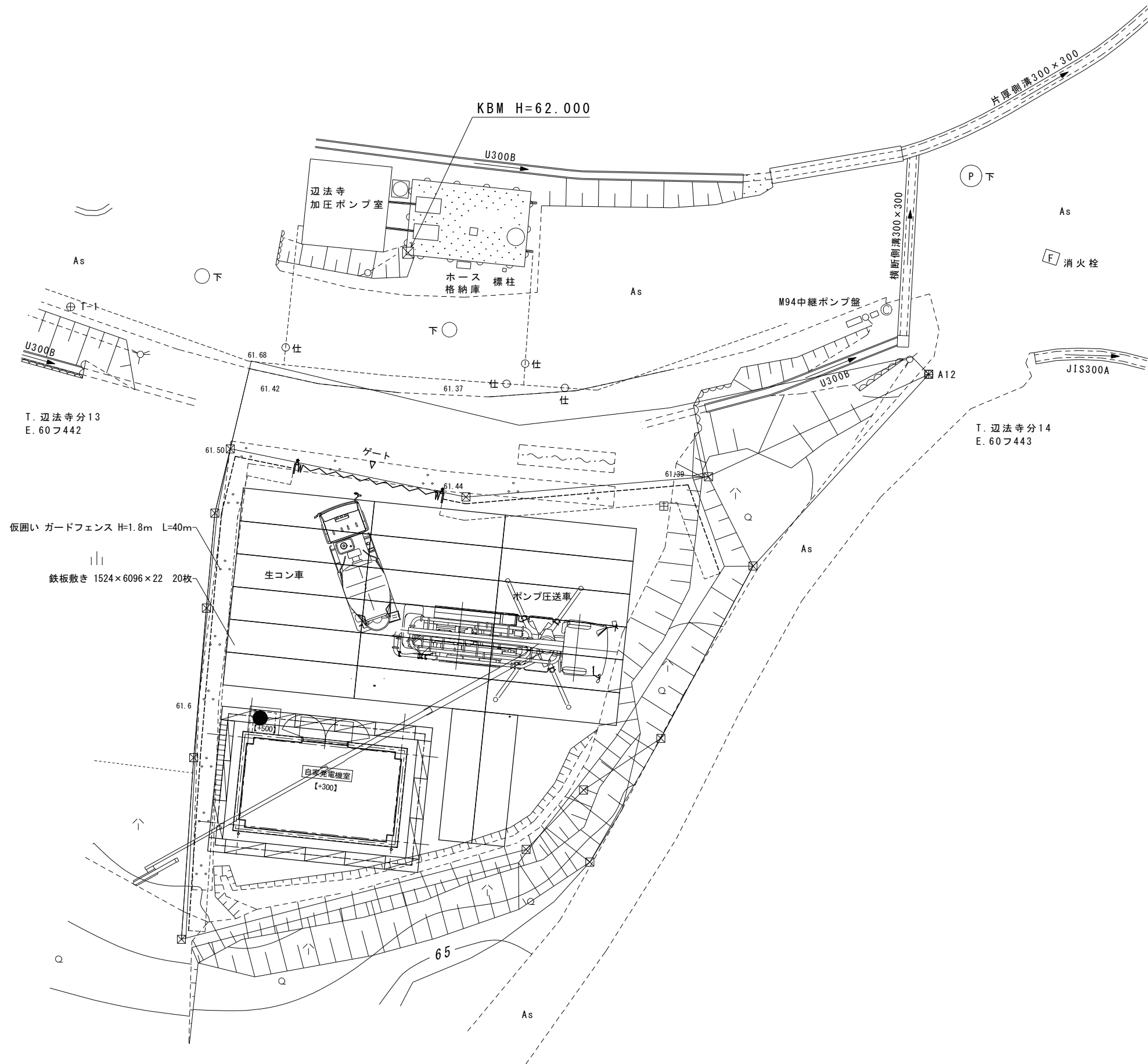
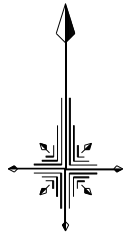
種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	A D	A W	A G	A O D			A S	a W
鋼製	S D	S W	S G	S O D			S S	
鋼製 軽量	L D						L S	
ステンレス製	S S D	S S W	S S G				S S S	
木製	W D	W W	W G		P	H		

ガラス略号	F 型板ガラス	金	DC ドアクローザー
	P フロート板ガラス	物	AH オートヒンジ
	N 網入型板ガラス	略	FH フロアヒンジ
	NP 網入みがき板ガラス	号	PH ビボットヒンジ

建具廻り詳細図 S=1/10



工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	建具表		
縮尺	1:10,50	図面番号	A-12
事業者名	亀山市		



T. 辺法寺分13
E. 607442

T. 辺法寺分14
E. 607443

仮囲い ガードフェンス H=1.8m L=40m

鉄板敷き 1524×6096×22 20枚

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	仮設計画図(参考図)		
縮尺	1:100	図面番号	A-13
事業者名	亀山市		

構造細目共通図(建築構造物)

< 令和4年版 >

※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用届きの提出と、配布番号の記載が必要である。
特外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1.1 適用範囲

- 本構造細目共通図は上水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
- 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 建築工事特記仕様書	(別紙による。)
2) 建築改修工事特記仕様書	(別紙による。)
3) 建築工事一般仕様書	(令和 4年版)
4) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4年版)
5) 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4年版)

- (3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.1表 鉄筋の種類及び継手

種別	種類	径
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.2表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スラブ(cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下基礎、基礎梁	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※普通ポルトランドセメント

注1: 無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1.3表による。

1.3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種別	厚さ(mm)
砂利または砕石	※60
捨てコンクリート	※50

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1表及び2.2表を標準とする。

2.1表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕

2.2表 一般凡例

記号・符号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3-... Y方向A, B, C-...
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁, K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの+、-に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 (kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止め筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		使用箇所
		D16以下	D19~D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋

- (注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

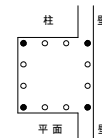
4 異形鉄筋の末端部

4.1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4.1表によりフックを設ける。

4.1表 フックを設ける位置

部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	—	1) 最上階の柱頭部 4.1図の●印 8.1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	—	1) 下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部 4.1図の●印 8.2図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 9.1図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 11.1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 20.1図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋	—	—	3.1表参照

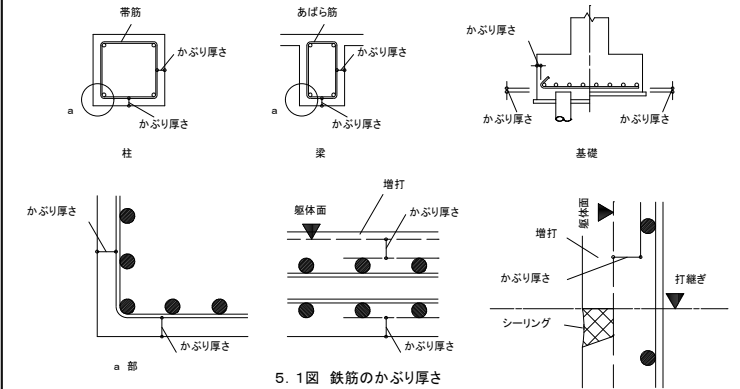


4.1図 異形鉄筋の末端部

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5.1図)をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



5.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5.1表による。

- 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
- 溶接金網にも適用する。

5.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

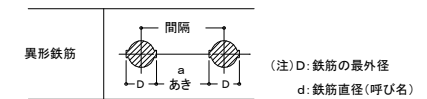
構造部分の種類	塩害区分	※ 通常の施工の場合	塩害対策を必要とする場合
	一般	床、耐力壁以外の壁	30
土、水に接する部分	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
	柱、梁、床、壁	40	50
煙突等高熱を受ける部分	底版、基礎	60	70
		60	70

1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
2: 杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭天端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。
3: 仕上なしの場合を標準とする。

5.3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合はあきは図面による。

- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- 最小のあき25mm
- 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



5.2図 鉄筋相互のあき及び間隔

5.2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋径 d	最外径 D	鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔 a+D
			(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	11	32mm 粗骨材最大径 25mmの場合	25mm	15mm	43mm
D13	14	20mm			46mm	
D16	18	24mm			50mm	
D19	21	29mm			53mm	
D22	25	33mm			58mm	
D25	28	38mm			66mm	
D29	33	44mm			77mm	

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事
施工箇所	亀山市辺法寺地内
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(1)
縮尺	— 図面番号 S-1
事業者名	亀山市

6 鉄筋の継手及び定着

6.1 継手及び定着

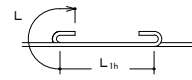
6.1.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、6.1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L _{1h} (フックあり)
		L ₁	L _{1h}	L _{1h}
SD295	24, 27	35d	25d	25d
	30	35d	25d	25d
SD345	24, 27	40d	30d	30d
	30	35d	25d	25d

- (注) 1. L₁、L_{1h} : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
 2. フックありの場合のL_{1h}は、6h_n1図に示すようにフック部分Lを含めない。



6.1図

6.1.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6.1.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6.2表による。

6.2表 鉄筋の定着の長さ

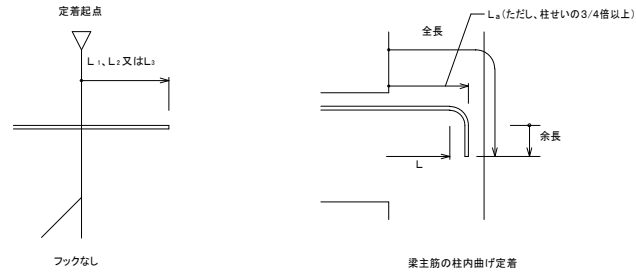
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり					
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}			
				小梁	スラブ			小梁	スラブ		
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d	かつ	150mm	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d								
SD345	24, 27	40d	35d	20d	10d	かつ	150mm	30d	25d	10d	—
	30	35d	30d								

- (注) 1. L₁、L₂、L₃ : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
 2. L₂、L_{2h} : 割壊破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 3. L₃ : 小梁及びスラブラの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
 4. L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 5. フックあり定着の場合は、6.2図(イ)に示すようにフック部分Lを含めない。また、中間部での折曲げは行わない。

6.1.4 定着の方法

定着の方法は6.2図による。
 なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さL₁が、6.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6.3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注) 1. L₁、L_{1h}は、6.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
 ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
 ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
 ・スラブラの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6.2図 定着の方法

6.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注) 1. L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎、片持ちスラブを含む。)
 2. L_b : 小梁及びスラブラの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

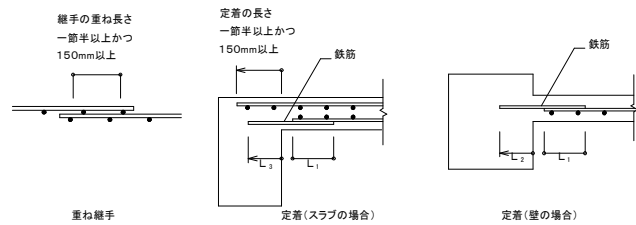
6.2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 隣り合う継ぎ手の位置は、6.4表により、a寸法を守る。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6.4表 隣り合う継手の位置

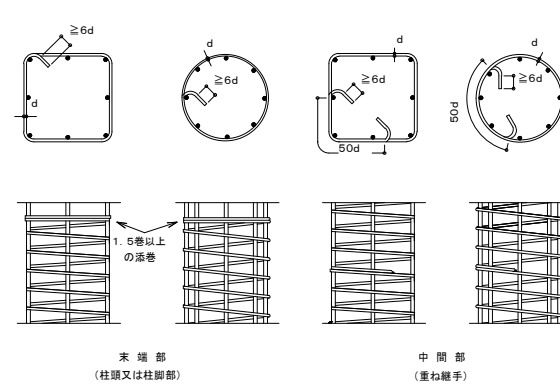
重ね継手	フック有りの場合	
	図1	図2
フックなしの場合	図3	図4
	図5	図6
圧接継手	図7	図8
	図9	図10

- (2) 溶接金網の継手及び定着は、6.3図による。



6.3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3) スパイラル筋の継手及び定着



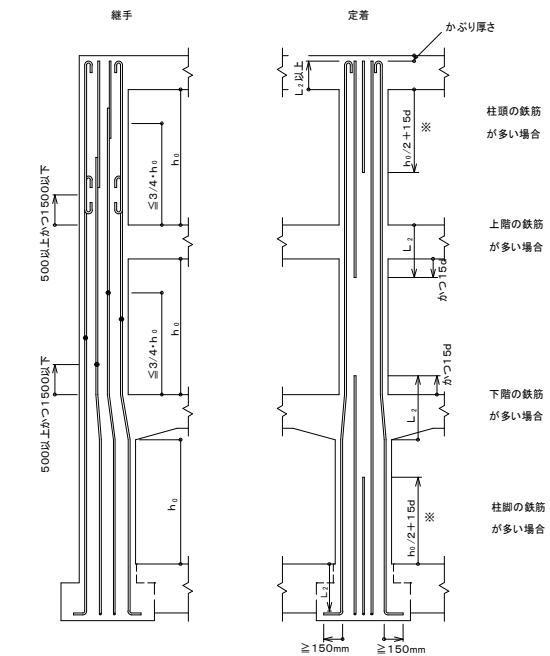
6.4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

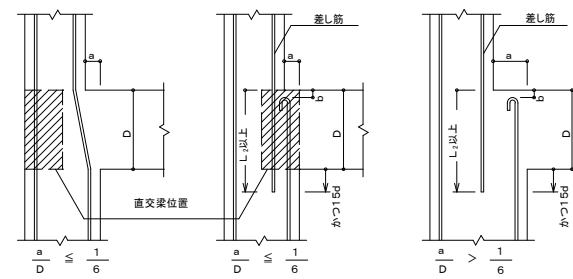
8 柱筋の継手及び定着

8.1 一般事項

- (1) 継手長さはL₁とし、定着及び余長は、8.1図による。
- (2) 柱頭定着長さL₂が確保出来ない場合は、図面による。
- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8.2図による。
- (4) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4h₀ (h₀は柱の内法高さ)以下とする。
- (5) ※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8.1図 柱主筋の継手、定着及び余長



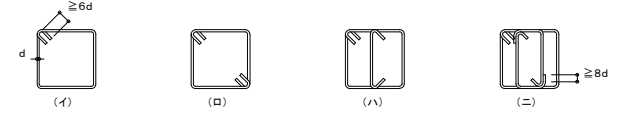
8.2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

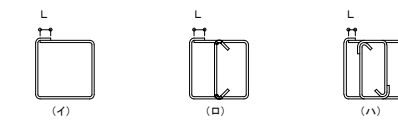
9.1 帯筋の形状

- (1) 帯筋の形状は、9.1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
 (a) H形を標準とする。
 (b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 (c) 溶接する場合の溶接長さは、両面フラ溶接の場合は5d以上、片面フラ溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
 (d) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。

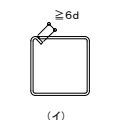
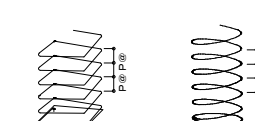
・H形



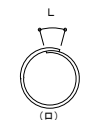
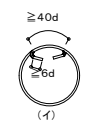
・W-I形(溶接を行う)



・SP形(スパイラル筋)



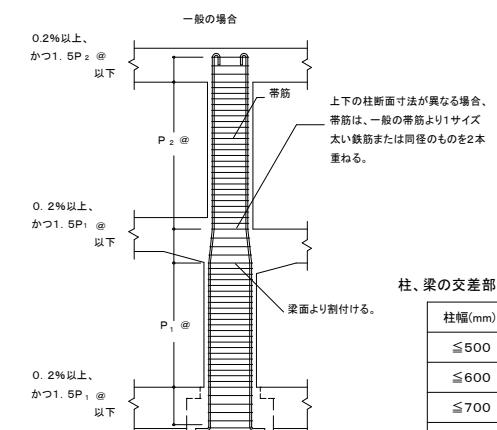
・丸形



9.1図 帯筋組立の形

9.2 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。
- (2) 帯筋の割付けは、9.2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3) 柱、梁の交差部(ハネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0.2%以上を確保し、補強筋間隔 ≤ 1.5Pとする。



9.2図 帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例(0.2%確保)

柱幅(mm)	ハネルゾーン
≤500	D10 @125
≤600	D10 @100
≤700	D10 @100
≤800	D13 @150
≤900	D13 @125
≤1000	D13 @125
≤1100	D13 @100
≤1200	D13 @100

※1.5P₁、1.5P₂のピッチは150mm以下とする。

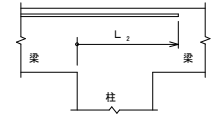
工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事	
施工箇所	亀山市辺法寺地内	
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(2)	
縮尺	—	図面番号 S-2
事業者名	亀山市	

10 大梁筋の継手及び定着

10.1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、10.1図による。



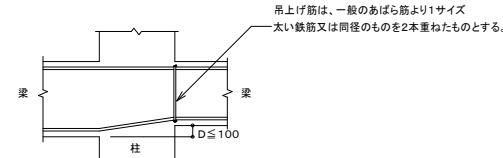
10.1図 梁主筋の梁内定着

- b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は、6.1.4による。

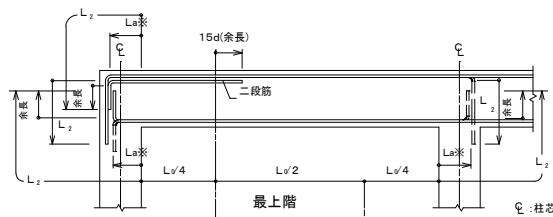
上端筋: 曲げ下ろす。
下端筋: 原則として曲げ上げる。

- c. 段違い梁は10.2図による。

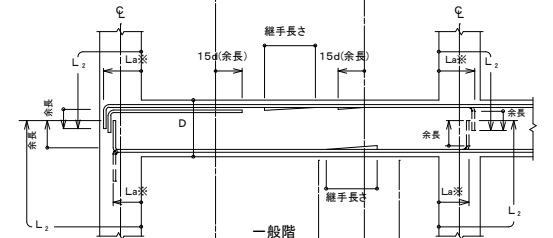


10.2図 段違い梁

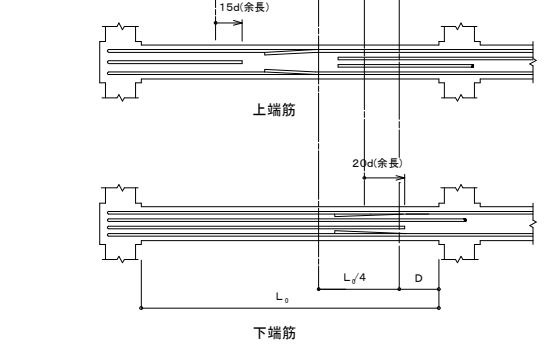
10.2 ハンチのない場合



最上階



一般階



上端筋

(注)1. 継手中心位置は次による。

上端筋: 中央 $L_0/2$ 以内
下端筋: 柱面より梁せい (D) 以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内

2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。

3. 印は、継手及び余長を示す。

4. 破線は、柱内定着の場合を示す。

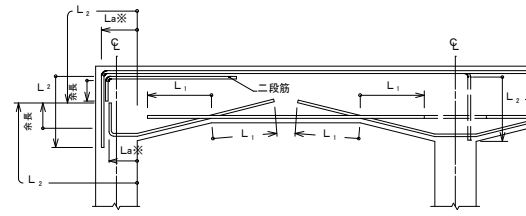
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。

※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

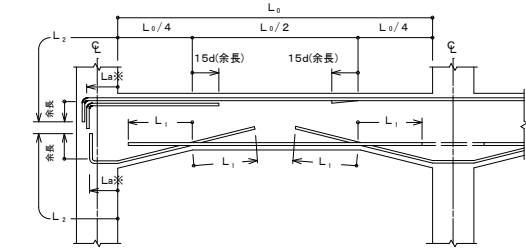
10.3 ハンチのある場合

(1) 最上階の場合



10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)

(2) 一般階の場合

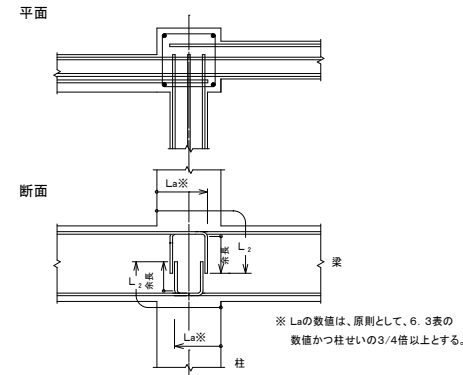


10.5図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)

- (注)1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。
4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.4 水平段差のある場合

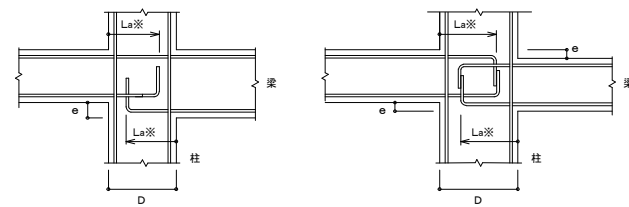
水平段差のある場合



10.6図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)

10.5 鉛直段差(e)のある場合

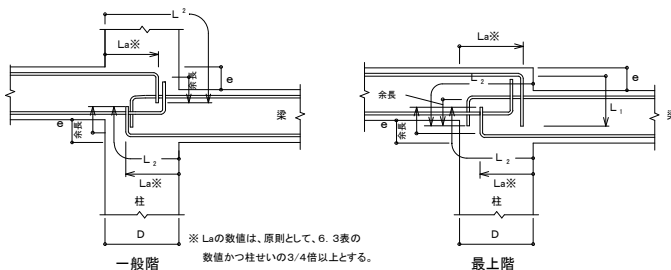
(1) $e/D \leq 1/6$ の場合



定着の長さは、10.3図に準ずる
※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.7図 鉛直段差梁(その1)

(2) $e/D > 1/6$ の場合



※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.8図 鉛直段差梁(その2)

11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

11.1 一般事項

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、 L_2 とする。
(3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
(4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000mmピッチ程度とする。

11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置

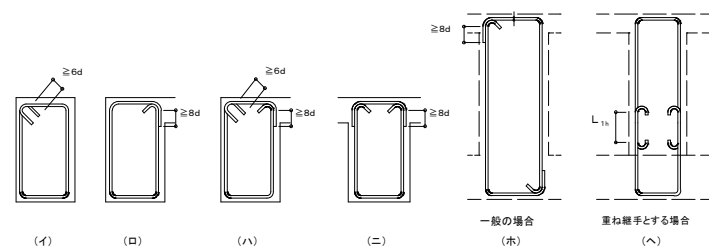
(1) 形は、11.1図(イ)を標準とする。

ただし、(イ) によることが出来ない場合は、下記の方法によることができる。

- a. 床版が片側に付く場合は、(ロ) 又は (ハ)
b. 床版が両側に付く場合は、(ロ) ~ (ニ)

(2) フックの位置

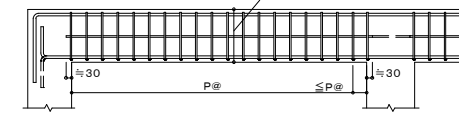
- a. (イ) の場合は交互とする。
b. (ロ) の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。
c. (ハ) の場合は床版の付く側を 90° 折曲げ、8d 確保する。
d. (ホ) (ヘ) の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1.5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



11.1図 あばら筋組立の形及びフックの位置

11.3 あばら筋の割付け

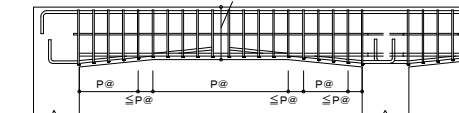
(1) 間隔が一律でハンチのない場合



- (注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中の P は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.2図 あばら筋の割付け(その1)

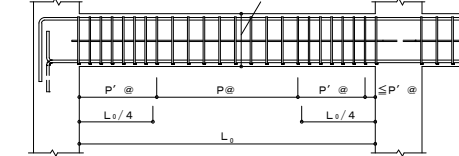
(2) 間隔が一律でハンチのある場合



- (注)1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
2. 図中の P は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.3図 あばら筋の割付け(その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



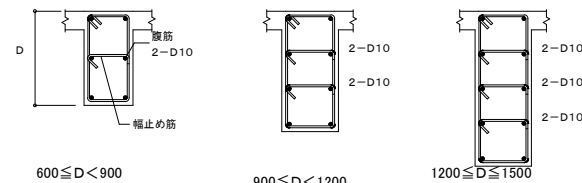
- (注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中の P 、 P' は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.4図 あばら筋の割付け(その3)

11.4 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



11.5図 腹筋及び幅止め筋

(2) 特殊な梁

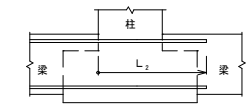
腹筋及び幅止め筋は、図面による。

12 基礎梁及び底版の継手及び定着

12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

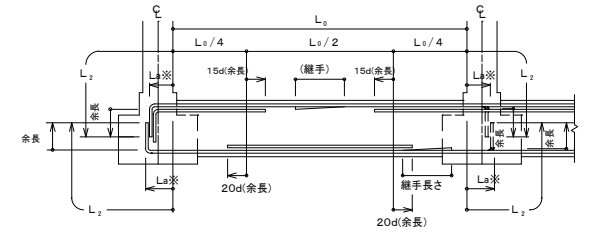
(1) 一般事項

- (a) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12.1図による。
(b) 梁筋を柱内に定着する場合は10.1(1)bによる。

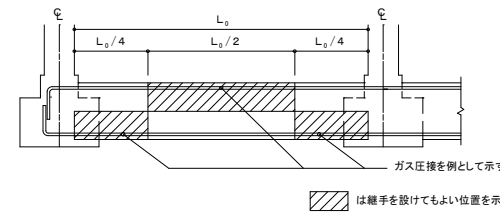


12.1図 梁筋の基礎梁内への定着

(2) 独立基礎で基礎梁(スラブなどの上載荷重を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長

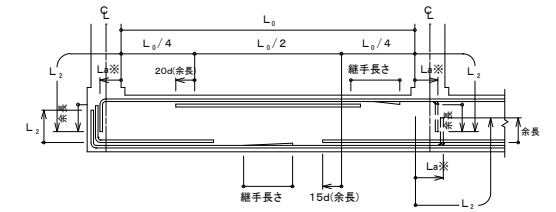


- (注)1. 図示のない事項は、10.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

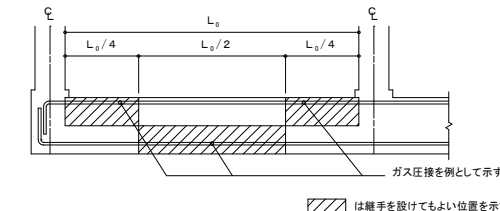


12.2図 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(3) 連続基礎及びべた基礎の基礎梁(基礎梁の下方より地反力(抗反力)を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長

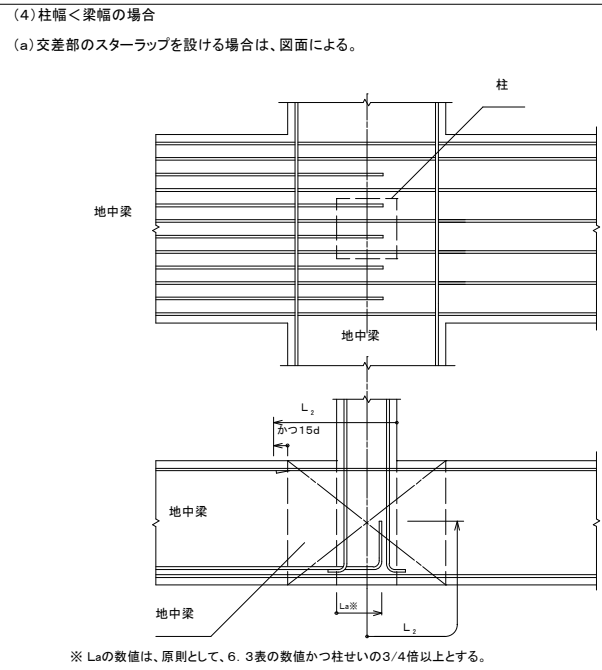


- (注)1. 図示のない事項は、10.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_a の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。



12.3図 主筋の継手、定着及び余長(その2)

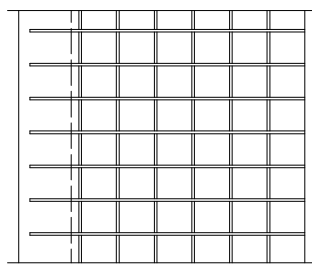
工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(3)		
縮尺	—	図面番号	S-3
事業者名	亀山市		



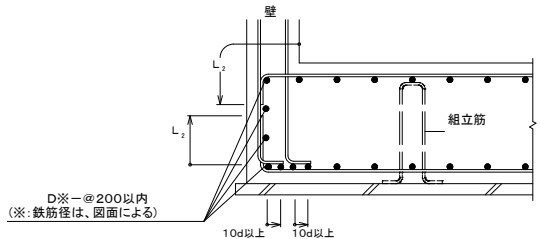
12.4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

12.4 梁形を設けない場合の基礎底版(オイルタンク等)

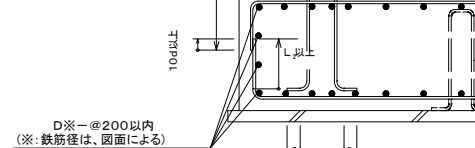
- (1) 定着の取り方は、壁の面からとする。
- (2) 途中で配筋が変わる場合の定着は、12.2図のように基礎底版筋を梁筋と読みかえる。



12.5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

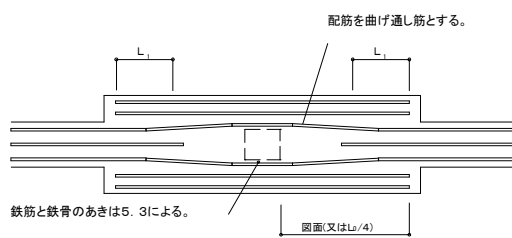


12.5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)



12.5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

- (3) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12.6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

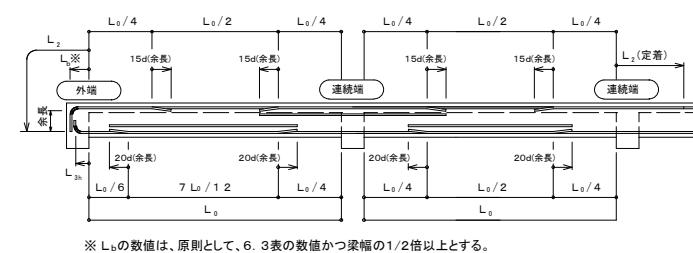
13 小梁及び片持梁の配筋要領

13.1 一般事項

- (1) 図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2) 印は、継手及び余長を示す。

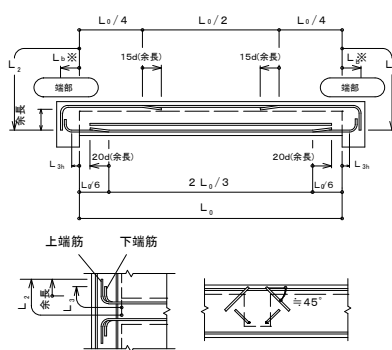
13.2 小梁

- (1) 連続小梁の場合



13.1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (2) 単独小梁の場合



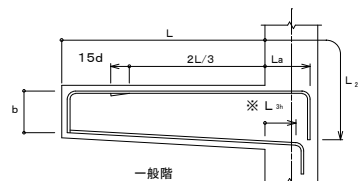
13.2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、10.1及び12.1に準ずる。
- ※ Lcの数值は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13.3 片持梁筋の定着

- (1) 先端に小梁のない場合

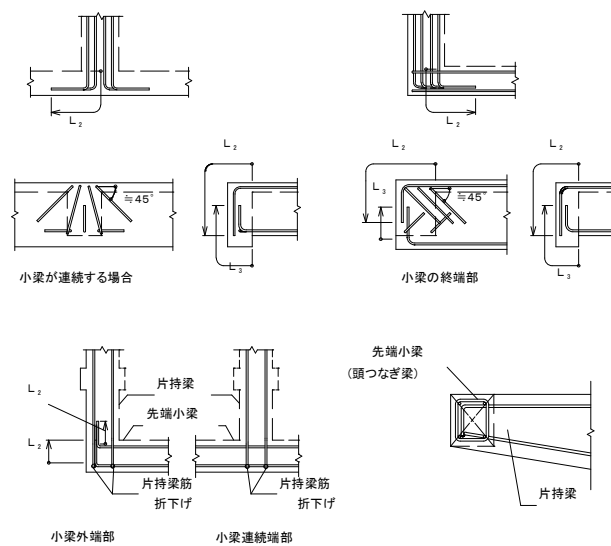
- 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



13.3図 片持梁筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

- (2) 先端に小梁がある場合

- 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

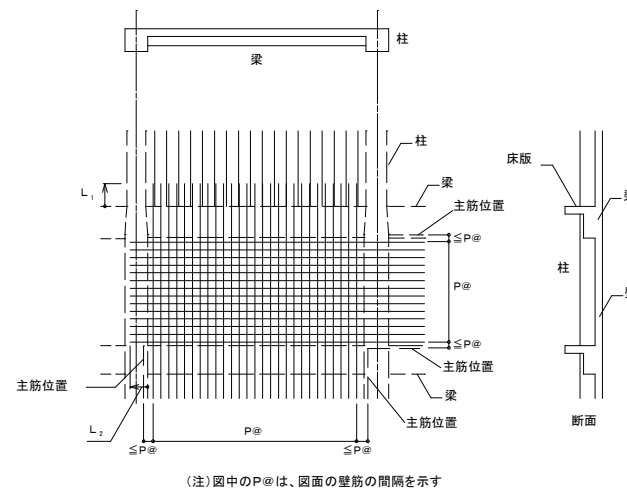


13.4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14.1 一般事項

- (1) 一般壁配筋の重ね継手の長さはLcとし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。また、定着の長さは、Lcとし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
- (2) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (3) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
- (4) 土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



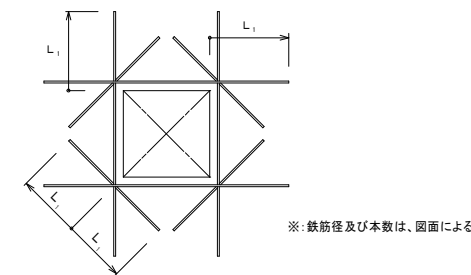
14.1図 壁の配筋

14.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外では設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14.3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14.3図を標準とする。

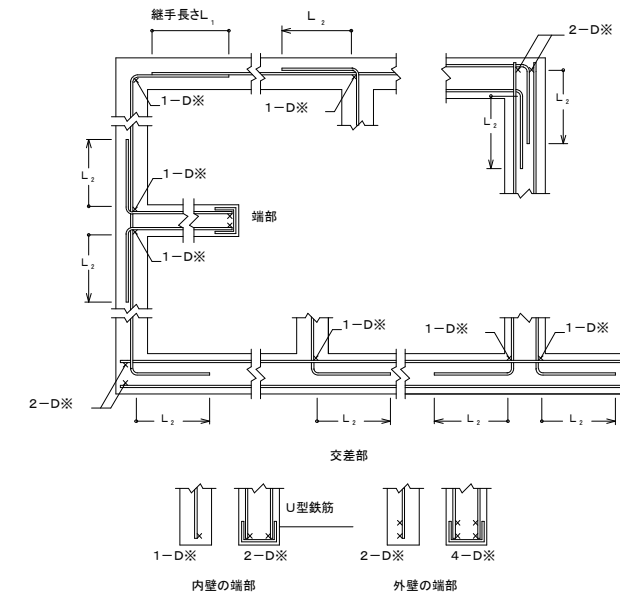


14.3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14.4 壁の交差部及び端部

- 壁の交差部及び端部の交差部は、14.4図による。
- 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

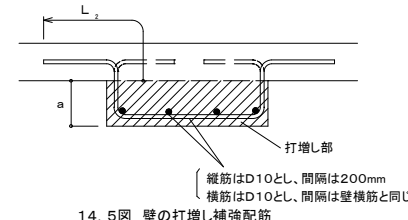


14.4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14.5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14.5図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを超える場合は、特記による。



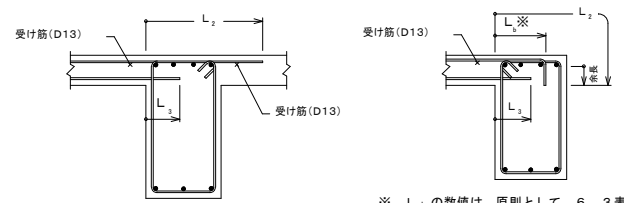
14.5図 壁の打増し補強配筋

工事名	刃法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市刃法寺地内		
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物) (4)		
縮尺	-	図面番号	S-4
事業者名	亀山市		

15 床の配筋要領

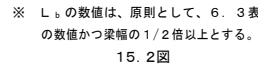
15.1 一般事項

- (1) 鉄筋の継手長さは、 L_1 とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。
- (3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。



15.1図

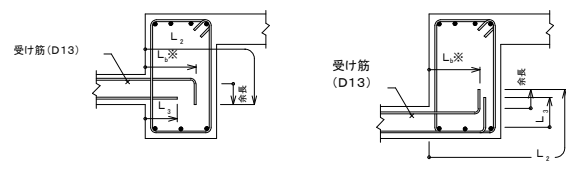
スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)



15.2図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

※ L_1 の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

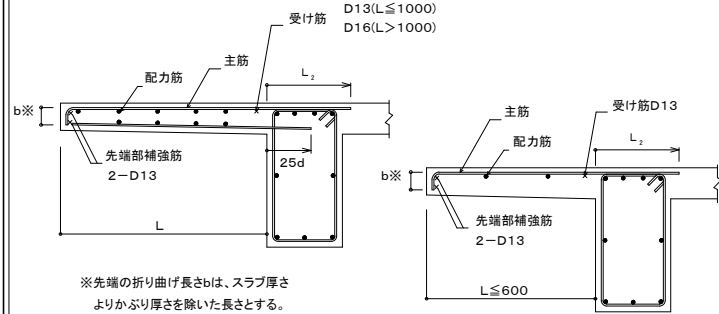


15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)

※ L_1 の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

15.2 片持スラブ

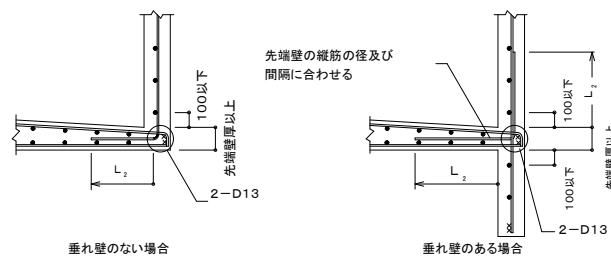
(1) 片持スラブの配筋



15.4図 片持スラブの配筋

※先端の折り曲げ長さ b は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

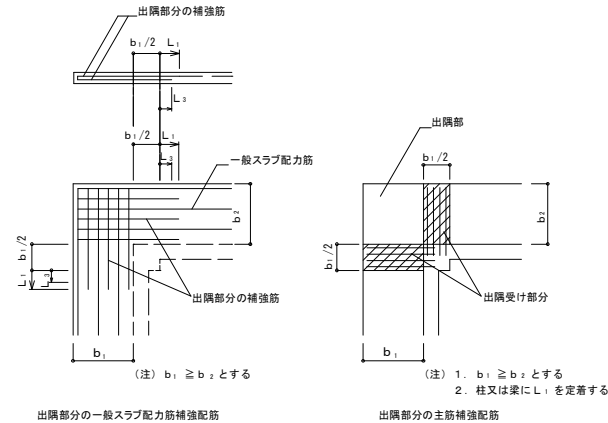
(2) 先端に小梁がなく壁に取り付く場合



15.5図 先端に壁が付く場合の配筋

15.3 片持スラブ出隅部の補強配筋

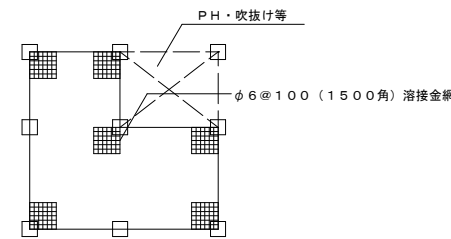
- (1) 出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。
- (2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。



15.6図 片持スラブ出隅部の補強配筋

15.4 地上部最上階の屋根床版

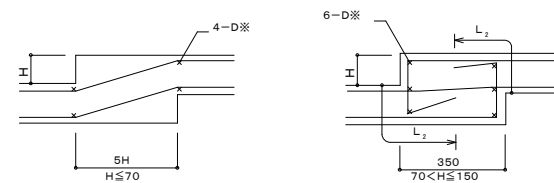
- (1) 出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。
- (2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。



15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋

15.5 段差床版の補強

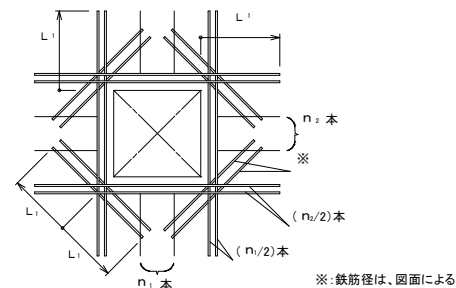
- 同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、 $H > 150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



15.8図 段差のある床版の補強配筋

15.6 床版開口部の補強

- (1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図) 開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



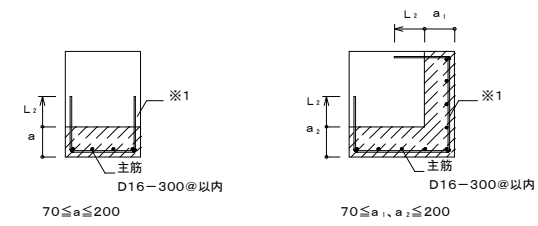
15.9図 床版開口部の補強配筋

- (2) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

16 柱及び梁の増し打ち要領

16.1 柱

- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。ただし、 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm} < a$ の場合は、図面による。



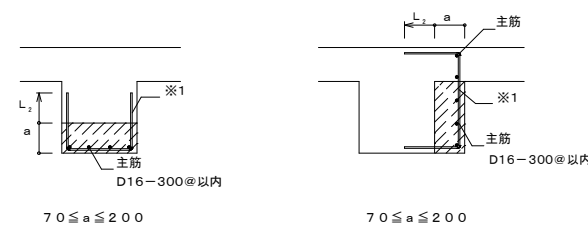
※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

16.1図 柱の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
- (3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
- (4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

16.2 梁

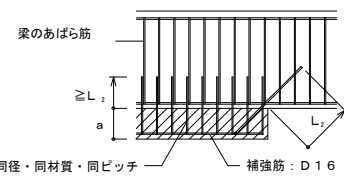
- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm} < a$ の場合は、図面による。



※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

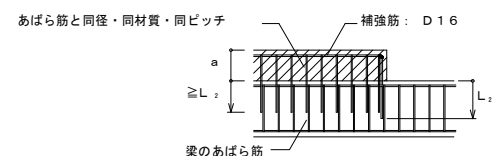
16.2図 梁の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
- (3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
- (4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- (5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合)

(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合

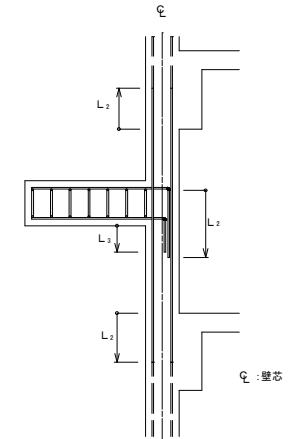


16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

18 階段の配筋要領

18.1 階段の配筋要領

- (1) 壁配筋は、図面による。
- (2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。



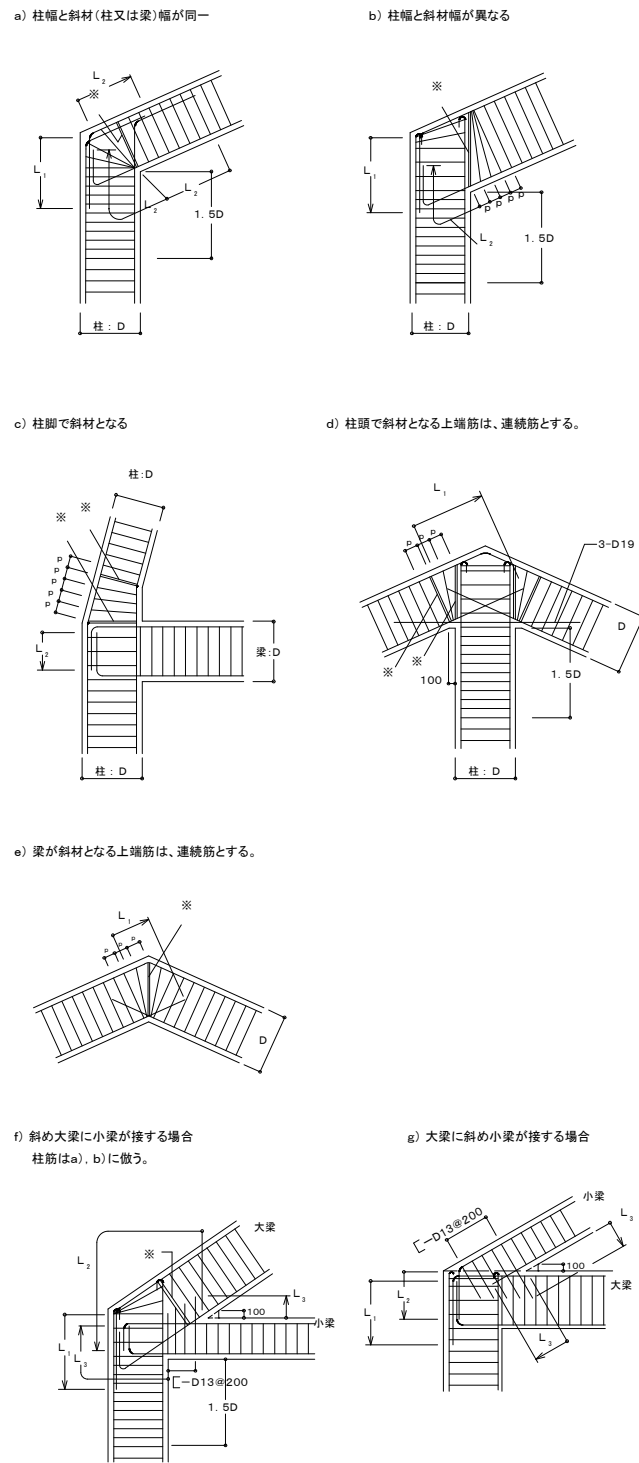
18.1図 片持スラブ形階段配筋の定着

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(5)		
縮尺	—	図面番号	S-5
事業者名	亀山市		

19 勾配屋根の取り合い

19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い

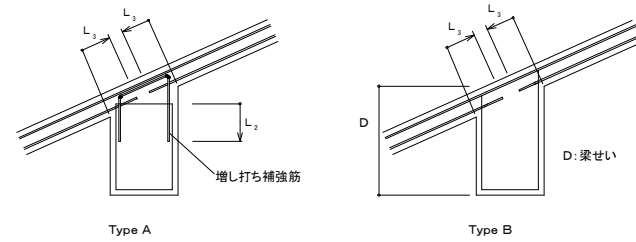
- (1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
- (2) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。
- (3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。



19.1 図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

19.2 梁と床版の取り合い

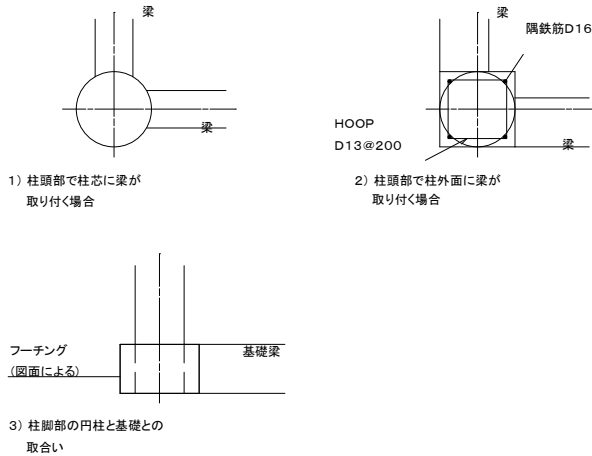
増し打ち補強要領は、16.2による。



19.2 図 梁と床版の取り合い配筋

19.3 円柱の取り合い

円柱と梁の取り合い

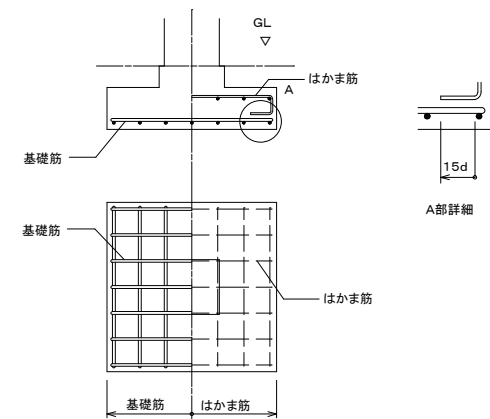


19.3 図 円柱の取り合い配筋

20 基礎及び基礎梁の配筋

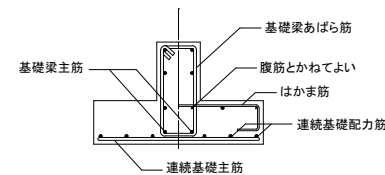
20.1 直接基礎の配筋

(1) 独立基礎



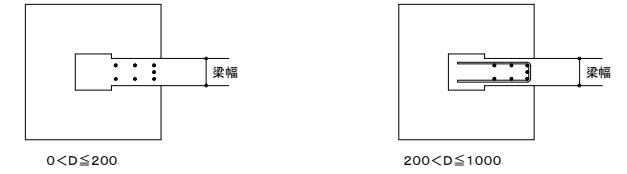
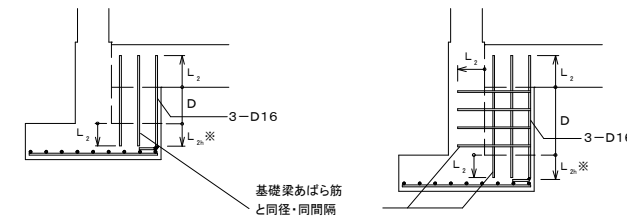
20.1 図 独立基礎の配筋

(2) 連続基礎



20.2 図 連続基礎の配筋

20.2 基礎接合部の補強配筋

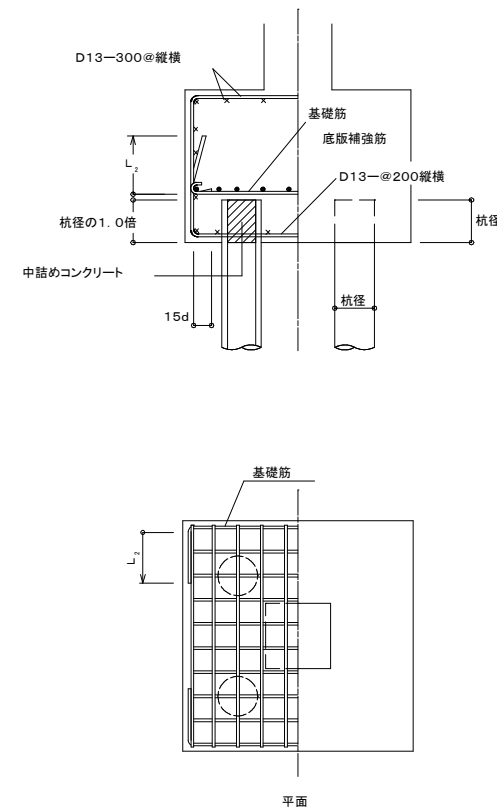


※L2を確保できない場合は、標仕(5.3.4(e)(2))によることができる。

21 杭基礎の補強

21.1 杭基礎の配筋

- (1) 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
- (2) 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



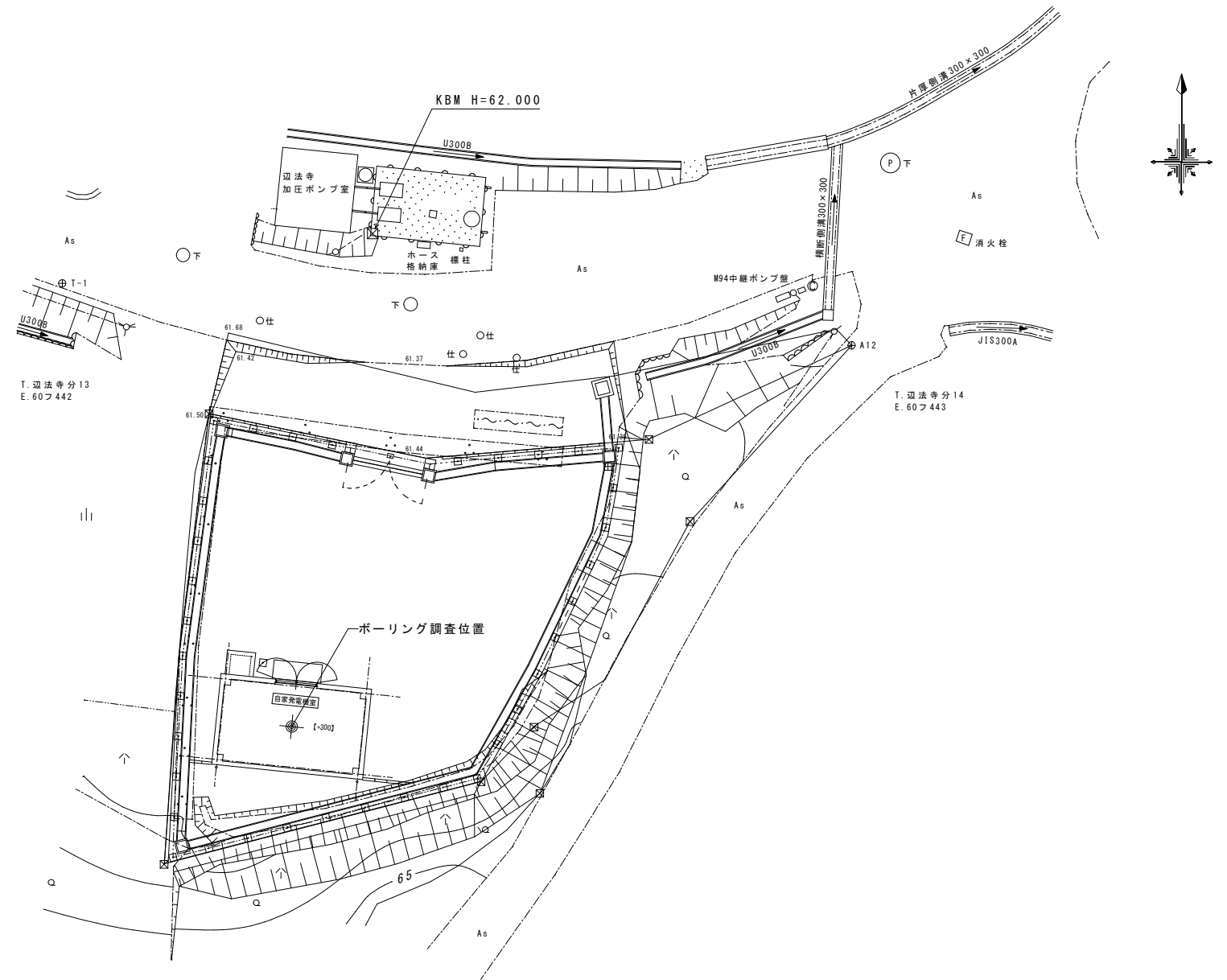
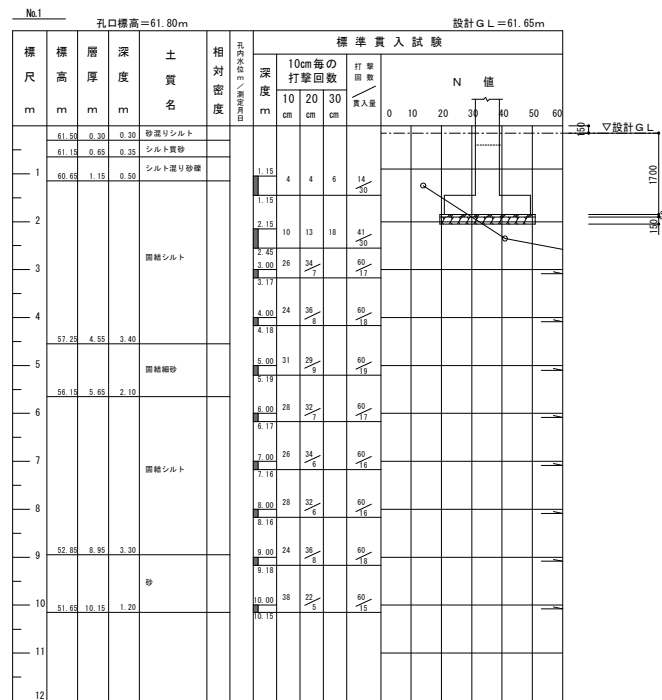
21.1 図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

21.2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、20.2による。

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(6)		
縮尺	—	図面番号	S-6
事業者名	亀山市		

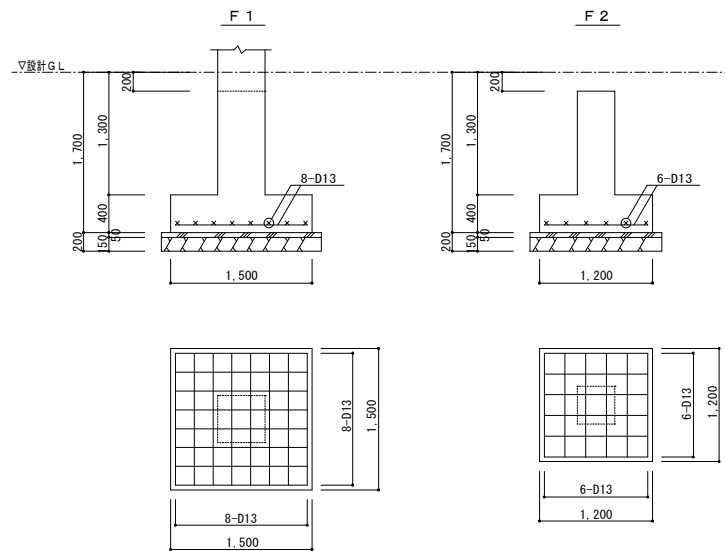
ボーリング調査位置図・柱状図



ボーリング調査位置図 1:150

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	地質調査図		
縮尺	1:150	図面番号	S-7
事業者名	亀山市		

基礎配筋図 1:40



地中断面表 1:40

特記を除き 巾止め筋: D10-@1000
梁主筋は上端筋・下端筋共にX方向が上、Y方向が下とする。

符号	FG 1	FG 2	FB 1	梁天フカシ要領
位置	全断面	全断面	全断面	
断面				
上端筋	4-D22	4-D22	3-D22	
下端筋	4-D22	4-D22	3-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@150	□-D10-@200	
腹筋	2-D13	4-D13	-	

大梁・小梁断面表 1:40

特記を除き 巾止め筋: D10-@1000

符号	G 1	G 1 A	G 2	B 1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
断面				
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D10-@200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	-

柱リスト 1:40

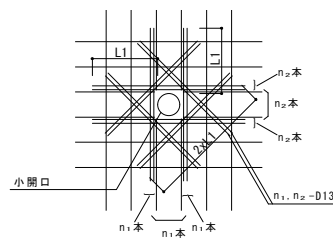
特記を除き フープはスパイラル型とする。
HOOP: 仕口内フープ (H形) D13-@100
D.HOOP: D13-@300

符号	C 1	CA (基礎柱)
断面		
主筋	16-D25	8-D16
HOOP	□-D13-@100	□-D13-@100
D.HOOP	□-2-D13	□-2-D13
備考	全周フック	四隅フック

壁断面表 1:40

符号	W 2 0	EW 1 8	EW 2 0	開口部補強筋
水平断面				
縦筋	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)	
横筋	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)	
開口補強筋	縦筋 2-D16	-	2-D16	
横筋	2-D16	-	2-D16	
斜め補強筋	2-D16	-	2-D16	

壁開口部補強要領



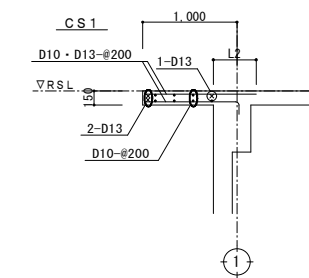
設備の小開口等が壁に設けられる場合は、下記の補強を施す。
1. 壁配筋の縦横両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
2. 開口によって切られる鉄筋と同量以上の鉄筋を開口を空けて配筋する。
※ 小開口からの鉄筋のかぶり30mm以上確保する。

床版配筋リスト

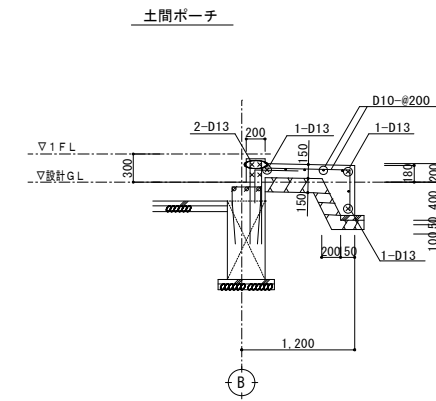
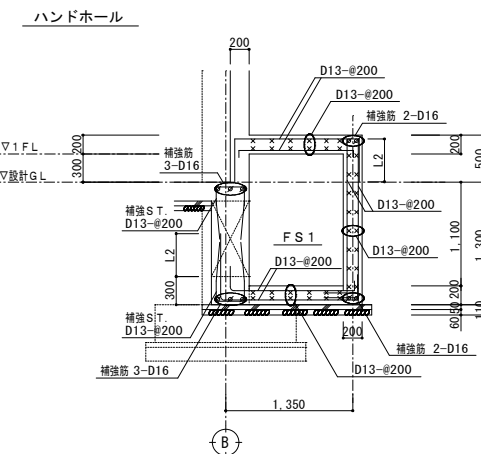
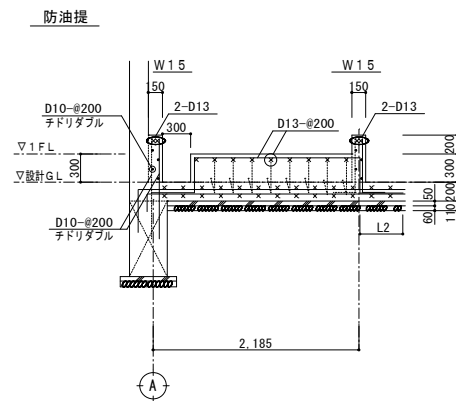
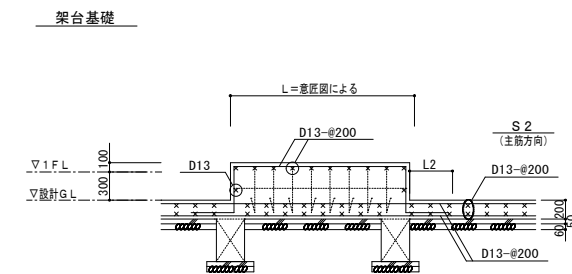
*土に接する床版はコン(ア)50、敷砂利(ア)60の地盤を行う

符号	版厚	位置	短辺方向・主筋方向	長辺方向・配筋方向
S 1	150	上端筋	D10-D13-@200	D10-D13-@200
		下端筋	D10-D13-@200	D10-D13-@200
S 2	200	上端筋	D13-@200	D13-@200
		下端筋	D13-@200	D13-@200
CS 1	150	上端筋	D10-D13-@200	D10-@200
		下端筋	D10-D13-@200	D10-@200

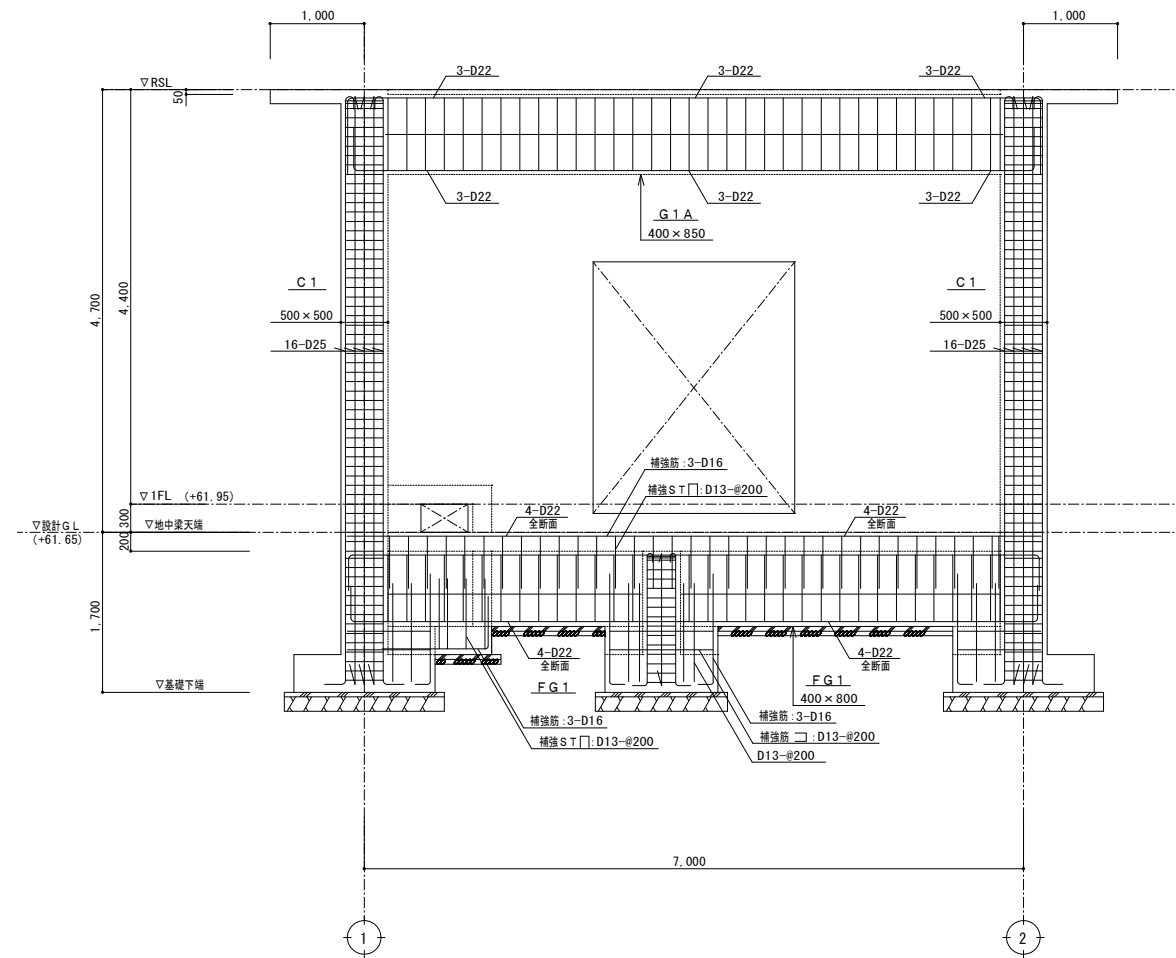
片持ちスラブ配筋図 1:40



雑配筋図 1:40

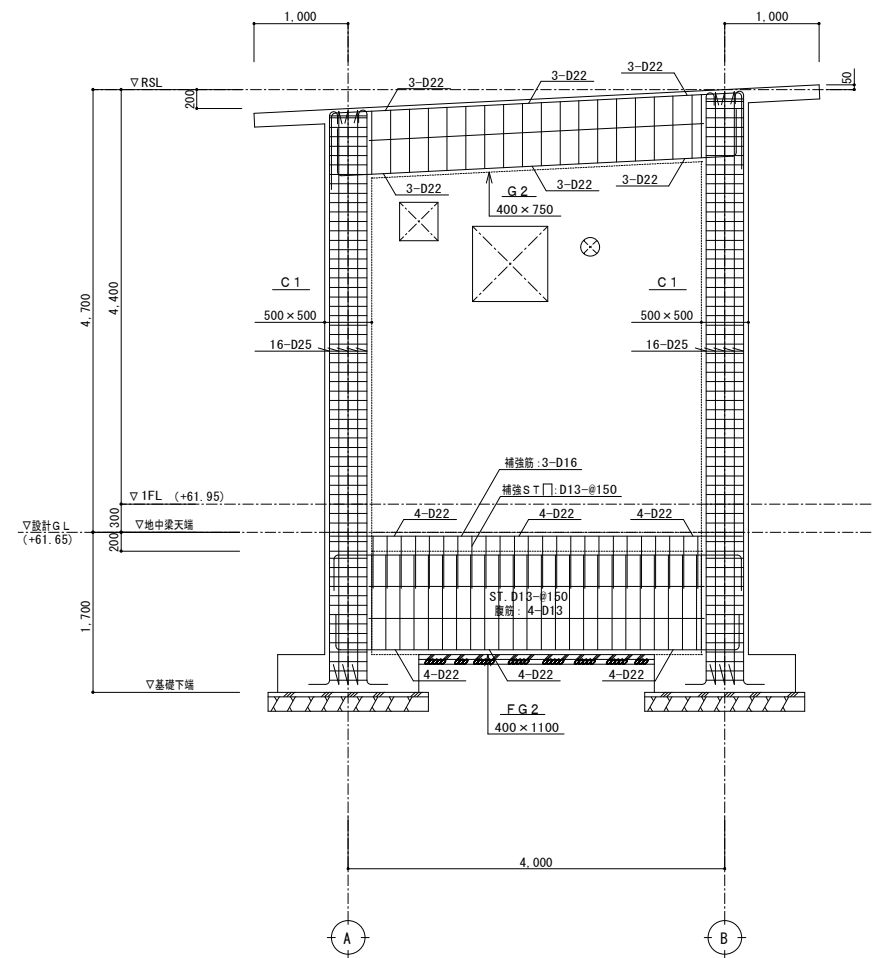


工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	基礎配筋図・地中梁断面表他		
縮尺	1:40	図面番号	S-9
事業者名	亀山市		



B通 ラーメン配筋架構詳細図 1:40


特記を除き	壁	W20
	柱	フープはスパイラル型とする 仕口内はH型とする
	フープ	D13-#100
	仕口内フープ	D13-#100
	最上階 柱頭の主筋は全てフック付きとする	
	大梁	スターラップ D13-#200 腹筋 2-D10 巾止め筋 D10-#1000
	基礎梁	スターラップ D13-#200 腹筋 2-D13 巾止め筋 D10-#1000

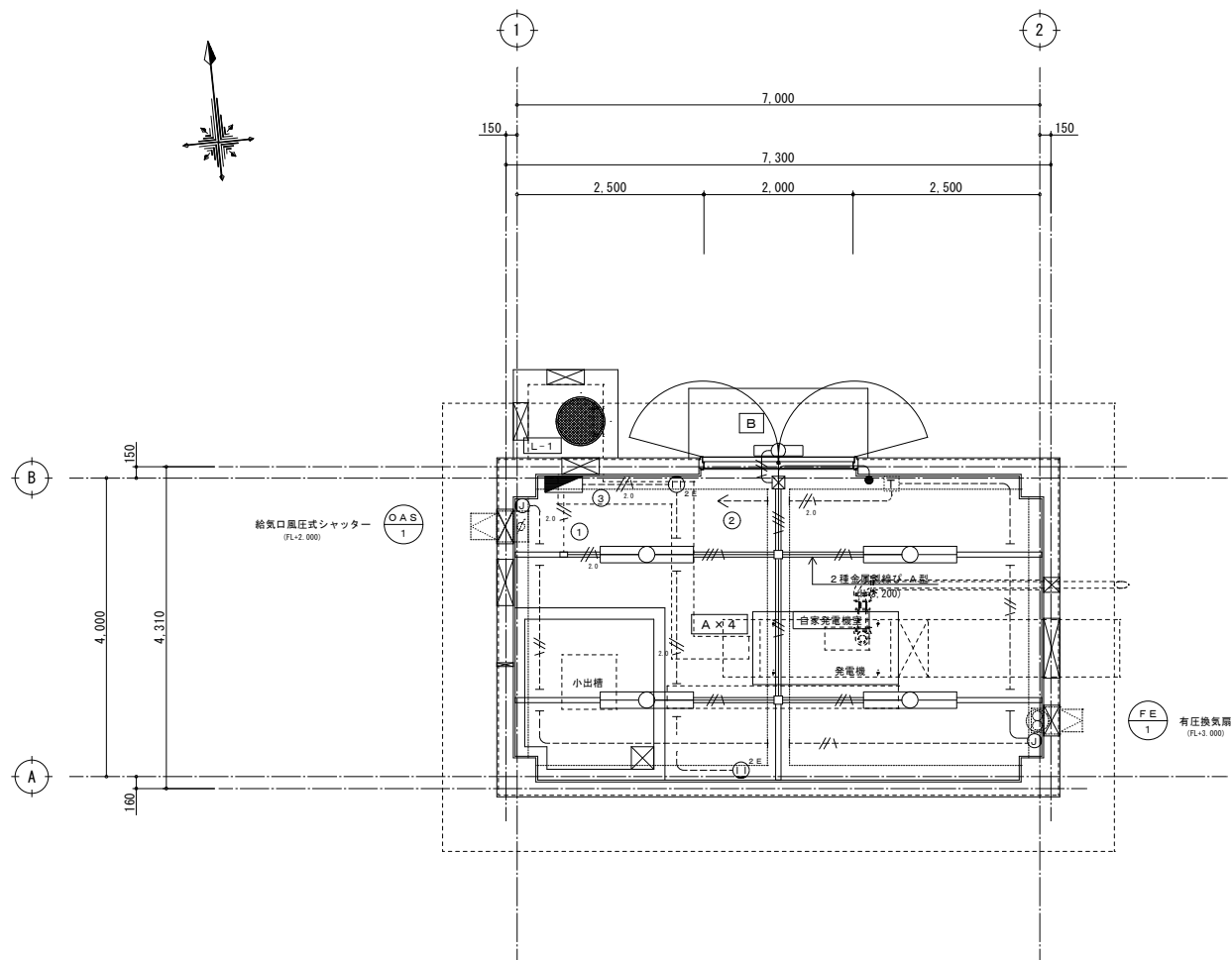
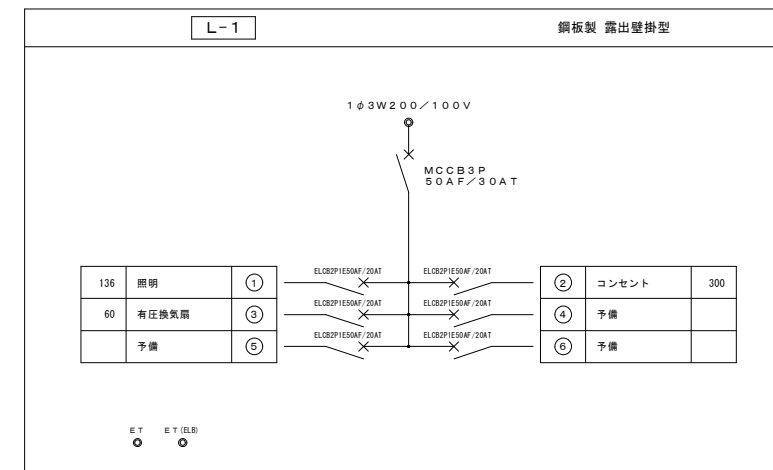


2通 ラーメン配筋架構詳細図 1:40

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	ラーメン配筋詳細図		
縮尺	1:40	図面番号	S-10
事業者名	亀山市		

<p>● 施工仕様</p> <p>○ 既設設備等の調査</p> <p>○ 施工前の測定等</p> <p>● 耐震措置</p> <p>○ はつり</p> <p>● インサート</p> <p>○ あと施工アンカー</p> <p>○ 基礎の配線ビット</p> <p>○ 防火区画等の貫通</p> <p>○ 管路等の外壁貫通</p> <p>○ 配管・配線の耐震耐震処置</p> <p>● 最上階の埋込配管</p> <p>● 露出配管</p> <p>○ 屋上の露出配管等</p> <p>● 合成樹脂管</p> <p>○ 予備配管等</p> <p>○ 金属電線管等の塗装</p> <p>○ 導入線</p>	<p>既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。</p> <p>(1) 地中埋設管路 1) 項目 ・埋設配管 ・構造物 ・その他 () 2) 調査範囲 ・埋設ルート ・その他 () (2) 貫通及びはつり 1) 項目 ・鉄筋 ・配管 ・その他 () 2) 調査範囲 ・施工部分 ・その他 () (3) 既設との取合い 1) 項目 ・接続箇所 ・増設箇所 ・その他 () 2) 調査範囲 ・施工部分 ・その他 ()</p> <p>改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に、監督員に報告すること。</p> <p>設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)、「官庁施設の総合耐震・対策計画基準(平成25年版)」による。</p> <p>(1) 設計用水平地震力 機器の重量 [kN] に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">○ 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階、 屋上及び塔屋</td> <td>機器 2.0 防振支持の機器 2.0 水槽類 2.0</td> <td>1.5 1.0 1.5</td> <td>1.5 2.0 1.5</td> <td>1.0 1.5 1.0</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>機器 1.5 防振支持の機器 1.5 水槽類 1.5</td> <td>1.0 1.5 1.0</td> <td>1.0 1.5 0.6</td> <td>0.6 1.0 0.6</td> </tr> <tr> <td>地下、1階</td> <td>機器 1.0 防振支持の機器 1.0 水槽類 1.5</td> <td>0.6 1.0 1.0</td> <td>0.6 1.0 1.0</td> <td>0.4 0.6 0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【備考】・上層階とは2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層4階とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの ・水槽類は燃料小槽を含む。</p> <p>重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置 (防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視制御装置 ○</p> <p>(2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(1)穴開け及び補修 ・なし ・あり (貫通場所及び径は別図による) (2)溝はつり及び補修 ・なし ・あり (はつり深さは別図による)</p> <p>インサートの取付けに使用した釘等は除去し、錆止め塗装を行う。</p> <p>(1) 種類 ・接着系アンカー (・カプセル方式 ・注入方式) ・金属系アンカー (・打込み方式 ・締付け方式) ・その他のアンカー類 () (2) 性能及び施工確認 ・行う ・行わない</p> <p>基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等を考慮する。</p> <p>防火区画等の貫通は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合した方法で、防火処理を行う。</p> <p>外壁を貫通する管路等は、屋内に水が浸入しないように防水処置を施す。</p> <p>建物引込部の配管の耐震処置 ・行う ・行わない 建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ・行う ・行わない</p> <p>最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。</p> <p>(1) 雨絡外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。 (2) 附属品は、ねじ込み形を使用する。 (3) 壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分 (2m以下)の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。 (4) 通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。 (5) 監督員の指示がある場合は、上記に係らずその指示に従う。</p> <p>屋上の露出配管は、防水層を傷つけないようにふ設する。</p> <p>(1) 合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。 (2) 原則として屋外の露出には使用しない。(PF管)</p> <p>(1) 埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(PF22)を1本、5回路以上は(PF22)を2本施工する。 スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。 また、二重天井の場合は、天井まで立上げ、位置ボックスを取付ける。 (2) 防犯主装置、自動火災報知受信機、MDF、警報盤等の間に移報のための空配管を行う。</p> <p>(1) 露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下配の部分には、塗装を施す。 1) 屋外、屋内(電気室、機械室、EPS、居室、廊下)、その他建築意匠上必要な箇所。 2) 図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。 ただし、図面に指示がある場合はその指示による。 3) 湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。) 4) 仮付貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。 (2) 塗装はエッチングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて割合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。</p> <p>通線を行わない配管及び配線引き後に空となった配管には、導入線(φ1.2mm以上の樹脂被覆軟線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。</p>	機器種別	○ 特定の施設		● 一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、 屋上及び塔屋	機器 2.0 防振支持の機器 2.0 水槽類 2.0	1.5 1.0 1.5	1.5 2.0 1.5	1.0 1.5 1.0	中間階	機器 1.5 防振支持の機器 1.5 水槽類 1.5	1.0 1.5 1.0	1.0 1.5 0.6	0.6 1.0 0.6	地下、1階	機器 1.0 防振支持の機器 1.0 水槽類 1.5	0.6 1.0 1.0	0.6 1.0 1.0	0.4 0.6 0.6	<p>○ 予備スリーブ</p> <p>○ ボックス類</p> <p>○ 軽量間仕切のボックス</p> <p>○ プルボックス</p> <p>● ボルト・ナット類</p> <p>● 環境に配慮した電線の採用</p> <p>● ケーブル及び配線</p> <p>○ 開口部布設のケーブル保護</p> <p>● 配線器具の設置</p> <p>● 照明器具の設置</p> <p>○ 照明制御装置の設定</p> <p>○ 換気扇</p> <p>● 分電盤、制御盤、キュービクル等</p> <p>○ 受変電設備、発電設備の設置場所</p> <p>○ 発電設備の燃料配管</p> <p>○ 非常放送設備のスピーカ設置</p> <p>○ 土工事</p> <p>○ ハンドホール、マンホール</p> <p>○ 地中配線路の表示杭</p> <p>梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。 なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。</p> <p>位置ボックス及びジョイントボックス類は、図面に特記なき場合、原則として金属製とする。</p> <p>軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により壁面に固定する。</p> <p>(1) 屋外形、特殊な形状又は一辺が80mm以上のものは、製作図を提出すること。 (2) 屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコナゲを行う。</p> <p>屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの ・ステンレス ・溶融亜鉛メッキ仕上げ</p> <p>電線、ケーブル及び通信線はEM(エコマテリアル)ケーブルを使用すること。</p> <p>(1) 表示 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示杭(ケーブル種別及びサイズ、行き先、施工年、用途、施工者名等を表示。)を取り付ける。 ① ケーブルがスラブを貫通する部分 ② ケーブル分岐部分 ③ 変電所内のケーブル引出し部分 ④ 壁内及び接地端子箱の外部引込み部分 ⑤ 屋内の直線部分は、30mごと ⑥ プルボックス内 ⑦ 屋外の共同溝等の直線部分は、50mごと ⑧ 屋外の地中管路より建物内への引込み部分 ⑨ マンホール及びハンドホールごと</p> <p>(2) ケーブル余長 1) 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数 ・2箇所 ・4箇所 ・()箇所 2) 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数 ・2箇所 ・4箇所 ・()箇所</p> <p>貫通穴等の開口部にケーブルを通す場合には、ケーブル損傷を防ぐためシール材を充填するなどのケーブル保護を行うこと。</p> <p>(1) 配線器具(コンセント、スイッチ等)には電圧、用途などの表示を行う。 なお、表示内容については、監督員と調整を行う。 (2) 特殊コンセントはプラグ付とする。 (3) 電源の種類により色を区別する。 (4) 公共住宅の住戸部分に設置するスイッチ・コンセントは原則として表示付とし、特記なきスイッチはワイドスイッチとする。 (5) 配線器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁棒を使用する。 (6) プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。 (7) カバプレートは、原則として新金属製とする。 なお、器具を塗装しない位置ボックスには用途表示を行うこと。 (8) フロアプレートは、水平高低調整型(空転防止リング付)とする。</p> <p>(1) 照明器具を設置する前に、照度分布図を作成し監督員の承諾を得ること。 (2) 照明器具取付完了後、照度測定を行う。照度計は一般形A級とする。 (3) 天井下地利り支持をする場合は、ワイヤ等により脱着防止の措置を行う。 (4) ハイズ吊りの照明器具は振れ止めを施工する。</p> <p>照明器具の点検センサー制御を行う部屋には、注意プレートを設置する。</p> <p>手や物が届く箇所やカーテン等が付く箇所には、格子ガードを付けること。 また、金属製パネルに設置する場合は、絶縁棒等を使用する。</p> <p>図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を貼る。 また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。</p> <p>(1) 保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。 (2) 屋内に設置する場合は、床の強度計算書、換気計算書等を監督員に提出する。 (3) 屋外に設置する場合は、機器及び基礎の重量を求め、地盤の許容地耐力を確認し、結果を監督員に提出する。 なお、地盤改良を行う場合は、工法について監督員と協議する。 (4) 基礎の高さは周囲の状況を考慮する。 (5) 電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。</p> <p>(1) フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。 (2) 配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。</p> <p>(1) 放送区域の各部からスピーカまでの水平距離は10m以内とする。 (2) 階段等にスピーカを設置する場合は、垂直距離15m以内とする。 (3) 増幅器からスピーカまでの配線及び非常電話の配線は、各系統ごとに独立させ、共通線方式は用いない。</p> <p>(1) 埋戻しの材料及び工法 ・B種 (材料:根切り土の中の良質土 / 工法:機器による締め固め) ・その他 () ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。 (2) 特記なき地中埋設配管の深さは、GL+600mm以上とする。 (3) 根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。 (4) 機械掘削は根切り底を乱さないようにする。</p> <p>高さ900mmを超えるものについては、タラップ付とする。 なお、タラップの取付は450mm間隔以内とする。</p> <p>下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。 ① 建物への引込口及び送出口付近 ② マンホール・ハンドホール付近 ③ 地中線路の曲折箇所 ④ 道路横断箇所 ⑤ 直線部分では30m程度に1個(30mに満たない部分はその間に1個)</p>	<p>● 機器仕様</p> <p>● 【電力設備】</p> <p>● 電灯設備</p> <p>(1) 電気方式 1) 種別 ① 幹線 ・三相3線式(200/100V) ② 分岐 ○三相2線式(200/100V) 2) 周波数 60Hz (2) 既設等との取合い ○無し ・壁改造 ・配線接続 ・電源供給 ・その他() (3) 機器類 ○一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯(単独設置) ○コンセント等 ○分電盤、制御盤等 ・その他() (4) 一般照明器具 1) 形式 ○公共型 ○一般型 2) 灯具 ○LED灯 ・その他() 3) 用途 ○屋内用 ○屋外用 ・防災用 4) 環境 ○普通地域 ・塩害地域 5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。 (5) 照明制御装置 1) センサ類 ・明るさセンサ ○人感センサ ・タイマ ・調光スイッチ ・その他() 2) 調光方式 ・連続調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 ・その他() 3) 制御方式 ・有線 ・無線通信 (6) 外灯(単独設置) 1) 照明用ポール ① 材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他() ② 配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。 2) 基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 3) 灯具 ・LED灯 ・その他() 4) 電源 ・商用電源(60Hz) ・(200V ・100V) ・その他() 5) 制御 ・Eスイッチ ・タイマ ・その他() 6) 接地 ・単独接地(・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他() (7) コンセント等 ○一般型 ・防水型 ・ハイテンションアウトレット(・固定型 ・上下動型(アップ式を含む)) (8) 分電盤、制御盤等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。 (9) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (10) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (11) 低圧電磁接触器 低圧三相コンデンサ制御用電磁接触器の定格使用電流は、 コンデンサ定格電流の1.5倍以上とする。 (12) 高圧気中開閉器 1) 制御電源用変圧器及び避雷器内蔵 2) 開閉器及び地絡方向継電器外箱 ・ステンレス製 ・鋼板製 3) 定格電流 ・200A ・()A 4) 定格投入遮断電流 ・12.5kA ・()A (13) 設備不平衡 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。 (14) キュービクル等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 (14) 基礎 ・本工事(・21N/mm² ・18N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() (15) 配線ビット及び蓋 1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 (16) 設置場所 ・屋内(・地上 ・屋上) (17) 消火器 ・有(ABC10型 収納箱付) ・無 ・その他()</p> <p>(1) 電気方式 1) 種別 ・三相3線式(・6.6kV ・200V) ・三相3線式(200/100V) ・三相2線式(100V) 2) 周波数 60Hz (2) 既設との取合い ・無し ・改造(機器取替、追加等を含む) ・増設 ・配線接続 ・その他() (3) 機器類 ・変圧器 ・交流遮断器 ・断路器 ・負荷開閉器 ・変圧器 ・連相コンデンサ ・直列リアクトル ・配線用遮断器 ・電磁接触器 ・その他() (4) 盤類 1) 形式 ・閉鎖型(・キュービクル式配電盤(JIS C 4620) ・高圧スイッチギア(JEM 1425)(・CX ・CW ・PW ・MW) ・開放形配電盤 ・その他() 2) 中通路 ・有 ・無 3) 特記事項 () (4) 交流遮断器 真空遮断器(VCB) ① 操作方式 ・手動ばね操作 ・電動ばね操作 ・電磁操作 ② 引外し方式 ・電流引外し ・コンデンサ引外し ・直流電圧引外し (5) 断路器 1) 形式 ・3極単投 ・単極単投(避雷器用に限る) 2) 操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作(避雷器用に限る) (6) 負荷開閉器 1) 形式 ・配電盤用 ・引込柱用 ・地中引込用 2) 配電盤用 ① 操作方式 ・フック棒操作 ・遠方手動操作 ・電動操作 ② 限流ヒューズ ・有(ストライカ付き) ・無 ③ 引外し装置 ・ストライカ引外し ・電圧引外し ・無 3) 引込柱用 ① 本体及び制御箱の材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ② 保護装置 過電流遮断トリップ地絡方向継電器とし 制御電源用変圧器内蔵とする ③ 避雷器 ・内蔵 ・無 4) 地中引込用 保護装置は、過電流遮断トリップ地絡方向継電器とし、 制御電源用変圧器内蔵とする (7) 変圧器 1) 形式 ・油入 ・モールド 2) 設置方式 ・屋外型 ・屋内型 3) ダイアル温度計 ・有(・最大値指針 有 ・最大値指針 無) ・無 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合には必須とする (8) 連相コンデンサ 1) 形式 ・低圧 ・高圧 2) その他 ・警報接点付 ・警報接点なし 1) 絶縁方式 ・油入 ・モールド ・ガス入 2) その他 ① 内部異常を検出して動作する保護接点設けること ② 放電装置を附属又は内蔵すること (9) 直列リアクトル 1) 形式 ・放電抵抗 ・放電コイル(力率制御がある場合は必須) 2) 容量 ・6%リアクトル ・1.3%リアクトル 3) その他 ・警報接点付 ・警報接点なし (10) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (11) 低圧電磁接触器 低圧三相コンデンサ制御用電磁接触器の定格使用電流は、 コンデンサ定格電流の1.5倍以上とする。 (12) 高圧気中開閉器 1) 制御電源用変圧器及び避雷器内蔵 2) 開閉器及び地絡方向継電器外箱 ・ステンレス製 ・鋼板製 3) 定格電流 ・200A ・()A 4) 定格投入遮断電流 ・12.5kA ・()A (13) 設備不平衡 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。 (14) キュービクル等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 (14) 基礎 ・本工事(・21N/mm² ・18N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() (15) 配線ビット及び蓋 1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 (16) 設置場所 ・屋内(・地上 ・屋上) (17) 消火器 ・有(ABC10型 収納箱付) ・無 ・その他()</p> <p>(1) 電気方式 1) 種別 ① 幹線 ・三相3線式(200/100V) ② 分岐 ○三相2線式(200/100V) 2) 周波数 60Hz (2) 既設等との取合い ○無し ・壁改造 ・配線接続 ・電源供給 ・その他() (3) 機器類 ○一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯(単独設置) ○コンセント等 ○分電盤、制御盤等 ・その他() (4) 一般照明器具 1) 形式 ○公共型 ○一般型 2) 灯具 ○LED灯 ・その他() 3) 用途 ○屋内用 ○屋外用 ・防災用 4) 環境 ○普通地域 ・塩害地域 5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。 (5) 照明制御装置 1) センサ類 ・明るさセンサ ○人感センサ ・タイマ ・調光スイッチ ・その他() 2) 調光方式 ・連続調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 ・その他() 3) 制御方式 ・有線 ・無線通信 (6) 外灯(単独設置) 1) 照明用ポール ① 材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他() ② 配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。 2) 基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 3) 灯具 ・LED灯 ・その他() 4) 電源 ・商用電源(60Hz) ・(200V ・100V) ・その他() 5) 制御 ・Eスイッチ ・タイマ ・その他() 6) 接地 ・単独接地(・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他() (7) コンセント等 ○一般型 ・防水型 ・ハイテンションアウトレット(・固定型 ・上下動型(アップ式を含む)) (8) 分電盤、制御盤等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。 (9) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (10) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (11) 低圧電磁接触器 低圧三相コンデンサ制御用電磁接触器の定格使用電流は、 コンデンサ定格電流の1.5倍以上とする。 (12) 高圧気中開閉器 1) 制御電源用変圧器及び避雷器内蔵 2) 開閉器及び地絡方向継電器外箱 ・ステンレス製 ・鋼板製 3) 定格電流 ・200A ・()A 4) 定格投入遮断電流 ・12.5kA ・()A (13) 設備不平衡 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。 (14) キュービクル等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 (14) 基礎 ・本工事(・21N/mm² ・18N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() (15) 配線ビット及び蓋 1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 (16) 設置場所 ・屋内(・地上 ・屋上) (17) 消火器 ・有(ABC10型 収納箱付) ・無 ・その他()</p> <p>(1) 電気方式 1) 種別 ① 幹線 ・三相3線式(200/100V) ② 分岐 ○三相2線式(200/100V) 2) 周波数 60Hz (2) 既設等との取合い ○無し ・壁改造 ・配線接続 ・電源供給 ・その他() (3) 機器類 ○一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯(単独設置) ○コンセント等 ○分電盤、制御盤等 ・その他() (4) 一般照明器具 1) 形式 ○公共型 ○一般型 2) 灯具 ○LED灯 ・その他() 3) 用途 ○屋内用 ○屋外用 ・防災用 4) 環境 ○普通地域 ・塩害地域 5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。 (5) 照明制御装置 1) センサ類 ・明るさセンサ ○人感センサ ・タイマ ・調光スイッチ ・その他() 2) 調光方式 ・連続調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 ・その他() 3) 制御方式 ・有線 ・無線通信 (6) 外灯(単独設置) 1) 照明用ポール ① 材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他() ② 配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。 2) 基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 3) 灯具 ・LED灯 ・その他() 4) 電源 ・商用電源(60Hz) ・(200V ・100V) ・その他() 5) 制御 ・Eスイッチ ・タイマ ・その他() 6) 接地 ・単独接地(・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他() (7) コンセント等 ○一般型 ・防水型 ・ハイテンションアウトレット(・固定型 ・上下動型(アップ式を含む)) (8) 分電盤、制御盤等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。 (9) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (10) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (11) 低圧電磁接触器 低圧三相コンデンサ制御用電磁接触器の定格使用電流は、 コンデンサ定格電流の1.5倍以上とする。 (12) 高圧気中開閉器 1) 制御電源用変圧器及び避雷器内蔵 2) 開閉器及び地絡方向継電器外箱 ・ステンレス製 ・鋼板製 3) 定格電流 ・200A ・()A 4) 定格投入遮断電流 ・12.5kA ・()A (13) 設備不平衡 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。 (14) キュービクル等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 (14) 基礎 ・本工事(・21N/mm² ・18N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() (15) 配線ビット及び蓋 1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 (16) 設置場所 ・屋内(・地上 ・屋上) (17) 消火器 ・有(ABC10型 収納箱付) ・無 ・その他()</p>	<p>● 【受変電設備】</p> <p>○ 受変電設備</p> <p>(1) 電気方式 1) 種別 ・三相3線式(・6.6kV ・200V) ・三相3線式(200/100V) ・三相2線式(100V) 2) 周波数 60Hz (2) 既設との取合い ・無し ・改造(機器取替、追加等を含む) ・増設 ・配線接続 ・その他() (3) 機器類 ・変圧器 ・交流遮断器 ・断路器 ・負荷開閉器 ・変圧器 ・連相コンデンサ ・直列リアクトル ・配線用遮断器 ・電磁接触器 ・その他() (4) 盤類 1) 形式 ・閉鎖型(・キュービクル式配電盤(JIS C 4620) ・高圧スイッチギア(JEM 1425)(・CX ・CW ・PW ・MW) ・開放形配電盤 ・その他() 2) 中通路 ・有 ・無 3) 特記事項 () (4) 交流遮断器 真空遮断器(VCB) ① 操作方式 ・手動ばね操作 ・電動ばね操作 ・電磁操作 ② 引外し方式 ・電流引外し ・コンデンサ引外し ・直流電圧引外し (5) 断路器 1) 形式 ・3極単投 ・単極単投(避雷器用に限る) 2) 操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作(避雷器用に限る) (6) 負荷開閉器 1) 形式 ・配電盤用 ・引込柱用 ・地中引込用 2) 配電盤用 ① 操作方式 ・フック棒操作 ・遠方手動操作 ・電動操作 ② 限流ヒューズ ・有(ストライカ付き) ・無 ③ 引外し装置 ・ストライカ引外し ・電圧引外し ・無 3) 引込柱用 ① 本体及び制御箱の材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ② 保護装置 過電流遮断トリップ地絡方向継電器とし 制御電源用変圧器内蔵とする ③ 避雷器 ・内蔵 ・無 4) 地中引込用 保護装置は、過電流遮断トリップ地絡方向継電器とし、 制御電源用変圧器内蔵とする (7) 変圧器 1) 形式 ・油入 ・モールド 2) 設置方式 ・屋外型 ・屋内型 3) ダイアル温度計 ・有(・最大値指針 有 ・最大値指針 無) ・無 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合には必須とする (8) 連相コンデンサ 1) 形式 ・低圧 ・高圧 2) その他 ・警報接点付 ・警報接点なし 1) 絶縁方式 ・油入 ・モールド ・ガス入 2) その他 ① 内部異常を検出して動作する保護接点設けること ② 放電装置を附属又は内蔵すること (9) 直列リアクトル 1) 形式 ・放電抵抗 ・放電コイル(力率制御がある場合は必須) 2) 容量 ・6%リアクトル ・1.3%リアクトル 3) その他 ・警報接点付 ・警報接点なし (10) 配線用遮断器 定格遮断容量は、短絡電流値以上のものとする。 (11) 低圧電磁接触器 低圧三相コンデンサ制御用電磁接触器の定格使用電流は、 コンデンサ定格電流の1.5倍以上とする。 (12) 高圧気中開閉器 1) 制御電源用変圧器及び避雷器内蔵 2) 開閉器及び地絡方向継電器外箱 ・ステンレス製 ・鋼板製 3) 定格電流 ・200A ・()A 4) 定格投入遮断電流 ・12.5kA ・()A (13) 設備不平衡 高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が3.0%以下となるようにする。 (14) キュービクル等 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)に定める事項に加えて、 施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上(キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。)とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は壁内の作業のしやすい場所に設ける。 (14) 基礎 ・本工事(・21N/mm² ・18N/mm²) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() (15) 配線ビット及び蓋 1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 (16) 設置場所 ・屋内(・地上 ・屋上) (17) 消火器 ・有(ABC10型 収納箱付) ・無 ・その他()</p>	<table border="1"> <tr> <td>工事名</td> <td colspan="3">辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事</td> </tr> <tr> <td>施工箇所</td> <td colspan="3">亀山市辺法寺地内</td> </tr> <tr> <td>図面の種類</td> <td colspan="3">建築電気設備特記仕様書(2)</td> </tr> <tr> <td>縮尺</td> <td>—</td> <td>図面番号</td> <td>AE-2</td> </tr> <tr> <td>事業者名</td> <td colspan="3">亀山市</td> </tr> </table>	工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事			施工箇所	亀山市辺法寺地内			図面の種類	建築電気設備特記仕様書(2)			縮尺	—	図面番号	AE-2	事業者名	亀山市		
機器種別	○ 特定の施設		● 一般の施設																																														
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																													
上層階、 屋上及び塔屋	機器 2.0 防振支持の機器 2.0 水槽類 2.0	1.5 1.0 1.5	1.5 2.0 1.5	1.0 1.5 1.0																																													
中間階	機器 1.5 防振支持の機器 1.5 水槽類 1.5	1.0 1.5 1.0	1.0 1.5 0.6	0.6 1.0 0.6																																													
地下、1階	機器 1.0 防振支持の機器 1.0 水槽類 1.5	0.6 1.0 1.0	0.6 1.0 1.0	0.4 0.6 0.6																																													
工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事																																																
施工箇所	亀山市辺法寺地内																																																
図面の種類	建築電気設備特記仕様書(2)																																																
縮尺	—	図面番号	AE-2																																														
事業者名	亀山市																																																

直付型 40形		ウォールライト 20形	
A	LSS1-4-48	B	LED 14.9W
2種金属線びに取付 保護ガード付 (一般型)		 <p>【参考仕様】 取付型：Oと(取付)センサー・Eセンサー付(O/N/OFF型) 6000K、高圧ナトリウムランプ寿命4000時間(点滅時寿命5%) 本体：スチレンス、21mm(厚み)カラーホワイト(乳白) 設置付型、保護等級：IP23</p>	



1階平面図 S=1/50

【注記】

1. 図中記入なき配線は下記による。

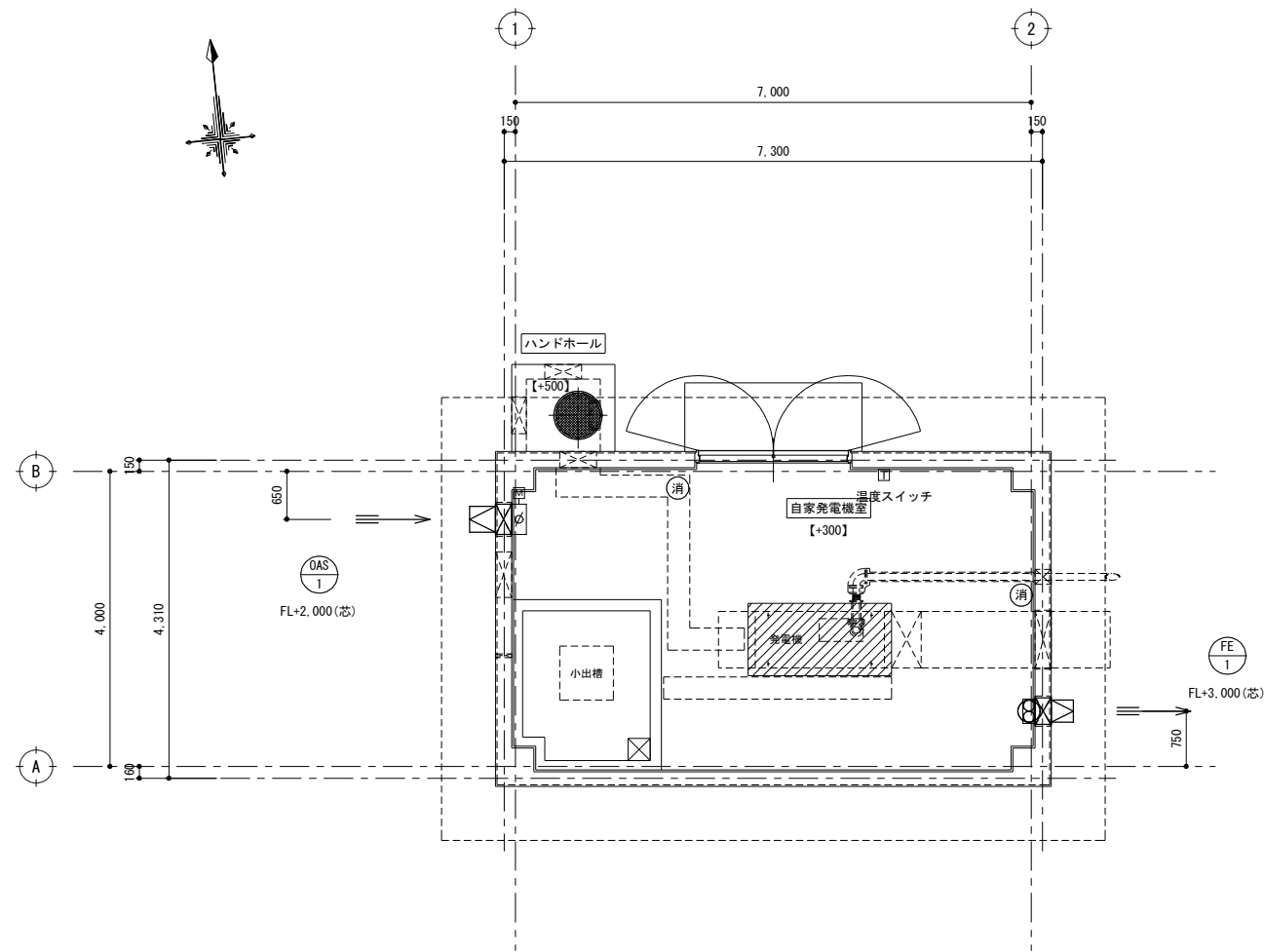
EM-1E1.6×2, E1.6	(金属線び内)
EM-1E1.6×3, E1.6	(金属線び内)
EM-1E2.0×2, E2.0	(金属線び内)
EM-1E2.0×2, E2.0	(E19)
EM-1E1.6×2	(PF16)
EM-1E1.6×2, E1.6	(PF16)
EM-1E1.6×2, E1.6	(PF16)
EM-1E2.0×2, E2.0	(PF16)

(嵩上げコンクリート内の床配管は不可)

【凡例】

●	埋込スイッチ	1P15A
⊙	埋込接地端子付接地コンセント	2P15A(E付)×2+ET
⊙	ジャンクションボックス	壁付 機器接続用 (ノズルプレート付)
≡	2種金属線び	(取付高 H=3200) A型 (40×30)
⊞	ジャンクションボックス	金属線び用
≡	電線管接続金具	金属線び用
⊞	プルボックス	SS 150×150×150 Z35
⊞	換気扇用温度スイッチ	建築機械設備支給品 [配線接続は本工事]

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	建築電気設備図		
縮尺	1:50	図面番号	AE-4
事業者名	亀 山 市		



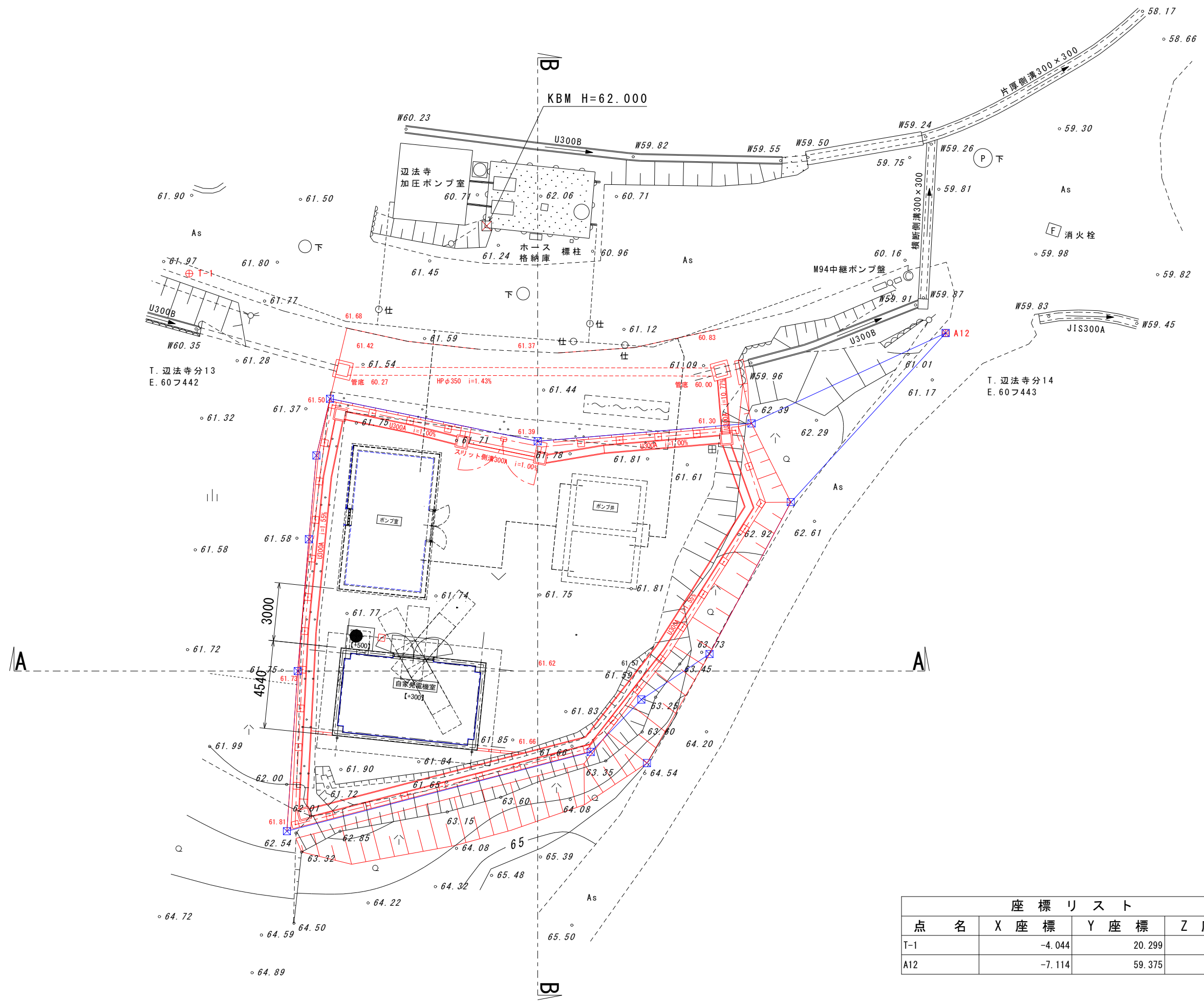
1階平面図 S=1/50

換気機器表

記号	名称	機器仕様	電源			台数	設置場所	備考
			相	V	W			
FE-1	有圧換気扇	低騒音形有圧換気扇	1	100	50	1	自家発電機室	参考: EWF-25ASA2
		躯体開口寸法: 360x360						機外静圧 (Pa): 50
		風量 (m ³ /h): 600						消費電力 (W): 50
		羽根径 (cm): 25						
		鋼板製電動シャッター						
		ステンレス製ウェザーカバー (防虫網付)						
		不燃枠						鉄線製バックガード
OAS-1	給気口	寸法: 300x300	1	100	1	自家発電機室	FE-1と連動	躯体開口寸法: 410x410
		鋼板製電動シャッター						
		深形ステンレス製ウェザーカバー (防虫網付)						
		不燃枠						
T	温度スイッチ	壁付 0~50° 設定 自動運転・切・手動運転切り替え式 (制御配線は、建築電気設備工事)				1	自家発電機室	参考: FS-6TE3
(消)	粉末消火器	ABC-10型 3kg 表示付スタンド共				2	自家発電機室	

工事名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	建築機械設備図		
縮尺	1:50	図面番号	AM-3
事業者名	亀山市		

計画平面図 S=1:100



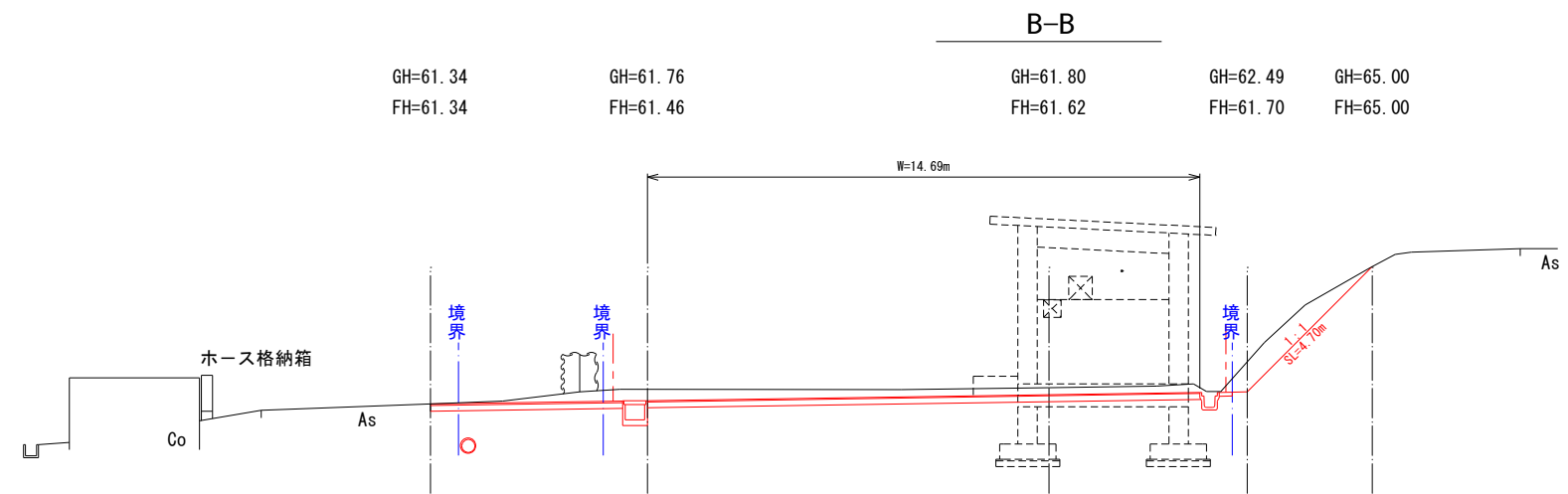
T. 辺法寺分13
E. 60フ442

T. 辺法寺分14
E. 60フ443

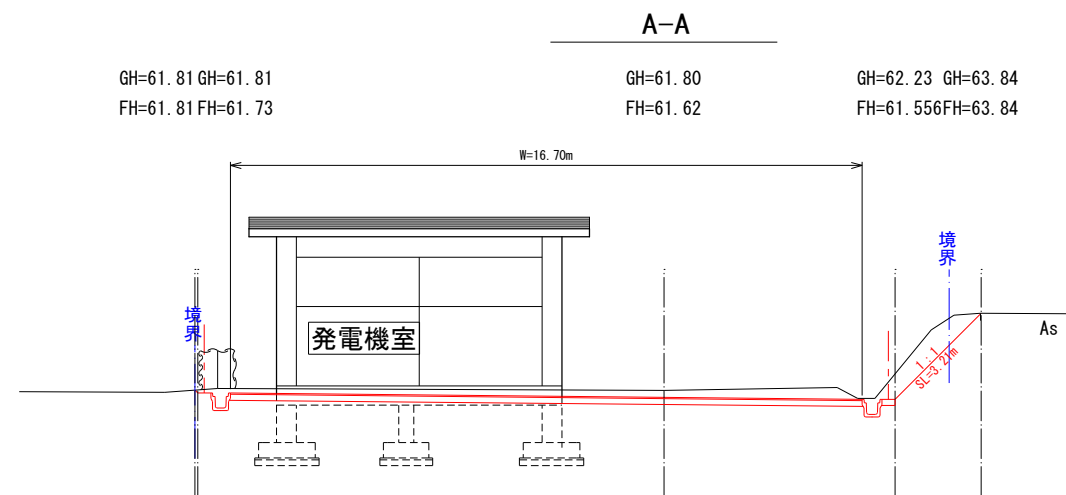
座標リスト			
点名	X座標	Y座標	Z座標
T-1	-4.044	20.299	61.933
A12	-7.114	59.375	60.762

事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	計画平面図		
縮尺	1:100	図面番号	C-1
事業者名	亀山市		

計画横断面図 S=1:100



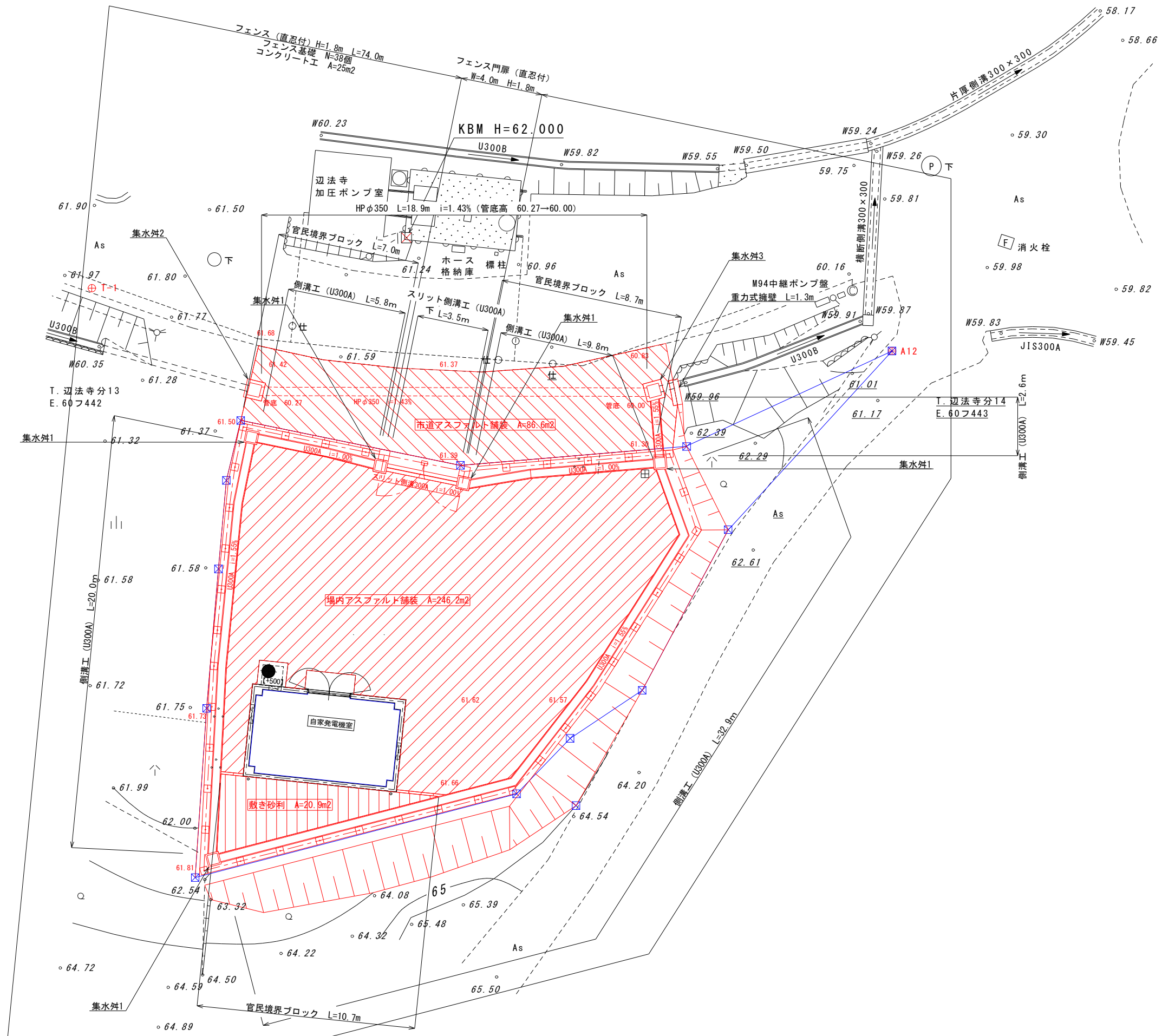
DL=55.00



DL=55.00

事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	計画横断面図		
縮尺	1:100	図面番号	C-2
事業者名	亀山市		

付帯工平面図 S=1:100



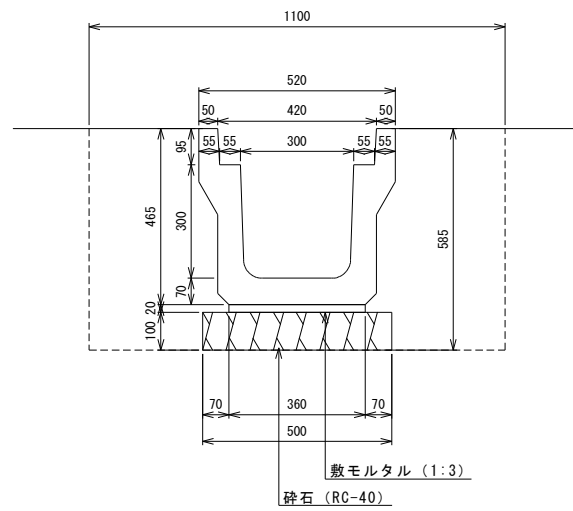
事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	付帯工平面図		
縮尺	1:100	図面番号	C-3
事業者名	亀山市		

付帯工詳細図(1)

場内整備側溝工 (U300A)

S=1:10

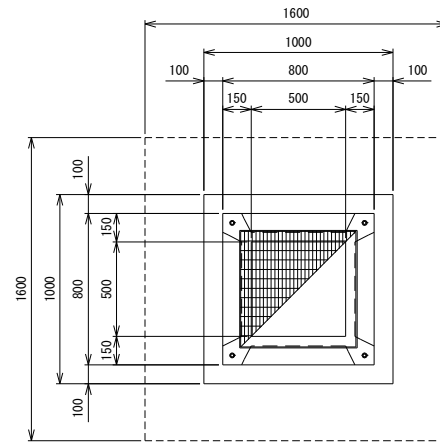
断面図



集水柵 1

S=1:20

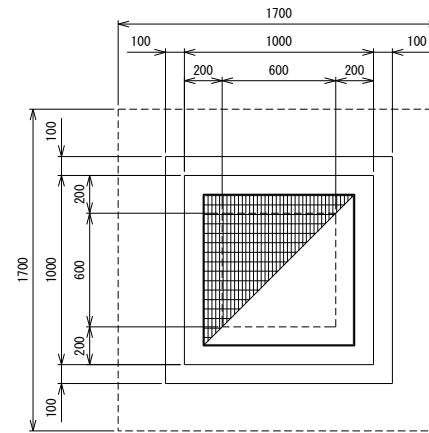
平面図



集水柵 2

S=1:20

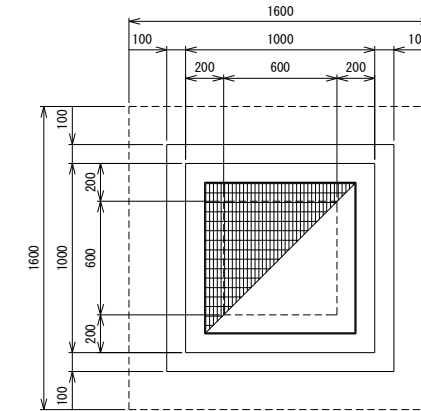
平面図



集水柵 3

S=1:20

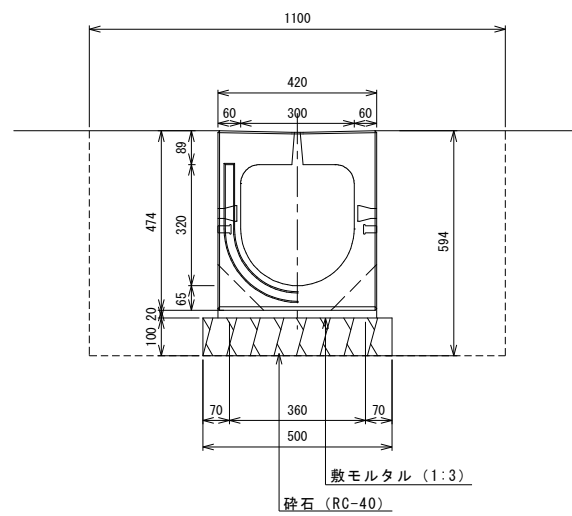
平面図



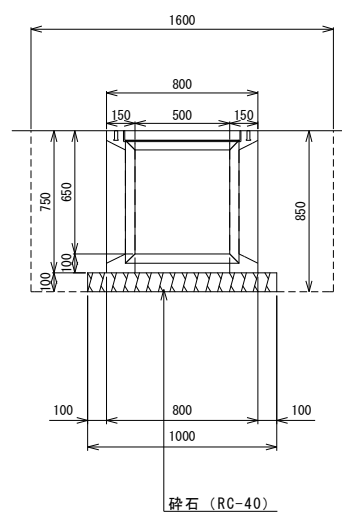
場内整備側溝工 (スリット側溝300A)

S=1:10

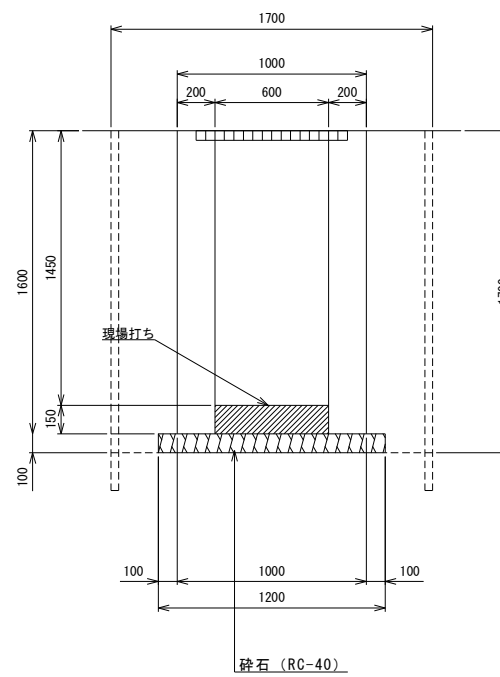
断面図



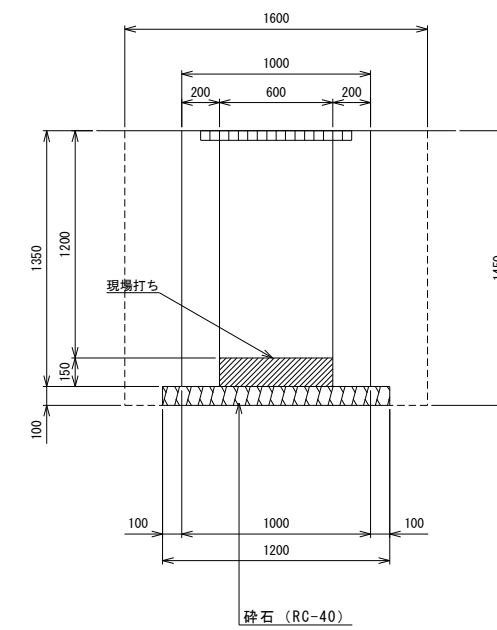
断面図



断面図



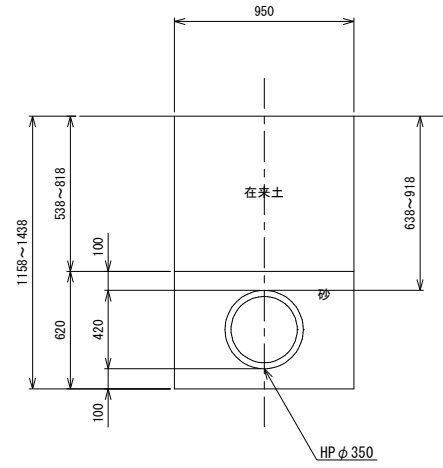
断面図



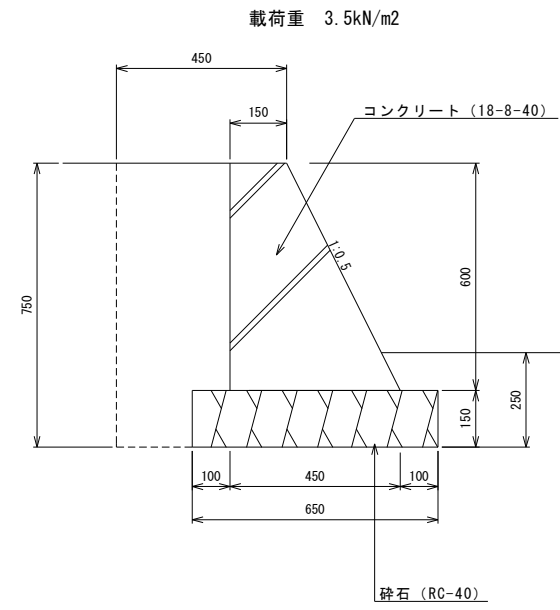
事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	付帯工詳細図(1)		
縮尺	1:10, 20	図面番号	C-4
事業者名	亀 山 市		

付帯工詳細図(2)

排水管布設工 (HP φ 350)
S=1:20

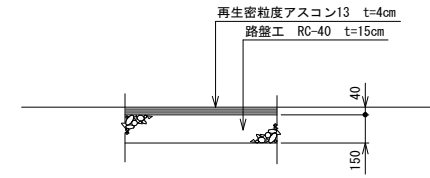


重力式擁壁工
S=1:10

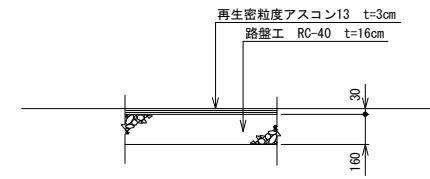


舗装工
S=1:20

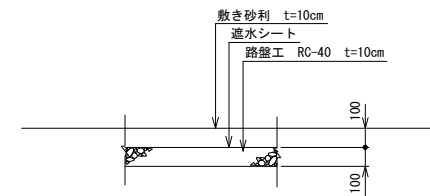
市道舗装構成図



場内舗装構成図

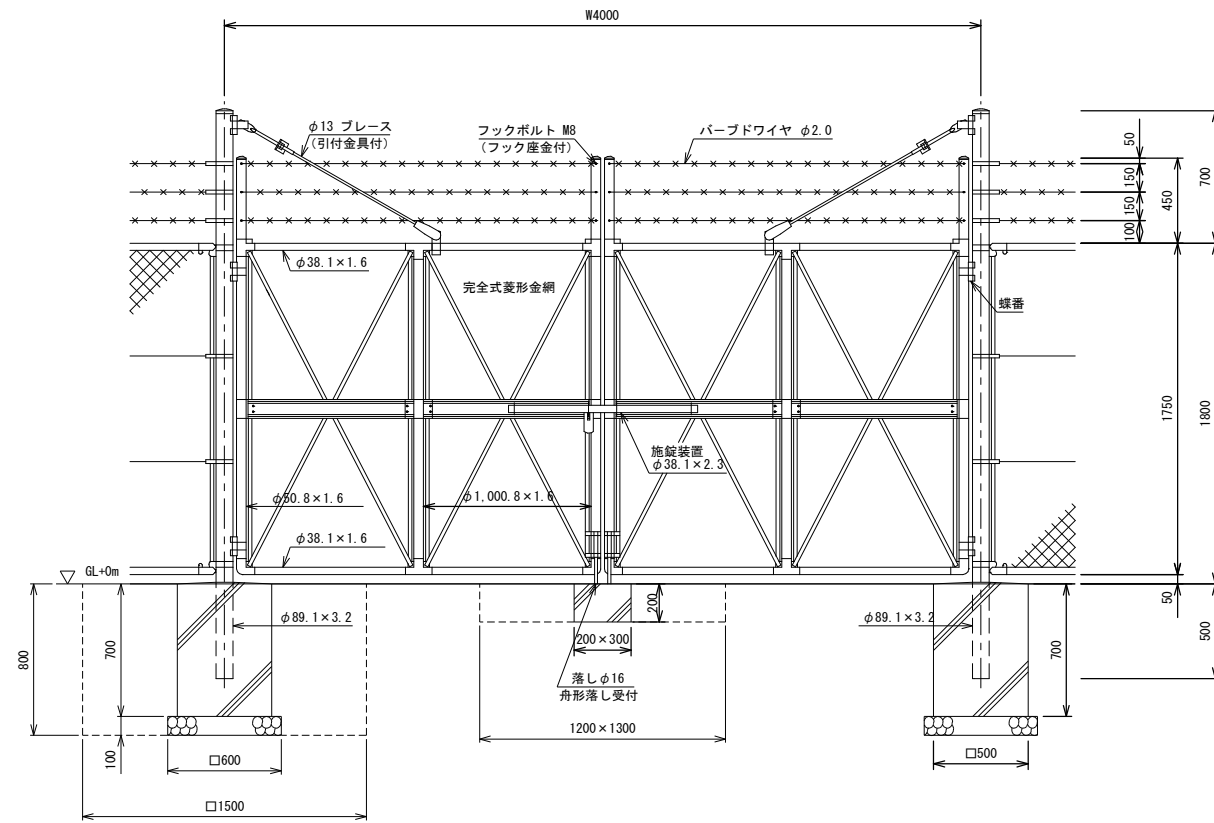


場内舗装構成図

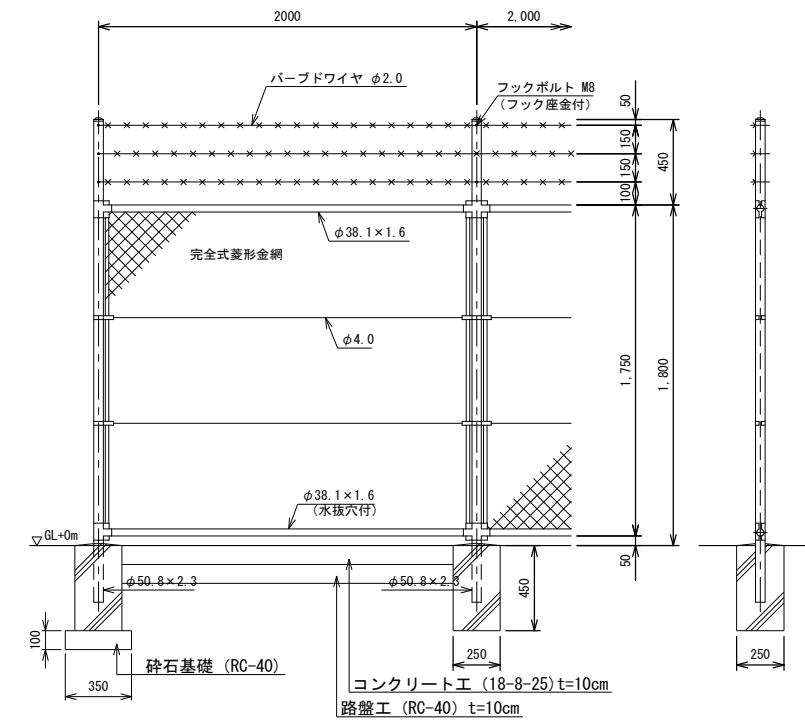


事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	付帯工詳細図(2)		
縮尺	1:10, 20	図面番号	C-5
事業者名	亀 山 市		

両開き門扉 H1800×W4000 (直忍付)



フェンスh=1.8m (忍付)



() は法面部を示す。

※ 外壁の基調色、屋根色は、亀山市景観計画 一般地区「山地・丘陵部地域」基準の範囲内色彩で、監督員と協議の上決定すること。
フェンス色：グレー

事業名	辺法寺加圧ポンプ場非常用発電機室 建築工事		
施工箇所	亀山市辺法寺地内		
図面の種類	フェンス詳細図		
縮尺	1:20	図面番号	C-6
事業者名	亀 山 市		